

昭和60年度  
事業報告書

自 昭和60年4月1日  
至 昭和61年3月31日

社団法人 日本病院会

# 目 次

## 昭和60年度事業報告

第1	会務報告	1
第2	会 議	9
第3	広 報	36
第4	委 員 会	42
第5	医療従事者無料職業紹介事業	57
第6	定例研究会	58
第7	全国研究会	67
第8	職場リーダー研修会	82
第9	第25回病院視察研究会	84
第10	診療録管理通信教育	85
第11	メディカルクラーク通信教育	88
第12	事務長養成課程通信教育	89
第13	セミナー	91
第14	病院幹部医会	99
第15	海外視察研究会	101
第16	調 査 室	102
第17	医療費対策および病院大会	103
第18	第35回日本病院学会	106
第19	第26回日本人間ドック学会	110
第20	第11回日本診療録管理学会	114
第21	'85国際モダンホスピタルショウ実施概要	118
附録	要 望 書	123
	役 員 名 簿	146
	委員会委員名簿	154
	会 員 状 況	165

# 第 1 会 務 報 告

60年

- 4月2日 諸橋会長 日医、丸山常任理事と医療制度特に看護問題について意見交換
- 4月8日 諸橋会長 救世軍本部役員と懇談
- 4月13日 第72回診療録管理研究会を順天堂浦安病院で開催 38病院54名参加  
60年度研究会スタート
- 4月17日 観桜会開催 河野・有澤・竹本副会長出席
- 4月19日 諸橋会長 長野県病院協会招聘講演
- 4月24日 厚生省健康政策局の『中間施設に関する懇談会』初会合 諸橋会長 委員として参画
- 4月29日 春の叙勲・褒章発表  
本会推せんの岡山義雄理事勲四等瑞宝章を受章  
6月15日 藍綬褒章受章の財津晃代議員会議長 安藤静男理事と併せて祝賀会を東條会館  
で開宴
- 4月30日 諸橋会長 大韓病院協会の第26次総会出席のため釜山へ
- 5月11日 アジア病院連盟スタディツアーがインドネシア ジャカルタを中心に実施、竹本副会長  
(アジア病院連盟理事)が出席
- 5月13日 厚生省健康政策局『医薬税制に関する研究会』発足 有澤副会長 委員として出席
- 5月18日 総会を全共連ビルで開催  
昭和59年度事業報告、同収支決算報告を承認、併せて理事2名、代議員9名の補選を実施  
引き続き行天良雄参与(NHK解説委員)の講演
- 5月22日 諸橋会長 自民党国民生活局関係友好団体の懇談会に出席  
社会保険診療報酬に係る事業税の非課税措置の存続を要請
- 5月23日 諸橋会長 三重県病院協会招聘講演
- 5月29日 春の園遊会に小野肇理事出席
- 5月30日 厚生省幹部技官と諸橋会長他懇談
- 5月24日 国際病院学会をプエルトリコ・サンファンで開催、ツアー人員20名 早石修大阪医科大学学  
長招聘講演「Medical Research and its impact on future society」
- 5月25日 和歌山県支部 総会開催
- 6月5日 病院管理マニュアル完成  
病院医療の質を自己評価
- 6月14日  
～16日 '85 国際モダンホスピタルショウを東京池袋サンシャインで開催、延べ37,000名出席

- 6月15日 常任理事会で中小病院の問題解決のため委員会設置 西能、高山、平野、菱山の各常任理事が担当
- 6月30日 高知県に本会4番目の支部発会、支部長に近藤慶二常任理事就任
- 7月1日 通信教育開講
- 7月11日 諸橋会長 黒木武弘医療保険担当審議官と現下の診療報酬について意見交換
- 8月1日 諸橋会長 自民党社会部会で事業税の非課税措置の存続を要望
- 8月9日 台湾の第18回年次総会に若月副会長出席
- 8月19日 厚生省と日医の合同研究会『病院機能評価に関する研究会』が初会合、丹野常任理事が出席
- 8月22日 第26回日本人間ドック学会が河野稔学会長のもと、東京・ゆうぼうとを会場に6,300名  
～23日 の参加者で開催  
初めての試みとしてヘルス展を併行開催
- 8月24日 病院長セミナー開催 ダイヤモンドホテルで166名が参加  
25日
- 8月29日 総婦長セミナーを主婦の友会館で97名の参加者のもと開催  
30日
- 8月31日 本会理事で政治連盟委員長でもある吉岡観八新千里病院長が死亡、69歳 10月9日勲四等瑞宝章受章
- 9月6日 諸橋会長 加藤六月自民党税制調査部会長に社会保険診療報酬に係る事業税の非課税措置の存続を8月28日小沢辰男衆議院議員に引き続き陳情
- 9月14日 全日本病院学会の看護シンポに遠山顧問が座長として出演
- 9月19日 遠山豪学会長による第35回日本病院学会が伊勢市観光文化会館で“伊勢から病院に光を”  
～21日 の主テーマのもと延5,000名参集、一般演題209題
- 9月24日 厚生省新旧幹部と正副会長が懇談  
” 四病団、自民党税制調査会に対して税制に関する要望書提出
- 9月28日 前常任理事・大野松次京浜総合病院会長 死亡
- 10月4日 昭和60年度社会保険診療報酬支払基金関係功績者として有澤副会長、丹野清喜、平野一弥常任理事が厚生大臣表彰を受章
- 10月17日 第11回日本診療録管理学会が福岡都久志会館で兵働貞夫・浜の町病院長を学会長に600名の参加のもと開催 一般演題26題
- 10月28日 病院事務管理マニュアル発行  
病院事務のフローチャートを集大成
- 10月29日 日本病院会顧問議員団発足  
衆議院議員16名 参議院議員7名が参画、世話人代表として小沢辰男議員

- 10月30日 秋の園遊会に遠山豪顧問出席
- 11月3日 秋の叙勲・褒章者発表  
太田元次理事に勲三等瑞宝章 丹野清喜常任理事 金子保彦理事に藍綬褒章 11月30日に  
ダイヤモンドホテルで祝賀会開催
- 11月7日 無料職業紹介事業許可更新  
11月30日から2年間
- 11月11日 放射線研究会が研究会活動を集大成した「放射線科運営の実際」を発刊
- 11月12日 病院大会開催  
診療報酬10.6%引き上げ、社会保険診療報酬に係る事業税の非課税措置の存続を決議  
来賓として三師会の他衆議院議員111名、参議院議員41名参加、出席者総数993名
- 11月18日 諸橋会長他、日医吉田常任理事に対して診療報酬改定に際して病院側の立場を説明
- 11月20日 本会推せんの水原郷病院・桶井栄美総婦長が社会貢献者表彰受賞
- 11月25日 諸橋会長 厚生省水田援護局長、木戸審議官と懇談
- 11月29日 国立病院100病院が入会
- 11月30日 諸橋会長他、厚生省古川審議官 谷医療課長に診療報酬について事情説明
- 12月1日 第5次韓国研修団来訪  
～7日 近畿大学付属病院他を視察
- 12月18日 前常任理事・榎本敏雄前静岡厚生病院長死亡 享年67才
- 12月20日 諸橋会長 自民党本部へ61年度予算に対する要望のため出席
- 12月21日 次期（自61年4月1日 至64年3月31日）役員選出にむけ選挙告示通知
- 61年
- 1月9日 諸橋会長他、診療報酬改定について厚生省古川保険担当審議官及び谷保険局医療課長と打  
ち合わせ、要望書提出
- 1月10日 諸橋会長他、診療報酬改定について日本医師会羽田会長 吉田常任理事と打ち合わせ、要  
望書提出
- 1月20日 諸橋会長 今井勇厚生大臣と懇談
- 1月29日 賛助会員との新年賀詞交歓会を東條会館で開催
- 2月3日 元理事・安田久前石巻赤十字病院院長死亡 78歳
- 2月6日 四病団、日医吉田常任理事に診療報酬改定の要望
- 2月8日 諸橋会長他 中医協・立花銀三委員と懇談
- 2月22日 全理事会終了後 老人保健施設について黒木武弘老人保健部長講演
- 2月28日 大浜方栄議員に対し老人保健施設の設置基準他について疑義要望

- 3月13日 用度研究会開催  
60年度定例、全国研究会を事業計画どおりに終了  
76回開催 延べ5,281名参加
- 3月15日 診療報酬改定説明会開催、東京・江戸川区総合文化センター 513名、神戸西山記念会館  
16日 534名参加
- 3月22日 代議員会・総会開催  
61年度事業計画 予算承認 新執行部決定  
次期(自61年4月1日 至64年3月31日)会長として諸橋現会長再選 副会長も重任
- 3月29日 診療録管理通信教育第24期生認定式 認定者総数1,017名

## 庶務・人事

### 叙勲・褒章(会員病院)

4月29日 勲三等旭日中綬章

三辺武右衛門(元関東通信病院副院長・70・東京)

勲三等瑞宝章

香川 修事(元東京都立府中病院長・70・東京)

鶴丸 広長(元佐賀県立病院好生館長・70・佐賀)

丹羽 直久(武蔵野赤十字病院長・72・東京)

勲四等瑞宝章

有泉 信(元住吉病院長・74・山梨)

大倉正二郎(元社会保険蒲田総合病院長・71・東京)

岡山 義雄(岡山病院長・73・愛知)

勲五等双光旭日章

松本 樺太(右田病院長・79・東京)

勲五等瑞宝章

井本多津子(公立学校共済組合近畿中央病院看護部長・58・兵庫)

小幡 鋭治(元有隣病院放射線科長・63・東京)

小元キヨ子(健保総合川崎中央病院総看護婦長・58・神奈川)

近藤 栄(元トヨタ病院放射線科技師長・68・愛知)

城野美代子(野江病院看護婦長・58・大阪)

温井 みさ(元東京慈恵会医科大学附属病院総婦長・65・東京)

水野 重晴(元熊本市民病院放射線科技師長・65・熊本)

安田ミサヲ (慈圭病院看護部長・64・岡山)

勲六等单光旭日章

西村與左衛門 (元ヴォーリス記念病院放射線科技師・68・滋賀)

勲六等宝冠章

安東ちさと (元県立愛知病院総看護婦長・70・愛知)

井川 信子 (千葉社会保険病院総看護婦長・63・千葉)

沖西喜代美 (東京厚生年金病院総看護婦長・55・東京)

鹿又寿美恵 (元河北総合病院総婦長・65・東京)

坂本 たま (元東京都立大久保病院看護科長・59・東京)

佐藤トシ子 (長津田厚生総合病院総看護婦長・71・神奈川)

住岡 節 (元日生病院看護部副部長・62・大阪)

高田 敏枝 (元富山厚生連滑川病院総看護婦長・61・富山)

東城 光江 (前橋赤十字病院看護部副部長・57・群馬)

中川ウメコ (元東京厚生年金病院総看護婦長・60・東京)

深堀とめこ (元東京都立荏原病院看護婦・70・東京)

前波ミサヲ (元大阪掖済会病院総看護婦長・64・大阪)

勲六等瑞宝章

藤岡ひとみ (元国家公務員共済組合新香里病院看護部長・61・大阪)

堀田 君江 (峡西病院病棟婦長・61・山梨)

藍 綬 褒 章

安藤 静男 (山形市立病院済生館長・64・山形)

財津 晃 (長浜赤十字病院長・64・滋賀)

10月9日 勲四等瑞宝章

吉岡 観八 (新千里病院長・69・大阪)

11月3日 勲三等旭日中綬章

田中 敏行 (元大阪通信病院長・70・大阪)

丸山 英太 (元国立久留米病院長・71・福岡)

勲三等瑞宝章

石倉 愧 (元松江赤十字病院長・71・島根)

太田 元次 (名古屋掖済会病院長・71・愛知)

大屋 拳吾 (元神戸市立中央市民病院長・72・兵庫)

小林誠之助 (元新潟県立小出病院長・71・新潟)

二宮 春海 (横須賀共済病院長・71・神奈川)

#### 勲四等旭日小綬章

細田 精一 (元済生会滋賀県病院長・70・滋賀)

#### 勲四等瑞宝章

勝野 六郎 (元東京都立駒込病院長・71・東京)

近藤 良一 (社会保険栗林病院長・70・香川)

町田 速雄 (上町病院長・76・高知)

山元 利文 (元総合病院健康保険滋賀病院長・72・滋賀)

#### 勲五等瑞宝章

有泉 和子 (元住吉病院病棟婦長・58・山梨)

遠藤 知子 (倉敷中央病院総婦長・59・岡山)

大久保ミヨ子 (社会保険中央総合病院総看護婦長・59・東京)

川竹ミツエ (元国立久留米病院総看護婦長・60・福岡)

國分 君子 (元神奈川県立こども医療センター総看護婦長・60・神奈川)

小竹 英子 (元竹田総合病院総看護婦長・65・福島)

斎藤 功 (元福島県立会津総合病院臨床検査技師長・66・福島)

三澤 文子 (京都第二赤十字病院看護部長・60・京都)

湊 まつ (浜松赤十字病院・60・静岡)

#### 勲六等宝冠章

小林一二野 (元東京都職員共済組合青山病院看護科長・63・東京)

澤頭 敏子 (元市立長浜病院総看護婦長・61・滋賀)

高山ふみ子 (元山形県立鶴岡病院副総看護婦長・60・山形)

西川 政子 (聖バルナバ病院総婦長・62・大阪)

長谷川カツノ (元新潟県立松代病院看護部長・58・新潟)

福本 貞子 (元鳥取県立中央病院婦長・58・鳥取)

溝口アツ子 (大阪厚生年金病院総看護婦長・58・大阪)

宮田 ちか (元順天堂医院看護部長・61・東京)

奥山タマヨ (元心臓病センター榊原病院・61・岡山)

川手二三江 (加納岩総合病院病棟主任看護婦・63・山梨)

小見山須美江 (御殿場病院看護婦・67・静岡)

黄 綬 褒 章  
山内 富和 (琴の浦リハビリテーションセンター附属病院更生部長・59・  
和歌山)

藍 綬 褒 章  
金子 保彦 (岩手県立中央病院長・62・岩手)  
丹野 清喜 (水戸済生会総合病院長・62・茨城)  
靱井 真美 (東国東地域広域国民健康保険総合病院長・59・大分)

## 人 事

### 1. 理 事

(就 任)

5月18日 神奈川県・崖 節也 (秦野赤十字病院)  
高知県・長崎 彬 (高知赤十字病院)

(退 任)

3月31日 静岡県・細川 一郎 (静岡赤十字病院・院長交代)  
島根県・石倉 愧 (松江赤十字病院・院長交代)  
8月31日 大阪府・吉岡 観八 (新千里病院・死亡)  
61年2月14日 東京都・野辺地篤郎 (聖路加国際病院・院長交代)

### 2. 代議員

(就 任)

5月18日 宮城県・小野寺淳次郎 (宮城健康保険病院)  
秋田県・五十嵐 卓 (仙北組合総合病院)  
山形県・篠田 昭男 (篠田総合病院)  
京都府・中橋 弥光 (西陣病院)  
和歌山県・前川 暢夫 (和歌山赤十字病院)  
福岡県・佐々木勇之進 (恵愛会福岡病院)  
佐賀県・井口 潔 (佐賀県立病院好生館)  
宮崎県・永田 高見 (宮崎県立延岡病院)  
鹿児島県・時任 純孝 (鹿児島市立病院)

(退 任)

3月31日 宮城県・女川 浩 (仙台赤十字病院・院長交代)  
京都府・塩津 徳晃 (公立南丹病院・院長交代)

佐賀県・鶴丸 廣長 (鹿児島市立病院・院長交代)

鹿児島県・上高原勝美 (佐賀県立病院好生館・院長交代)

7月10日 栃木県・松本 清一 (自治医科大学附属病院・院長交代)

9月28日 広島県・岡田 泰二 (岡田病院・退会)

61年1月19日 福岡県・原 安彦 (香椎原病院・死亡)

3月22日 島根県・森本 正紀 (森本産婦人科病院・退会)

### 3. 参 与

(就 任)

10月26日 大池 真澄 (厚生省病院管理研究所長)

### 4. 事務局

(入 社)

2月1日 大内 全

(退 職)

1月31日 夏目 登

## 第 2 会 議

### 総 会

#### 第 1 回総会

5月18日(土) 全共連ビル会議室 出席 71 名

1. 59年度事業報告に関する件

原案どおり承認

2. 59年度収支決算及び監査報告に関する件

報告を了承

3. 理事の退任及び補選について

退任 細川 一郎 (静岡赤十字病院長)

〃 石倉 愷 (松江赤十字病院長)

就任 崖 節也 (秦野赤十字病院長)

〃 長崎 彬 (高知赤十字病院長)

4. 代議員の退任・就任について

退任、就任各 9 名を承認

退任 女川 浩 ・ 峯木 照夫 ・ 篠田 秀男 ・ 塩津 徳晃

内藤 行雄 ・ 吉川 東陽 ・ 鶴丸 廣長 ・ 船渡 護

上高原勝美 各先生

就任 小野寺淳次郎・五十嵐 卓・篠田 昭男・中橋 彌光・前川 暢夫

佐々木勇之進・井口 潔・永田 高見・時任 純孝 各先生

#### 第 2 回総会

3月22日(土) ダイヤモンドホテル 出席 139 名

1. 昭和61年度事業計画案に関する件

原案どおり承認

2. 昭和61年度予算案に関する件

原案どおり承認、一般会計 40,230 万円

### 代 議 員 会

#### 第 1 回代議員会

5月18日(土) 全共連ビル会議室 出席 30 名

1. 59年度事業報告に関する件

原案どおり承認

2. 59年度収支決算及び監査報告に関する件  
報告を了承
3. 理事の退任及び補選について  
退任、就任各2名を承認（総会を参照）
4. 代議員の退任・就任について  
退任、就任各9名を承認（総会を参照）

## 第2回代議員会

3月22日(土) ダイヤモンドホテル 出席 30名

1. 昭和61年度事業計画案に関する件  
原案どおり承認
2. 昭和61年度予算案に関する件  
原案どおり承認
3. 次期役員の改選に関する件  
改選日を3月22日に変更することで了承

## 第3回代議員会（次期代議員による）

3月22日(土) ダイヤモンドホテル 出席 66名

1. 代議員会議長選出の件  
財津晃氏の再選を承認
2. 代議員会副議長選出の件  
河井博氏の再選を承認
3. 監事選出の件  
戸川潔（再選）、青山松次衛の選出を承認
4. 理事選出の件  
理事候補者60名を承認

## 理 事 会

### 第1回理事会

4月27日(土) 番町グリーンパレス 出席 46名

1. 会員の入退会について  
正会員入会8件、正会員退会4件、賛助会員入会1件、賛助会員退会2件を承認（4月27日現在 正会員1,904会員、賛助会員393会員）
2. 短期人間ドック実施指定病院について

- 2 施設を承認  
東京都 公立昭和病院（2床）  
茨城県 うしお病院（2床）
3. 昭和59年度事業報告について  
報告を了承
4. 昭和59年度収支決算報告及び監査報告について  
報告を了承
5. 理事、代議員の退任について  
理事2名の退任、代議員退任、就任各6名を承認
6. 第25回日本人間ドック学会収支決算報告について  
報告を了承
7. 昭和60年度“愛の血液助け合い運動”の後援について  
後援を承認
8. 制度委員会委員の委嘱について  
2委員会4名の就任を承認  
○広報委員会 榑 天川 勉 先生  
○医療制度委員会 榑 大道 学 ・ 星 源之助 ・ 石原 信吾 各先生
9. 醫道顕彰会の顧問就任依頼について  
諸橋芳夫会長の就任を承認
10. (社)日本能率協会“ホスピタルマネジメント研究発表会”の後援名義依頼について  
後援名義を承認
11. 病院診療報酬について  
各役員の見解を基に今後も引き続き改定を推進することです承
12. 病院経営について  
現状報告を了承、又、減点査定に関連した一部負担金の返還については継続審議
13. 病院税制について  
税制に関する要望を社労委員長、国会議員各位に要望した報告を了承
14. 厚生省の“中間施設に関する懇談会”について  
本会として小委員会を設置し、本会案を作成することです承
15. 厚生省の“看護制度検討会”について  
現状報告を了承
16. 病院長セミナーの開催について

プログラム(案)の検討の結果、(案)を了承

17. 昭和60年度春の叙勲、褒章受章に伴う祝賀会の開催について  
叙勲に岡山義雄理事、褒章に財津晃代議員会議長、安藤静男理事の受賞が内定し、3月15日(土)に祝賀会を開催することを了承
18. 臨床研修研究会について  
第3回研究会を国保旭中央病院で開催する旨の報告を了承
19. 診療報酬改定影響率調査等の集計処理に伴うパソコン導入について  
詳細について大道学常任理事、三宅浩之委員長で検討することで了承
20. 医薬品流通近代化協議会について  
開催報告を了承
21. 各種制度委員会、研究会、セミナーの開催結果について  
報告を了承
22. 事務局組織分掌規程の施行について  
組織規程(規3号)を総務、企画広報、学術研修各部とし、事務局組織分掌規程の改正、施行を了承
23. 政治連盟の活動について  
現状報告を了承
24. 四病院団体連絡協議会の開催結果について  
現況報告を了承
25. 救急医療、ヘリコプターシステムの拡充について  
次回報告にて了承
26. '85国際モダンホスピタルショウの進捗状況について  
状況報告を了承
27. 日医の社会保険診療報酬検討委員会(小委員会)について  
委員会報告を了承
28. 第35回日本病院学会の進捗状況について  
状況報告を了承
29. 川崎医療短期大学医療電子技術科新設の推せんについて  
本会として推せんすることです承

## 第2回理事会

9月18日(土) 三重県・鳥羽国際ホテル 出席 47名

1. 最近の医療費の動向について

(1) 医療保険について

11月12日開催の“国民医療を守る全国病院大会”において診療報酬適正化等を主張することです承

(2) 老人保健について

一部負担額増に対し本会としては反対であり、日医と一緒の病院大会実施を常任理事会において再度協議することです承

2. 中間施設について

老人患者のために病院の一部を介護を主体とした病棟に転換を図るケア病棟制を導入すべきである旨の意見統一を図り、役員の意見聴取です承

3. 看護制度について

現状報告を了承

4. 病院経営について

現状報告、地域に信頼される病院の重要性を確認し了承

5. 病院税制について

61年度税制改正に関する要望を厚生省に提出したが、各役員の地元国会議員にも協力要請することです承

6. 病院大会の実施について

病院診療報酬適正化推進会議の主催により11月12日に実施することを了承

7. 本会参与の交替について

佐分利輝彦氏（厚生省病院管理研究所長）の退任に伴い後任の大池眞澄氏を委嘱することを了承、佐分利参与は61年3月末まで委嘱願うことも了承

8. 役員の改選時期について

役員選挙を3月22日(土)に実施することです承

9. 顧問の役員会出席について

常任理事会に一任することです承

10. 宮崎秀樹氏（61年参議院選挙比例代表区候補者）の紹介について

紹介、あいさつにて了承

11. 第1四半期会計報告および監査報告について

報告を了承

12. 日本病院学会について

第35回遠山豪学会長、第36回小野肇学会長の報告を了承

13. 第26回日本人間ドック学会の開催結果について

8/22～23の開催報告を了承

14. 第11回日本診療録管理学会の開催について  
10/17～18の進捗状況報告を了承
15. 吉岡観八理事のご逝去について  
ご逝去の報を了承（8月31日永眠）
16. 日本病院会政治連盟の活動について  
活動報告を了承
17. 国立病院・療養所の再編成、合理化について  
中間報告を了承
18. 病院診療報酬適正化推進会議の開催結果について  
“全国病院大会”実施への現況報告を了承
19. 四病院団体連絡協議会について  
61年度の税制改正要望事項等の検討、報告を了承

### 第3回理事会

11月30日(土) ダイヤモンドホテル 出席 45名

1. 会員の入退会について  
正会員入会 104件、正会員退会 4件、賛助会員入会 2件を承認（11月30日現在 正会員 2,011 会員、賛助会員 391 会員）
2. 短期人間ドック実施指定病院について  
3 施設を承認  
埼玉県 白岡中央病院（4床）  
千葉県 船橋病院（2床）  
福岡県 健和会大手町病院（8床）
3. 第2四半期の会計報告および監査報告について  
報告を了承
4. 第22回日本医学会総会“広報委員会・公開講演会”委員の委嘱について  
河野稔副会長の委嘱を承認
5. 病院診療報酬について  
役員からの意見聴取の上、適宜、関係省庁・関係方面に陳情、要望を図ることです承
6. 病院経営について  
医療法の改正により、医療機関の適正配置、地域格差を無くし、健全な病院経営を図ってゆくことを了承
7. 病院税制について

社会保険診療報酬に対する事業税の非課税措置存続の現状報告を了承

8. 中間施設について

厚生省案の報告、役員の見解聴取にて了承

9. 昭和61年度事業計画案について

研究会、セミナーの開催時期を再度検討し、その他については原案どおり了承

10. 昭和61年度役員改選について

改選までの日程とし、“12月21日選挙告示、2月22日合同会議にて調整、3月22日選挙”  
とすることです承

11. 第37回（62年度）日本病院学会について

福岡県開催を了承

12. 中国残留日本人孤児の身元引受人について

本会も協力することです承

13. 各種制度委員会、研究会の開催結果について

報告を了承

14. 顧問議員団の発足について

自民党各派代表23名で発足、報告を了承

15. 四病院団体連絡協議会の開催結果について

報告を了承

16. 病院診療報酬適正化推進会議および病院大会の開催結果について

大会参加者数約1,000名にて開催、報告を了承

17. 日医保険担当吉田常任理事への要望について

報告を了承

18. 厚生省古川医療保険担当審議官への要望について

報告を了承

19. 厚生省“看護制度検討会”の開催結果について

報告を了承

20. 国立病院の本会入会について

入会報告を了承

21. 昭和60年秋の勲章褒章受章について

報告を了承

（叙勲 太田元次理事、大屋挙吾元副会長、小林誠之助元理事、褒章 丹野清喜、金子保彦両理事、初井真美、岩井宏方先生）

22. '86 国際モダンホスピタルショウ企業への説明会及び記者会見について  
開催報告を了承
23. 税務調査結果について  
報告を了承
24. 事務局職員の年末賞与の支給について  
支給を了承
25. 日本病院会ニュース 300 号記念誌について  
協力要請等を了承
26. 第36回日本病院学会の一般演題募集について  
協力要請にて了承

#### 第 4 回理事会

2月22日(土) 食糧会館 出席 52 名

1. 会員の入退会について (61.1/27~2/21)  
正会員入会 5 件、正会員退会 4 件を承認 (2月22日現在、正会員 2,014 会員、賛助会員 380 会員)
2. 臨床予防医学委員会委員の追加について  
追加委嘱を承認  
足利赤十字病院 奈良昌治先生
3. 第 3 四半期の会計報告および監査報告について  
報告を了承
4. 「第35回日本理学療法学会」の後援名義使用依頼について  
後援名義使用を了承
5. 社会保険診療報酬対策について  
改定の経過、本会の活動報告を了承
6. 老人保健施設 (中間施設) について  
厚生省案の検討、今後もし正を要する事項については強力に推進することで了承
7. 医療法の一部改正について  
一部改正の説明、検討、医療審議会委員への病院団体代表加入等を推進することで了承
8. 病院経営について  
現状報告を了承
9. 病院税制について  
現況報告、動向の説明にて了承

10. 中小病院対策について

61年度から中小病院対策委員会を設置し、強力に対処することです承

11. 国立病院・療養所の統廃合について

厚生省の整理統廃合計画の説明にて了承

12. 昭和61年度事業計画案について

原案どおり了承

13. 昭和61年度予算案について

原案どおり了承

(一般会計)	収支とも	402,300,000円
(特別会計)		
基本財産	収入合計	42,970,000円
退職金手当積立	〃	38,770,000円
IHF 国際交流	〃	10,200,000円

14. 昭和61年役員改選について

代議員、代議員会議長、同副議長、監事、理事の届出状況報告および、選挙規程を再検討することです承

15. 3月22日出の行事日程について

原案どおり了承

16. 財団法人顕彰会「昭和61年度社会貢献表彰候補者」の推せんについて

事務局あてに3月中に提出することです承

17. 各種制度委員会、研修会、セミナーの開催結果について

報告を了承

18. 日本病院学会の進捗状況について

報告を了承(36回：神奈川県、37回：福岡県、38回：千葉県)

19. 日本病院会政治連盟の活動状況について

現状報告にて了承

20. 財団法人日本病院共済会からの資金援助について

報告を了承

21. 事務局職員の退職・採用について

報告を了承

(退職) 夏目 登 61年1月31日付

(採用) 大内 全 61年2月1日付(日本病院共済会出向)

22. 第4回臨床研修研究会について  
開催(案)を了承
23. 四病院団体連絡協議会の開催について  
報告を了承

## 常任理事会

### 第1回常任理事会

- 4月27日(土) 番町グリーンパレス 出席46名  
第1回理事会と合同開催のため理事会参照

### 第2回常任理事会

- 5月18日(土) 全共連ビル 出席24名

1. 医療保険制度と診療報酬について  
現況報告、減点査定 of 患者一部負担金返還問題については社会保険委員会に諮問することです承
2. 家庭医制度と中間施設について  
懇談会の報告、及び医療制度委員会でも検討を図り本会としても意見をまとめることです承
3. 病院経営について  
現状報告を了承
4. 病院税制について  
事業税非課税措置の存続など強力で推進することです承
5. 国立病院、療養所の再編成・合理化について  
現状報告を了承
6. 会員の入退会について  
正会員入会1件、正会員退会4件、賛助会員入会1件を承認(5月18日現在 正会員1,901会員、賛助会員394会員)
7. 理事、代議員の補選について  
理事2名の退任、就任、代議員9名の退任、就任を承認(第1回総会を参照)
8. 第12回日本診療録管理学会(61年度)について  
10月に名古屋市において開催することです承、学会長岡島光治先生
9. 日本診療録管理学会評議員について  
常任理事全員を評議員に推せんすることです承

10. 短期人間ドック実施認定委員の交代について  
交代を承認  
（新任） 佐藤 方則 氏  
（退任） 西川 正光 氏
11. 癌特別検診（健保連東京連合会より依頼）実施の協力願いについて  
協力することです承
12. 第14回日本病院設備学会併設展示“’85病院設備・機器展”の協賛名義依頼について  
名義使用を承認
13. 短期人間ドック実施指定について  
1 施設を承認  
大阪府 高槻赤十字病院（2床）
14. 各種制度委員会の開催結果について  
報告を了承
15. 昭和60年春の叙勲、褒章受章について  
報告を了承  
（叙勲 岡山義雄理事、褒章 安藤静男理事、財津晃代議員会議長）
16. 社大韓病院協会第26次定期総会、A H Fスタディツアーの開催報告について  
報告を了承
17. ’85国際モダンホスピタルショウについて  
進捗状況報告を了承
18. 財日本顕彰会社会貢献者の推せんについて  
2名の推せんを了承  
新潟県・湧井 栄美 氏  
三重県・太田 昌親 氏
19. 昭和60年度病院運営実態分析調査について  
役員各位への協力依頼にて了承
20. 病院長・幹部職員セミナーの開催について  
進捗状況報告を了承
21. 全日病学会への出席について  
報告を了承
22. 医療秘書専門学校について  
実態報告を了承

### 第3回常任理事会

6月15日(土) 日病会議室 出席 27名

1. 減点査定と診療報酬について

減額査定については河野副会長が弁護士専門家等の見解を取りまとめ早急に対処することです承、診療報酬問題は今後も強力に推進することです承

2. 病院経営と中間施設について

経営現状報告を了承、中間施設の検討小委員会には私的の中小病院からも委員選出を図り本会の見解を出すことです承

3. 看護制度について

役員の意見聴取にて了承

4. 医療法について

現状報告にて了承

5. 病院税制について

臨時国会の開催に焦点を合わせ事業税非課税存続、診療報酬原価割れ是正を目的とし病院大会を実施することです承

6. コンタクトレンズの取扱いについて

現状報告を了承

7. 中小病院対策について

中小病院対策委員会を設置し強力に推進することです承

8. 会員の入退会について (60.5.19～6.14)

正会員入会3件、正会員退会8件、賛助会員入会1件、賛助会員退会3件を承認  
(6月15日現在、正会員1,896会員、賛助会員392会員)

9. 短期人間ドック実施指定について

6施設を承認

福島県 保原中央病院 (2床)

静岡県 熱海温泉病院 (4床)

京都府 新河端病院 (2床)

愛媛県 公立周桑病院 (2床)

群馬県 東邦病院 (2床)

神奈川県 東名厚木病院 (2床)

10. 日本病院学会評議員の交代について

交代を承認

(名誉評議員・就任) 阿久津 慎 氏

(評議員・退任) 太田 辰雄 氏

中島 克三 氏

福田 耕作 氏

11. 61年度の“叙勲、褒章”について

叙勲に藤掛敏氏、褒章に土屋呂武氏（福岡県にて推せん）を推せんすることで承認

12. 病院憲章の会員配布について

国会ニュース、雑誌にて会員各位に周知、理解させることで了承

13. 財団法人医療機器センターの“理事”就任依頼について

諸橋会長の理事就任を承認

14. 各種制度委員会の開催結果について

報告を了承

15. '85 国際モダンホスピタルショーについて

報告を了承

16. “病院管理マニュアル”の会員配布（無料）及び有料頒布について

報告を了承

17. 国際病院学会及び I H F 理事会について

報告を了承

18. 四病院団体連絡協議会の開催結果について

報告を了承

19. 第11回日本診療録管理学会について

会長代理として土屋呂武常任理事が出席することで了承

20. 第35回日本病院学会について

進捗状況報告を了承

21. 日本病院共済会について

役員交代等の報告を了承

#### 第4回常任理事会

7月27日(土) 日病会議室 出席 27名

1. 中間施設について

役員の意見聴取にて了承

2. 最近の医療保険の動向について

現状報告、役員の意見拝聴にて了承

3. 病院経営について  
役員の意見拝聴、現状報告にて了承
4. 病院税制について  
病院大会の実施により、事業税特例措置等を強力に推進することで了承
5. 看護制度について  
検討会の報告、及び役員の意見拝聴にて了承
6. 宮崎秀樹氏（61年、日医連選定、参議院比例代表制議員候補者）の推せんについて  
推せんを承認
7. 日病ニュース 300号記念誌について  
発刊を承認
8. セミナー、研究研修会等のテープ頒布について  
有料にてテープの頒布を承認
9. 第22回日本医学会総会展示委員会“情報とニューメディア小委員会”の委員について  
三宅浩之先生を委員として選出することで了承
10. 各役員提案事項  
①病院部門別原価計算調査の実施について  
本会会員病院に対し調査することで了承
11. 会員の入退会について（6/16～7/26日分）  
正会員入会17件、正会員退会2件、賛助会員入会1件、賛助会員退会4件を承認  
（7月27日現在、正会員1,911会員、賛助会員389会員）
12. 短期人間ドック実施認定委員の追加について  
委員の追加委嘱を承認  
鈴木 九五 氏
13. 短期人間ドック、自動化健診施設の実施指定について  
短期人間ドック6施設、自動化検診4施設を承認  
（短期人間ドック） 受付順  
神奈川県 大口東総合病院（4床）  
山口県 光市立病院（2床）  
福岡県 国立久留米病院（4床）  
東京都 織本病院（2床）  
神奈川県 田浦共浦病院（2床）  
福岡県 八幡製鉄所病院（4床）

(自動化健診)

埼玉県 大宮西口診療所

東京都 進興クリニック健康管理センター

静岡県 聖隷三方原病院

広島県 広島第一検診所

14. 財団法人日本建築防災協会評議員の委嘱依頼について  
諸橋会長の委嘱を承認

15. 学会評議員の就任、退任について  
下記の就任、退任を承認

(日本病院学会)

新任 青山松次氏

退任 伊藤吉孝氏

(日本人間ドック学会)

新任 登内真氏

” 丹野清喜氏

” 中山耕作氏

” 土屋呂武氏

” 太田清一氏

” 財津晃氏

” 高橋政祺氏

” 丹羽直久氏

” 河井博氏

” 織本正慶氏

” 河村一太氏

” 川瀬貞臣氏

” 長崎太郎氏

” 石橋秀雄氏

” 岩井宏方氏

” 平塚秀雄氏

” 原田歳久氏

(日本診療録管理学会)

新任 鈴木 駿一 氏

” 三宅 史郎 氏

” 桜井 健司 氏

” 山本 俊夫 氏

” 池内 秀夫 氏

” 森 忠三 氏

” 重松 峻夫 氏

” 長尾 和治 氏

16. 健保連「第20回健康強調月間」の協賛依頼について  
協賛を承認
17. 日本衛生検査所協会「第8回臨床検査月間」の協賛名義依頼について  
協賛を承認
18. 各種制度委員会、研究会の開催結果について  
報告を了承
19. 社日本病院会高知県支部設立総会の開催結果について  
報告を了承
20. 学会の進捗状況について  
報告を了承
21. 61年度予算への要望に関する自民党朝食会出席について  
出席報告を了承
22. 事務長養成課程通信教育の第6回認定式について  
第6期生5名の認定、報告を了承
23. 通信教育60年6月度応募状況について  
報告を了承
24. 四病院団体連絡協議会について  
報告を了承
25. 日本救急ヘリコプター隊からの協力依頼について  
調査に協力することで了承
26. 昭和61年春の叙勲及び賜杯並びに褒章受章候補者の推せんについて  
叙勲に藤掛敏氏、褒章に土屋呂武氏(福岡県にて推せん)を推せんすることで了承
27. 病院長・幹部職員セミナーの参加要請について

要請を了承

28. 60年度第5回定例常任理事会(8/31)の開会時刻の繰り上げについて  
開始時刻を30分繰り上げることを了承

## 第5回常任理事会

8月31日(土) 日病会議室 出席 26名

### 1. 中間施設について

各役員から意見聴取を図り、今後も継続的に検討をすることです承

### 2. 最近の医療費の動向について

#### ① 医療保険について

各役員の見解聴取にて了承

#### ② 老人保健について

各役員から意見聴取を図り、本会としても今後慎重に対処することです承

### 3. 病院経営について

現状報告、意見聴取にて了承

### 4. 病院税制について

現状報告を了承

### 5. 「病院大会」の開催について

11月12日(火)に開催することです承

### 6. 研究研修会、セミナーの統合について

来年度より会長の諮問に沿って実施することです承

### 7. '87(昭和62年)国際モダンホスピタルショーについて

第22回日本医学会総会中の総合展示会(4/2~10)と競合しないように趣旨を変え、6月20日前後に開催することです承

### 8. 9月18日(土)の第2回定例理事会(三重県)及び、10月26日(土)の移動常任理事会(富山県)の開催要領について

開催要領報告を了承

### 9. 航空機等の事故対策について

役員の日当中から保険料を支払い対処することです承

### 10. 第36回、第37回日本病院学会について

36回は神奈川県、37回を福岡県で開催することです承

### 11. 厚生省健康政策局幹部との懇談会実施について

9月24日(火)に開催することです承

12. 第1四半期会計報告および監査報告について  
報告を承認
13. 会員の入退会について（7/29～8/30日分）  
正会員入会5件、正会員退会6件、賛助会員入会1件を承認（8月31日現在 正会員  
1,910会員、賛助会員390会員）
14. 短期人間ドック実施施設の指定について  
1施設を承認  
神奈川県 衣笠病院（2床）
15. 日本設備協会“第14回日本設備学会”の後援名義使用について  
後援を承認
16. 建設省住宅局「建築物防災週間（昭和60年度上期）」の協力依頼について  
依頼を承認
17. 各種制度委員会、セミナーの開催結果について  
報告を了承
18. 第26回日本人間ドック学会の開催結果について  
報告を了承
19. 第35回日本病院学会の進捗状況について  
状況報告を了承
20. 台湾病院協会第18回年次総会への出席報告について  
報告を了承
21. 四病院団体連絡協議会の開催結果について  
報告を了承
22. 日本病院会政治連盟について  
報告を了承
23. 医療用医薬品製造業公正取引協議会からの通知について  
報告を了承
24. 国立病院、療養所の統廃合について  
現状報告を了承
25. 退院時疾病統計書式標準化検討委員会の報告について  
日本病院会雑誌に掲載した旨の報告を了承
26. 吉岡観八理事の葬儀について  
報告を了承  
病院葬10月12日(土) 通夜9月2日、密葬3日

## 第6回常任理事会

9月28日(土) 日病会議室 出席 23名

1. 医療費の動向と医療保険について  
現状報告、又、病院診療報酬の引き上げ率については10.4%とし、11月12日の病院大会  
で是正を要望することです承
2. 老人保健について  
厚生省の改正案に反対することを、病院大会で意見表明することです承
3. 中間施設について  
現状報告を了承
4. 病院経営について  
現状報告、各役員の意見聴取にて了承
5. 病院税制について  
“社会保険診療報酬に係る非課税措置の存続” “病院診療報酬改定要求”等の強力に推  
進することです承
6. “病院大会”の開催について  
11月12日(火)に千代田公会堂にて実施することです承
7. 医事研究会委員の韓国への研修団について  
費用自己負担とした研修団とすることです承
8. 日本病院会議員連盟準備会について  
報告を了承
9. 顧問の常任理事会出席について  
次期報行部にて検討することです承
10. 会員の入退会について(9/2~9/27日の分)  
正会員入会3件、正会員退会8件、賛助会員退会2件を承認(9月28日現在 正会員  
1,906会員、賛助会員388会員)
11. 自動化健診施設の実施指定について  
8施設を承認  
(優良施設) 指定順  
大阪府 箕面市立医療保健センター  
大阪府 大阪府済生会中津病院  
愛知県 岡山病院  
愛知県 愛知医科大学メディカルクリニック

(条件付優良施設)

福岡県 財福岡労働衛生研究所

東京都 牧田総合病院健康管理センター

静岡県 遠州総合病院健康管理センター

神奈川県 横浜第一クリニック

12. 第35回日本病院学会の開催結果について  
報告を了承
13. 各種制度委員会、研究会の開催結果について  
報告を了承
14. 10月期定例常任理事会の開催要領について  
開催要領を了承
15. 病院診療報酬適正化推進会議の開催結果について  
開催報告を了承
16. 四病院団体連絡協議会について  
報告を了承
17. 厚生省幹部との懇談会開催結果について  
報告を了承
18. 日本病院会政治連盟の活動について  
報告を了承
19. '85国際モダンホスピタルショウの収支報告について  
報告を了承
20. 日本診療録管理学会評議員の異動について  
異動を了承  

(新任) 三竹年世子氏  
新里敏子氏  
草信正志氏  
(退任) 楠本五郎氏  
吉岡観八氏
21. 昭和60年度社会貢献表彰者の推せん結果について  
報告を了承  
新潟県 涌井栄美氏
22. その他

- (1) 吉岡観八先生の死亡者叙勲について  
報告を了承” 従 5 位勲 4 等瑞宝章 ”
- (2) 大野松次先生の死去について  
9 月 28 日ご逝去の報告を了承
- (3) 褒章受章祝賀会について  
11 月 30 日の理事会終了後に開催することです承

## 第 7 回常任理事会

10月26日(土) 富山県・誉一山荘 出席者 16 名

1. 医療費の動向について  
医療費の現状報告、及び病院機能評価に関し協議し、必要に応じ特別委員会を設置することです承
2. 中間施設について  
各役員の意見聴取にて了承
3. 病院経営について  
基準看護の認可等について協議、現状報告にて了承
4. 病院税制について  
現状報告にて了承
5. 「病院大会」について
  - (1) 診療報酬改定について  
改定率の内訳項目等を検討し看護料の 40% 改定を 55% に訂正し、減分を室料改定に振り替えることなどを了承
  - (2) 役員分担について  
議長団、陳情団等の分担を了承
6. 昭和 61 年度事業計画案について  
新規事業として” 秋のヘルス展 ” を組み入れ原案どおり承認
7. 昭和 61 年度役員改選について  
役員改選日程等を再確認し、選挙事務に関し、定款、同施行細則、選挙規程等に基づき次回常任理事会にて再検討することです承
8. 全理事会の開催要領について  
11 月 30 日の日程を全理事会、講演会、叙勲・褒章受章祝賀会として開催することを了承
9. 会員の入退会について (9/30~10/25)  
正会員入会 2 件、賛助会員入会 2 件、賛助会員退会 1 件を承認 (10 月 26 日現在 正会員

- 1,908 会員、賛助会員 389 会員)
10. 短期人間ドック実施指定について  
5 施設を承認  
宮城県 仙台赤十字病院 (6 床)  
埼玉県 藤村病院 (2 床)  
茨城県 総合病院取手協同病院 (3 床)  
東京都 東京共済病院 (2 床)  
岐阜県 岐阜県厚生連総合病院昭和病院 (5 床)
  11. 第 6 回九州メディカルショーの後援名義使用依頼について  
後援名義依頼を承認
  12. 各種制度委員会、研究会の開催結果について  
報告を了承
  13. 大池眞澄氏の参与委嘱書面審理の結果について  
報告を了承
  14. 第 11 回日本診療録管理学会の開催結果について  
報告を了承
  15. 日本病院会政治連盟の活動について  
河野稔副会長を委員長代行として 61 年 3 月末日まで就任すること等の報告を了承
  16. 第 26 回日本人間ドック学会収支報告について  
報告を了承 収支とも 18,443,439 円
  17. 中央・地方病院団体全国会議の開催結果について  
報告を了承
  18. 四病院団体連絡協議会の開催結果について  
報告を了承

#### 第 8 回常任理事会

11月30日(土) ダイヤモンドホテル 出席 45 名

第 3 回理事会と合同開催のため理事会参照

#### 第 9 回常任理事会

12月21日(土) 日病会議室 出席 26 名

##### 1. 社会保険診療報酬対策について

基準看護実施病院での一部病棟に特 3 類を導入すること、2 : 3 : 5 の導入についての再確認を図り、看護料、室料、入院時医学管理料を重点に今後要望を図ってゆくことで

了承。

2. 病院経営（医療事故）について

福岡県下では、最近医療紛争は3倍ぐらい増加してきた、病院で医療過誤を生じた場合は、その施設における最高責任者が誠意をもって対応すべきである等の意見と報告がありました承。

3. 病院税制（事業税）について

社会保険診療報酬に対する事業税の非課税措置については、61年度については、存続されるが、62年度は抜本改正で危ない等の報告を了承。

4. 医療法改正について

医療法改正案が修正、可決されたことにより、チェーン方式病院の規制、都道府県医療審議会委員に病院代表を入れる旨を政令等に明示して貰うこと等の意見がありました承。

5. 老人医療費の動向について

現在のように著しい増加を示すからには、財源対策としての老人保健制度の見直しも必要ではないか等の意見が出され了承。

6. 中間施設について

最近、中間施設に対して反対であった団体も賛同してきたので、本会としても今後協力していくこと了承。

7. “将来の医師需給に関する検討委員会”開催結果について

勤務医師の所得、全病院の7割が現在も、医師不足である等の意見と報告が出され、了承。

8. 昭和61年度事業計画案について

病院長セミナーを61年8月9日(土)～10日(日)に変更の上開催することで原案どおり了承

9. 昭和61年度予算案について

人間ドック部会費、助成金の増額、調査室費においては、本会の部門別原価計算、負担分を再度検討することで承認。

10. 会員の入退会について

正会員入会2件、正会員退会2件、賛助会員退会9件（12月21日現在 正会員2,011会員、賛助会員382会員）

11. 昭和60年度ベースアップについて

7月1日よりベースアップ、差額については61年1月に支給することで承認

12. 第22回日本医学会総会組織委員会顧問の委嘱依頼について

諸橋会長を委員とすることで承認

13. '86 大阪国際メディカルショウの後援依頼について  
後援することで承認
14. 各種制度委員会の開催について  
報告を了承
15. 昭和61年度役員の改選について  
代議員については61年2月20日締切りとし113名を選出、他の役員については、2月22日を締切りとし、3月22日選出することで了承
16. 日本病院会政治連盟の活動状況について  
12月4日日本病院会顧問議員団と会談した旨の報告を了承
17. 新しい血液事業の推進について  
血漿分画製剤の輸入依存等の報告を了承

#### 第10回常任理事会

1月25日(土) 日病会議室 出席 30名

1. 社会保険診療報酬対策について  
厚生省、中医協、日医の動向の説明、各役員の意見聴取を図り要望内容の再確認にて了承
2. 中間施設について（老人保健施設）  
各役員の意見聴取を図り、細部の質疑については2月22日開催の講演会（厚生省黒本老人保健部長）にて図ることで了承
3. 病院経営について  
現状報告を了承
4. 病院税制について  
61年度税制改正要望項目等の説明報告を了承
5. 国立病院・療養所の統廃合について  
厚生省の再編成計画の紹介、役員各位の意見聴取にて了承
6. 昭和61年度事業計画案について  
中小病院対策委員会、給食委員会を新規に設置し、原案どおり承認
7. 昭和61年度予算案について  
経理部第2案一般会計、特別会計を原案どおり承認、収入合計494,240,000円
8. 昭和61年度短期人間ドック・自動化検診施設の契約料金について  
短期人間ドック料金は一応59,000円で凍結し、再度健保連と折衝を図ることになり、自動化検診料金については各施設の届出料金を報告し了承

9. 民間保険について  
団体医療費用保険の紹介にて了承
10. ホームヘルスケア講演会について  
2月20日に開催し、日医10名、日病10名を予定し実施することで了承
11. 61年度役員改選について  
私信等の紹介にて了承
12. 会員の入退会について（60.12/22～61.1/24）  
正会員入会3件、正会員退会1件、賛助会員入会4件、賛助会員退会6件を承認  
（1月25日現在 正会員2,913会員、賛助会員380会員）
13. 第28回成人病予防週間の後援依頼について  
後援を了承
14. 短期人間ドック実施指定について  
1施設を承認  
滋賀県 野洲病院（2床）
15. “ニューメンブレンテクノロジー’86”の後援名義使用依頼について  
名義使用を了承
16. 各種制度委員会、セミナーの開催結果等について  
報告を了承
17. 座談会の開催結果について  
“21世紀の医療に向かって”と題し開催した旨の報告を了承
18. 診療報酬改正について（要望）  
厚生省、日医に要望した旨を了承
19. 第36回日本病院学会の進捗状況について  
特別講演、シンポジウム等の紹介を了承
20. ’86国際モダンホスピタルショウ企画委員会の開催結果について  
開催報告を了承
21. 老人保健法改悪反対全国医師大会について  
出席報告を了承
22. 四病院団体連絡協議会の開催結果について  
報告を了承
23. 新年賀詞交歓会の開催について  
1月29日に開催することを再確認し了承

24. 政治連盟常任幹事会の開催結果について  
報告を了承
25. “病院機能評価に関する研究会”の開催結果について  
報告を了承
26. 日本病院学会の開催について  
第37回を福岡県で、第38回を千葉県で開催することを再確認し了承
27. ヘルス展について  
委員2～3名を選出し、運営を図ることです承

#### 第11回常任理事会

2月22日(土) 食糧会館 出席 52名

第4回定例理事会と合同開催のため理事会参照

#### 第12回常任理事会

3月22日(土) 日病会議室 出席者 29名

1. 医療費改定について  
本会の活動経緯の説明及び公私病連との影響率調査を実施することです承
2. 老人保健施設について  
老人保健施設に対する意見を大浜方栄参議員に提出したが、諸問題については新執行部にて今後も検討することです承
3. 病院経営（中小病院）について  
現状報告にて了承
4. 病院税制について  
現状報告を了承
5. 将来の医師需給に関する検討委員会について  
現状報告を了承
6. 3月22日(土)の行事予定について  
予定案を了承
7. 会員の入退会について  
正会員入会 5件、正会員退会 5件、賛助会員入会 2件を承認（3月22日現在 正会員 2,014 会員、賛助会員 382 会員）
8. 短期人間ドック実施指定施設について  
2 施設を承認  
新潟県 白根健生病院（2床）

静岡県 市立富士宮総合病院（2床）

9. 昭和61年度短期人間ドック料金について

59,000円で決定し、62年度の料金改定に向けてアンケートを実施することで了承

10. 日本アビリティーズ協会主催「最新リハビリ機器展」の後援名義使用依頼について  
後援名義使用を了承

11. 各種制度委員会、研究会、セミナーの開催結果について  
報告を了承

### 第 3 広 報

#### 日本病院会ニュース

号 数	発行日	主 な 記 事 内 容
280号	4月10日	1) 第35回日本病院学会概要を発表 演題募集を開始5月末〆切 2) 60年度事業計画・予算を承認 代議員会・総会開く 3) 主潮「小異をすてて大同につく」 4) 60年度全国研は低料金で 研究会委員長会議開く 5) エッセイ「長崎の春」福井 順 6) 健康科学学会発足 7) 確認行為の徹底を!! 購入医薬品で厚生省通知
281号	4月25日	1) 「病院憲章」を制定 外来待合室等へ公示を 2) 60年度教育研究活動 年間計画まとまる 3) 座談会「診療録管理へのいざない」高山瑩、柏戸正英、油谷良子、高橋政祺、 三竹年世子、中山光江、西能正一郎(司会) 4) 10月福岡日本診療録管理学会 特別講演シンポの演題決まる 5) 栄養所要量を改正 厚生省基準給食で通知 6) 第35回病院学会「日本の医療」 シンポジストに橋本元厚相、吉村次官ら 7) 英国から会長を訪問 救世軍医療顧問 8) エッセイ「"籠の鳥"の病院医療」中村了生
282号	5月10日	1) '85 ホスピタルショウ開幕へ 特別企画合わせ総合展示 2) 良質な医療確保が困難 抜本的主張の根拠探る 3月改定の影響合同理事会 論議 3) 「中間施設懇」が発足 4) 主潮「病院団体の使命」 5) エッセイ「足守」宮本祥郎 6) 60年春の叙勲・褒章 岡山理事・財津議長ら受章
283号	5月25日	1) 事業報告・決算を承認、全病院一体で目標へ 代議員会・総会 59年度活動

まとむ

- 2) 「医療法」審議入りへ 4 病団基本見解で確認
- 3) 「事業税」で要請 諸橋会長自民党懇談会へ
- 4) ホスピタルショウ出品社と主な出品物
- 5) 患者負担・委託問題抱え 病院給食と調理師 14日定例調理研
- 6) エッセイ「胃癌になりそこねた話」 西能正一郎
- 7) 諸橋会長大韓病院協会総会へ

- 284号 6月10日
- 1) 病院管理マニュアルが完成 医療と経営の「標準」を制定
  - 2) 主潮「21世紀の医療に向けて」
  - 3) 中国から視察団
  - 4) 「オールド・パー」 河野 稔
  - 5) エッセイ「海と空」 平野 明
  - 6) 9月欧州10月中国へ 海外視察研今年度後半の計画

- 285号 6月25日
- 1) 健保本人10.5%の減 1割導入半年の調査 医療内容に重大問題が・広報座談会
  - 2) 「減額返還」は不承知 常任理事会で表明なお検討へ
  - 3) '85 ホスピタルショウ開幕 入場総数は3万4,000人・3割増
  - 4) ドック学会150余題に
  - 5) エッセイ「洞庭の水」 小野田敏郎
  - 6) 日本診療録管理学会開催へ 10月福岡

- 286号 7月10日
- 1) 高知県で支部結成4番目 共通課題で病院団結 近藤県立中央病院長が支部長に
  - 2) 「医療費抑制策をめぐって」 内藤 景岳
  - 3) 6月用度研 卸業者と意見交換
  - 4) 主潮「厚生省の組織再編」
  - 5) エッセイ「カリブ海波高し」 遠山 美知
  - 6) 「続サイパン沖海戦記」 諸橋 芳夫
  - 7) 第26回日本人間ドック学会 プログラム確定8月開幕へ 「健康の世紀に向かって」 河野 稔

- 287号 7月25日
- 1) 中間施設案に本会提言「ケア病棟」制導入を 病床転換策に具体案

- 2) みだりに“強権発動”するな 指導通達で当局と話し合い 4病団協議、要望提出へ
- 3) 座談会「本人1割負担と点数改定後の病院経営」 嶋田 和正、伊藤 研、平山 正樹、海北 幸男、岸口 繁(司会)
- 4) 厚生省 施行規則一部改正へ 外気開放規定など9項目
- 5) 小沢議員に要望 中間施設問題等で諸橋会長
- 6) 准看護婦は必要 看護学校協議会が存続を主張 厚生省第4回検討会
- 7) エッセイ「一華開五葉」 遠藤 香苗
- 8) 神戸で防災セミナー 8月29・30日(暑中見舞特集号)

- 288号 8月10日
- 1) 中間施設で基本方針 本会の意見大幅採用 厚生省懇談会が中間報告
  - 2) 第35回日本病院学会9月19～21日伊勢市 プログラムが確定開幕へ
  - 3) 施行規則改正6項目に 外気開放規定は大幅緩和
  - 4) 主潮「専門家を活用しよう」
  - 5) “同じ仕事には同じ報酬を” 薬事管理部会札幌で全国研
  - 6) 前号座談会の続き
  - 7) エッセイ「つり竿談義」 平野井直英
  - 8) 「腸閉塞と石舞台」死への居直り 吉岡 観八

- 289号 9月10日
- 1) 健康増進の医学確立へ一歩 第26回日本人間ドック学会に空前の6,300人新しい“枠組み”構築を
  - 2) 病院大会11月開催へ 事業税医療費問題で総力
  - 3) 主潮「禍を転じて福に」
  - 4) 老人医療費大幅負担増の案 厚生省水田氏が講演 院長・幹部セミナー
  - 5) 健康政策局長に竹中氏 厚生省幹部人事が発令
  - 6) 病院長・幹部職員セミナー記事
  - 7) 吉岡先生逝去!! 「腸閉塞と石舞台」遺して
  - 8) 第26回日本人間ドック学会特集記事
  - 9) エッセイ「医者と坊主」 真田 幸良

- 290号 9月25日
- 1) 国民医療を守る全国病院大会 11月12日千代田区公会堂で 事業税課税阻止、医療費是正を
  - 2) 10月17日福岡学会開幕へ 第11回日本診療録管理学会の日程表

- 3) 人間ドック・自動化健診の現況 臨床予防医学委員会が報告 59年受診者は90万人
- 4) 日本診療録管理学会の開催にあたって「学会のみどころ」 兵働 貞夫
- 5) エッセイ「姓名」 三竹年世子
- 6) 「吉岡先生を偲んで」 河野 稔

- 291号 10月10日
- 1) 「病院に光を」の願いこめ 第35回“伊勢”病院学会に5,000人
  - 2) 事業税等で要望書提出 4病団総力自民党税調へ
  - 3) 主潮「医療の質の向上」
  - 4) 健康政策局新旧幹部と懇談
  - 5) 第35回日本病院学会特集記事
  - 6) エッセイ「ストレス解消法」 木村千枝子
  - 7) 大野先生逝去!!
  - 8) 故吉岡先生への追悼 河崎 茂

- 292号 10月25日
- 1) 病院診療報酬改定10%台要求へ 中小病院の危機深刻化 要望“一本化”へ共同歩調
  - 2) 第11回診療録管理学会開く
  - 3) IHFに「吉岡奨学金」
  - 4) 病院は21%上昇 事業団融資7月までの状況
  - 5) エッセイ「カラスは黒いか？」 天川 勉
  - 6) 終了率は悪化傾向 第9回メディカルクラーク通教22人が卒業
  - 7) 「大野松次先生を偲んで」 河野 稔

- 293号 11月10日
- 1) 日本病院会顧問議員団が発足 小沢氏を世話人代表に23人の実力議員
  - 2) 全国病院大会12日開催 看護料中心に10.6%上げ要求
  - 3) 主潮「医療費に拡大再生産費を」
  - 4) 「国民医療を守る病院の崩壊防げ」 諸橋 芳夫
  - 5) 座談会「高額医療機器の共同利用」 糸川 正、大谷五良、前田貞亮、五島仁士、真野 勇、山川和夫、平野井直英(司会)
  - 6) '86ホスピタルショウ概要を発表
  - 7) 秋の叙勲・褒章
  - 8) 幹部医セミナー富山県氷見市で開く 移動常任理事会とジョイント

- 294号 11月25日
- 1) 国民医療を守る病院の崩壊防げ 推進会議主催全国病院大会に1,000人
  - 2) 医療法改正大づめ 地方審議会構成等に注目
  - 3) 全国病院大会記事
  - 4) 放射線研が業績集 小野田顧問ら招き出版祝賀
  - 5) エッセイ「陛下とテレビ」 宇井美代子
- 295号 12月10日
- 1) 4病団10%以上改定を要求 大づめの共同行動 税制、老人負担、診療報酬で
  - 2) 医療法改正参院へ 個人病院法人化問題を協議 第2・第3弾に期待 全理事会
  - 3) 国立100病院が入会 厚生省から一括申請
  - 4) 「1人医療法人制度の発足を祝す」 有澤 源蔵
  - 5) 主潮「老人の負担増反対」
  - 6) 昭和59年厚生省医療施設調査から資料
  - 7) エッセイ「嫁と孫に」 池谷 亘
  - 8) 61年7月 横浜市 第36回日本病院学会一般演題を募集
  - 9) 看護研沖縄で200人 松江で用度研、情報交換も
- 296号 1月1日
- 1) 新春座談会「選択と淘汰の時を迎えて」 諸橋芳夫、佐分利輝彦、有田幸子、松谷義範、山本義教、高山 瑩(司会)
  - 2) 医科2.5、平均2.3%引上げ、薬価は5%改定、4月実施
  - 3) 「医療法改正」当局が報告 4病団“適正な判断”求める
  - 4) 「事業税」要望通る 61年度税制改正が確定
  - 5) 年頭所感「医療費に拡大再生産費を」 諸橋 芳夫
  - 6) 「85年IHF常任理事会に参加して」“言語圏”を考える 河野 稔
  - 7) エッセイ「長崎のお雑煮」 福井 順
  - 8) 役員改選・選挙告示
  - 9) 新春寄稿「囲碁・棋道」 小原知次郎
- 297号 1月25日
- 1) 新保険点数4月施行 諸橋会長ら当局と面談 長期逼迫病院の立場前面に
  - 2) 独自の「原価計算調査」 私的病院の参加容易に 2月実施へ
  - 3) 老健法改悪反対 全国医師大会開く 4病団も分担協力
  - 4) 前号座談会の続き

- 5) エッセイ「池に棲むいわな」 遠山 美知
- 6) 「私と将棋」 諸橋 芳夫

- 298号 2月10日
- 1) 60年病院概況調査まとまる 受診減、設備減らし、外注増、看護学校閉鎖…  
苦悩する病院像
  - 2) 賛助会員と賀詞交歓
  - 3) 当面の諸問題に対応 4病団、日医・厚生省幹部と交歓
  - 4) 主潮「生き残るために」
  - 5) 融資機能の強化図る 61年度事業団の改正概要
  - 6) 病院概況調査の集計表 開設者別諸表
  - 7) I H F 地域会議9月台北で 演題を募集、国際委へ
  - 8) エッセイ「煮凍」えんどうかなえ
  - 9) 幹部医セミナー 3月8・9日 名古屋で開催
- 299号 2月25日
- 1) 第27回日本人間ドック学会開催の大要決まる 演題応募締切りは5月末
  - 2) 点数諮問25日に 病診機能評価など方針、中医協 病院の重点項目を 諸橋  
会長ら引続き行動展開
  - 3) 第2回「日本国際賞」 “人工臓器の父”コルフ氏に
  - 4) 「病院学会と総合医学会」 左奈田幸夫
  - 5) 医療法改正と薬剤師 厚生省講師招き定例薬事研
  - 6) エッセイ「三国志演義の中から」 宮本 祥郎
- 300号 3月25日
- 1) 本紙創刊300号を達成 昭和46年以来激動の15年間を記す『記念誌』を製作、  
完成 B5判310ページ、本紙と同時届け
  - 2) 代議員116氏が選出
  - 3) 改定説明会開く 4月1日から新点数表
  - 4) 診療報酬改定に伴う質疑応答集
  - 5) 新年度は創意工夫 研究会活動の反省会開く
  - 6) 短期人間ドック料金 更改終わる、一部体系変更も
  - 7) エッセイ「雪国の春」 西能正一郎
  - 8) 61年本会主催学会案内 演題受付中!!

## 第 4 委 員 会

### 1. 医療制度委員会

1. 開催回数 11回
2. 出席者数 89名
3. 検討項目

会長諮問事項である「21世紀の医療のあり方」につき1年間をかけて検討。

昭和61年3月末に、答申として「21世紀へ向けての中長期ビジョン」と題した論文を会長に提出した。

### 中間施設検討特別小委員会

1. 開催回数 1回
2. 出席者数 8名
3. 協議項目

中間施設をめぐる諸問題につき、日本病院会の意見をまとめるため開催され、厚生省の「中間施設に関する懇談会」に結果が報告された。

### 2. 病院管理運営委員会

#### ① 統計調査部会

1. 開催回数 4回
2. 出席者数 22名
3. 協議項目
  - 1) 診療報酬薬価基準改定影響率調査について
  - 2) 査定減について
  - 3) 病院部門別原価計算調査について
  - 4) 病院部門別原価計算調査票案について
  - 5) 病院部門別原価計算調査要領案について
  - 6) 病院部門別原価計算調査の実施時期について
  - 7) 公私病連との合同調査委員会について

#### 4. 総 評

本年度は社会保険委員会と合同で、「診療報酬薬価基準改定影響率調査」を実施した。また、公私病連との合同調査とは別に、簡便な「病院部門別原価計算調査」を実施すべく、調査票および調査要領の検討を行った。

② 医療事故対策部会

1. 開催回数 6回
2. 出席者数 17名
3. 協議項目
  - 1) 昭和60年度セミナー開催計画について
  - 2) 昭和60年6月セミナーについて
  - 3) 昭和60年9月セミナーについて
  - 4) 昭和61年度セミナー開催計画について
4. セミナーを開催し、医療紛争の防止策を実践しており、特に神戸開催については地元兵庫県医師会より絶大な協力を得て盛大なセミナーとなった。

③ 防災対策部会

1. 開催回数 1回
2. 出席者数 5名（オブザーバー含む）
3. 協議項目
  - 1) 昭和61年度防災セミナー開催計画について
  - 2) 防火管理制度検討委員会について
4. 本年度も日本病院共済会と共催のもと、神戸において「病院防災セミナー」を開催した。

④ 労務・福利・物品 本年度開催なし

3. 勤務医対策委員会 本年度開催なし

4. 教育委員会

1. 開催回数

教育委員会	3回
研究会委員長会議	4回
2. 出席者数

教育委員会	16名
研究会委員長会議	59名
3. 協議項目（まとめ）
  - 1) '86国際モダンホスピタルショウへの参加、研究会開催についての企画について
  - 2) 昭和61年度研究会運営計画について
  - 3) 第35回日本病院学会  
シンポジウム「病院運営における各部門の役割」シンポジストの打合わせ会議において、その発表内容、発表時間その他当該シンポジウムにかかわる諸々の事項について
  - 4) 昭和61年度研究会開催計画案の検討について

- 5) '86 国際モダンホスピタルショウへ研究会が参加することについて
- 6) 昭和61年度研究会開催計画案にもとづき、61年度の研究会活動の検討
- 7) '86 国際モダンホスピタルショウへ研究会が参加することについて
- 8) 昭和60年度研究会活動の結果について
- 9) 昭和61年度研究会活動について

#### 4. 総 評

定例研は50回、全国研は20回、セミナーは4回、職場リーダー研は3回実施された。また、参加者数は、定例研2,669名、全国研は1,324名、セミナー234名、研修会92名である。

今年度の最大の特徴は、第35回日本病院学会へ初めて10の研究会が参加し、シンポジウムを行なったことである。これにより、日病研究会の活動ぶりが全国に改めて認識された意義はまことに大きい。その後、各県病院協会から講師派遣の依頼が、いくつかの研究会にきている。

次に、全国研は開催地の十分な協力が得られた場合は、ほとんど成功している。したがって、開催にあたっては特に日病役員の先生方のご協力を頂くことが肝要である。開催地の協力が得られないときは、開催を中止することである。さらに、内容を同じくする研究会を開催するときは、合同開催にすることがのぞましい。今年度、開催時期、開催地を重複したケースがみられたが、こうしたことは今後は避けるべきであろう。

次に、全国研でいつも問題となる参加費であるが、60年度は、3,000円+資料代(実費)を原則としてやってきたが、61年度は、この原則を踏まえつつも、幅をもたせて各研究会委員長の自主的な運営を軸にして立案していくこととした。

最後に、国際モダンホスピタルショウでの研究会開催も定着をみて、本年も大変盛況で効果を挙げてきており、この勢いが来年度にもつながることを期待したい。

#### 5. 通信教育委員会

##### ① 診療録管理通信教育部

1. 開催回数 2回
2. 出席者数 11名  
第1回 9月21日(出)  
午後5時～7時30分  
京都：新都ホテル
- 1) 23期・25期生の試験結果について
- 2) 受講生の現況について
- 3) 第28回スクーリング実施計画について

4) 第11回診療録管理学会について

第2回 3月8日(出)

午後6時～7時40分

東京：鉄道会館ルビーホール

1) 24期・26期生の試験結果について

2) 昭和61年度 診療録通信教育実施計画について

② メディカルクラーク通信教育部

1. 開催回数 2回

2. 出席者数 12名

3. 協議項目

第1回 4月1日(月) 15:00～17:30 東京：鉄道会館 ルビーホール葵の間

1) 昭和60年度の教育実施について

前期スクーリング・試験の実施時期について

8/22	23	24	8/25	26	27	28
(木)	(金)	(土)	(日)	(月)	(火)	(水)
# 10 スクーリング			後期試験	# 10 スクーリング		
東京地区			京都地区			

2) 第9回認定審査委員会 9月14日(出) 17:00～ 東京

3) 第9回認定証授与式 10月12日(出) 17:00～ 東京

4) 8月スクーリング時間割り

			午前 9:00～12:00	午後 13:00～16:00
東京地区	早稲田速記	8/22(木)	秘書実務 與那嶺光子	臨床検査学 伊藤 武雄
		23(金)	医療事務	杉本 久
		24(土)	医療学 高橋 政禎	医療用語学 笠井 良一
		25(日)	統一試験 (後期)	
京都地区	ビル葆光	26(月)	医療学 高橋 政禎	臨床検査学 伊藤 武雄
		27(火)	医療用語学 笠井 良一	秘書実務 與那嶺光子
		28(水)	医療事務	杉本 久

第2回 9月14日(土) 17:00~20:00 東京:鉄道会館 ルビーホール葵の間

1) 第9回の認定審査

第9回認定者 22名

2) 延長受講予定者 30名

3) 61年2月の試験・スクーリングの予定

2/11	12	13	14	15	16	17
(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(日)	(月)
#10 スクーリング			前期試験	#10 スクーリング		
東京地区			京都地区			

4) 第9回認定証授与式

60年10月12日(土) 17:00~ 東條会館

5) 認定者の代表は静岡西山病院の夏目和代とする。

6) 合格基準の変更について

新基準 ① 19点以下の科目のないこと。

② 6科目の合計が360点以上であること。

7) 61年の夏季スクーリング期間は

8月21日(木)~24日(日) 東京地区

8月24日(日)~27日(水) 京都地区とする。

③ 事務長養成課程通信教育部

1. 開催回数 1回

2. 出席者数 8名

4月5日(金) 15:00 17:00 日本病院会第1会議室

1) 昭和60年度の教育実施について

原案のとおり承認

2) 第6回生最終試験: 6月8日(土) 京都・本能寺文化会館

3) 第6回認定証授与式: 7月13日(土) 東京

4) 試験

第7回生1年後期 7月14日(日)

第7回生2年前期 61年1月19日(日)

第8回生1年前期 61年1月12日(日)

5) スクーリング

前期 第7回生2年次 7月15日(月)～20日(土)

第8回生1年次 7月8日(月)～13日(土)

後期 第7回生2年次 61年1月20日(月)～25日(土)

第8回生1年次 61年1月13日(月)～18日(土)

6) 会 場

60年7月8日(月)～20日(土)…… 中央区中央公民館 会議室

61年1月13日(月)～25日(土)…… 新宿NSビル22階 SRLセミナールーム

7) 7月のスクーリングは一次案のとおり決定

## 6. 医療経済委員会

1. 開催回数 2回

2. 出席者数 12名

3. 協議項目

- 1) 一人法人制度の病院におよぼす影響について
- 2) 一人法人制度のメリットとデメリット
- 3) 医療法改正セミナーについて
- 4) 医療法改正に伴う医療法人の資産要件について
- 5) 医療法改正に伴う医療法人の人的要件について
- 6) その他

4. 総 評

本年度は初めての試みとして、4月13日(土)に大阪において、「病院経営セミナー」を開催した。また、本年度は医療法改正案が成立したため、医療法人のとりわけ病院に関する今後の問題を検討した。さらに、来年度には「医療法改正セミナー」の開催も検討している。

## 7. 国際委員会

1. 開催回数 7回

2. 出席者数 61名

3. 協議項目

日本病院会の昭和60年度における主として下記の国際活動等に関する事務を掌理した。

#### 1) アジア病院連盟 (AHF) 関連

- ① インドネシア… AHF スタディツアー (5/13～5/17) 参加海外視察研究会を実施。期間中のインドネシア病院協会総会に、本会を代表して竹本吉夫副会長が出席。
- ② 台湾… a. 台湾病院協会学会 (8/10) に、本会を代表して若月俊一副会長が出席。  
b. 台湾病院協会役員丁大田氏来日、厚生省病院管理研究所、関東通信病院、東海大学医学部付属病院、聖路加国際病院にて研修 (10/4～10/8)。
- ③ 韓国… a. 大韓病院協会総会 (5/2) に、諸橋芳夫会長が出席。  
b. 第5次日本医療保険実務研修団来日。メンバー5名が、近畿大学医学部附属病院、奈良県立医科大学附属病院、虎の門病院、東京女子医科大学病院、厚生省病院管理研究所、健康保険組合連合会、社会保険診療報酬支払基金にて研修 (12/1～12/7)。

#### 2) 国際病院連盟 (IHF) 関連

- ① 11月および3月に開催された IHF 実行委員会に IHF 評議員である河野副会長が出席。
- ② 国際病院連盟学会 (プエルトリコ、5/26～5/31) 参加海外視察研究会を実施。
- ③ 1986年 IHF YEAR BOOK に本会より論文二編を投稿。

#### 3) 第35回日本病院学会関連

AHF 加盟国より、韓国・大韓病院協会会長 Dr. Nak Whan Paik、フィリピン病院協会会長 Dr. Evaristo Sanchez、台湾・中華民国病院協会常任理事 Mr. Chin-Un Chang の三氏を第35回日本病院学会に (三重県、9/19～9/21) に招待 (インドネシアは欠席)。

#### 4) 中国関連

- ① 中国海外視察研究会を実施 (10/6～10/17)。
- ② 秋田県病院協会の依頼により、中華青海分会医学考察団の東京での見学日程として、国立がんセンター、関東通信病院、都立駒込病院を紹介 (5/24～5/25)。

#### 5) 倫理部会関連

Hospital and Medical Ethics and Liability について、倫理部会を日病役員室にて開催した (7/31)。

#### 6) その他

諸橋会長の要請により各国の医師削減状況に関するアンケートを各国病院協会あて実施した (4月)。

上記の諸活動のほか、昭和58年度より委員長として活躍された吉岡観八先生が、昭和60年8月31日に逝去されたことを特記しなければならない。IHF では、吉岡先生が中心となって IHF において設立した Japan Hospital Association Travelling Fellowship を、故人の業績

を記念する趣旨で“Yoshioka Japan Hospital Association Fellowship”と改名することを、日本病院会の上の了承を得た上で決定した。

## 8. 臨床予防医学委員会

1. 開催回数 6回（常任委員会4回含む）
2. 出席者数 57名
3. 協議項目
  - ① 6月14日 日本病院会会議室
    - 1) 実情調査（既指定病院の再チェック）について
    - 2) 症例別統計調査集計について
    - 3) 現況報告（臨床予防医学委員会報告）集計について
    - 4) 「人間ドック」書籍作成について
    - 5) 第26回日本人間ドック学会に伴う諸会議について
    - 6) 公立学校共済組合主催の講演会講師依頼について
    - 7) 健保連との諸折衝について
  - ② 8月21日 ゆうほうと会議室
    - 1) 臨床予防医学委員会実施認定委員交替について
    - 2) 既指定病院の再チェックについて
    - 3) 人間ドック症例別統計調査について
    - 4) 昭和59年度臨床予防医学委員会報告について
    - 5) 「人間ドック」書籍作成について
  - ③ 10月17日 日本病院会会議室
    - 1) 日本人間ドック学会会則改正の検討について
    - 2) 来年度（昭和61年度）健保連との料金について
    - 3) 既指定病院の再チェックについて
    - 4) 臨床予防医学委員の退任について
    - 5) 人間ドック、自動化健診指定書の更新について
    - 6) 指定施設の表示看板について
  - ④ 11月21日 日本病院会会議室
    - 1) 日本人間ドック学会機関誌の発行、制作について
  - ⑤ 12月19日 日本病院会会議室
    - 1) 日本人間ドック学会施設長会議（仮称）の運営について

- 2) 人間ドック、自動化健診指定施設の日病年会費について
- 3) 臨床予防医学委員会委員構成について
- 4) 昭和63年度以降のドック学会予定について
- 5) 日本人間ドック学会誌の制作、編集について

⑥ 1月23日 日本病院会会議室

- 1) 来年度（昭和61年度）健保連との短期人間ドック契約について
- 2) 日本人間ドック学会会則改正について

#### 4. 総 評

本年度の委員会活動は非常に多忙をきわめた年度であった。その中心となるものは、昭和61年度の健保連との短期人間ドック料金の契約についてであり、再三に亘り二本杉委員長、鈴木副委員長が交渉を重ねたが、双方の意見調整が出来ず、日病指定人間ドック実施病院各位に多大なるご迷惑をおかけしたことは、非常に遺憾であった。

最終的には前年度と同額の59,000円にて契約締結したが、健保連側の事情により、過去の契約方法を変更希望する意見も根強く残っており、日病指定（健保連契約）の制度が根底より崩壊しかねないため、昭和62年度の契約改正に向け、ねばり強い交渉を重ねてゆかねばならぬと痛感した。しかしながら時代の変遷とともに人間ドック等健診事業も変化しているのも事実であり、現行制度の見なおしの時期に至っていることもいなめず、今後の重要な検討課題とし、日病指定人間ドック施設のレベルアップをはかるばかりでなく、国民全体の予防医学として日病が指導的立場をとれるよう、委員会として各種検討を加えていくこととした。そのために日病指定施設（ドック・自動化）に対し優良施設であるという表示マーク（実費で頒布予定）の製作も検討している。

その他の事業としては、日本人間ドック学会で学会誌を年1～2回発行することが決定したため、委員会の学術図書担当が中心となり、学会誌編集委員会を開催、昭和61年度の早い時期に創刊号を出版するよう準備をすすめている。また、学会誌発行に伴い、日本人間ドック学会会則の改正もあわせて検討し、本年8月開催の第27回日本人間ドック学会（福岡県・久留米市）時の諸会議で了承を得ることとした。

#### 9. 社会保険委員会

1. 開催回数 7回
2. 出席者数 35名
3. 協議項目
  - 1) 医療費改定に伴う今後の動向について

- 2) 医療費および薬価改定に伴う影響率調査について
  - 3) 日医社会保険診療報酬検討委員会について
  - 4) 査定減について
  - 5) 内保連への要望について
  - 6) 医療費改定説明会について
4. 本年度は診療報酬改定の要望事項を中心に検討を行ない、内保連へは小笠原委員が働きかけ、日医へは、北村委員長が委員として参加している社会保険診療報酬検討委員会を通じて働きかけを行なった。

## 10. 組織委員会

昭和61年2月に、入会案内を非会員約5,000病院に郵送した。

## 11. 学術委員会

1. 開催回数 11回
2. 出席者数 92名
3. 協議項目
  - 1) 日本病院会雑誌 '85 6月号～'86 5月号の編集について
  - 2) 日本病院会雑誌 '85 7月号～'86 6月号の企画について
  - 3) 英文誌「Japan Hospitals №4」の編集および出版について
4. 雑誌60年度 ('85 4月号～'86 3月号)

### 主要掲載記事

(4月号)

グラフ：水戸済生会総合病院

巻頭言：病院のStandardization

記事：アメリカの最近の医療情勢について — DRGシステムの導入を中心に — 他

(5月号)

グラフ：静岡県立総合病院

巻頭言：不動のこころ

記事：日本の近代医療の変遷 他

(6月号)

グラフ：西能病院

巻頭言：健康のニューパラダイム — 社会人と健康・長命 —

記 事：医療事故の諸問題 他

(7月号)

グラフ：大口東総合病院

巻頭言：第35回日本病院学会開催に当たって

記 事：医療システムと医療サービス — 地域の中核病院のあり方 — 他

(8月号)

グラフ：'85 国際モダンホスピタルショウ

巻頭言：第11回日本診療録管理学会を開催するにあたって

記 事：21世紀の看護制度を求めて

殊に准看護婦制度の廃止を求めて 他

(9月号)

グラフ：昭和伊南総合病院

巻頭言：患者給食を考える

記 事：医療をめぐる諸問題について 他

(10月号)

グラフ：順天堂浦安病院

巻頭言：病院のQ A

記 事：多様化する医療における臨床検査 他

(11月号)

グラフ：総合病院国保旭中央病院

遺 稿：日本の国民医療を占う — 官僚主義かボランティアズムか —

記 事：医の倫理と病院の信頼度 他

(12月号)

グラフ：第26回日本人間ドック学会

巻頭言：再び病院団体の合同一本化問題を提言

記 事：第26回日本人間ドック学会特集号 学会長講演 健康医学のニュー・パラダイム 他

(1月号)

グラフ：第35回日本病院学会

巻頭言：年頭所感 — 医療費に拡大再生産費を —

記 事：第35回日本病院学会特集号

学会長講演 看護問題への提言 特別講演 人間と医療 他

(2月号)

グラフ：公立昭和病院

巻頭言：看護業務について

記事：イギリスとイタリアの国営医療制度 他

(3月号)

グラフ：第25回病院視察研究会

巻頭言：日本病院会の飛躍を期して

記事：我が国の小児病院に関する研究 他

## 5. 総 評

今年度の雑誌の編集・発行については、記事の面においては、3大会の記事をはじめとして、全国研究会・セミナー、常任理事会での講演、また会員病院からの投稿と、きわめて記事の集まりがよかった。したがって全般的に編集作業も順調に進めることができた。記事面での特色は、新しく連載もののコンピュータ講座の掲載を始めた。連載5まで発行できて新年度へ引きつがれて、連載は継続中である。もうひとつ、各研究会の1年間の締めくくりとして、従来は単に開催結果報告を掲載してきたが、今年度は趣きをかえて、エピソード、苦労ばなしなども混じえたものを各研究会に執筆してもらったことである。このことが、研究会活動に少しでも親近感をもつことにつながれば、幸いである。

さて、反省点としては、200ページに近い号が3号ばかりであったことと日本人間ドック学会の一般演題で、図・表をカットしないで掲載してしまったため、印刷・製本費が高くなってしまったことである。このことは、編集上からもまた予算の面からも大きな反省材料となった。各学会の一般演題は原稿用紙2枚（図・表を入れないで）という従来からの原則を守って、原稿を提出してもらうことを徹底すべきものと思う。また1冊の雑誌のポリュームは、第3種郵便の場合1,000グラムという重量制限があるため、1冊のページ数は約150～160ページまでにするのがよいのではないかと考える次第である。

来年度もよい原稿をたくさんいただいて、充実した誌面づくりに励んでいきたいと思っている。会員の皆さまの一層のご愛読ご寄稿をお願いしたい。

## 12. 広報委員会

1. 開催回数 7回
2. 出席者数 61名
3. 協議項目
  - 1) 59年度活動報告
  - 2) 日病ニュース300号記念誌の編集計画 ①発行期日 ②体裁 ③収支予算

④記事内容・企画 ⑤編集体制、等

- 3) 座談会の開催計画
- 4) 日病ニュース 300号特集号の計画
- 5) 座談会「本人1割負担と点数改定後の病院経営」
- 6) 300号記念誌の広告募集計画
- 7) 厚生省記者クラブ加盟問題について
- 8) 座談会「高額医療機器の共同利用」
- 9) 300号記念誌寄稿分の検討
- 10) 委員会来年度活動、予算計画
- 11) 座談会「選択と淘汰の時を迎えて」
- 12) 300号記念誌の記事内容、表紙デザイン検討
- 13) 座談会「21世紀の医療に向かって」
- 14) 広報委員会活動のまとめと課題
- 15) 300号記念誌の完成、報告

#### 4. 総 評

前年度に引き続き、「医療法の一部改正」「事業税の非課税存続」「健保法改正の影響」「中間施設構想」「看護制度問題の検討」「医療監視、指導通達」「医療法施行規則の改正」「老人保健法改正案」「診療報酬の改定、是正」「病院税制の改善」等をめぐる諸問題に関して、日病、4病団の対応を含め日病ニュースに記事掲載。政府案に対し、真正面から反対するもの、代案を提言したもの、現行の改善、要望を提出したものなど、各方面とも調整をはかりながら日病の主張を展開した。

年度末に、日病ニュースが通算300号を迎えるのにもない、「創刊300号記念誌」の製作が企画され、15年間のニュース発行、広報委員会活動に一区切りをつけることになった。過去の記録的なもの、現在および将来の重要問題がとり上げられ、B5判、312ページの記念誌として完成、3月25日号臨時増刊として発行された。

### 13. 諸規程検討委員会

本年度開催なし

#### 〔特別委員会〕

##### 1. 病院情報センター委員会

###### A. 委員会

1. 開催回数 6回
2. 出席者数 41名
3. 協議項目

- 1) 病院情報センターセミナー開催計画について
- 2) 病歴データの基本調査について
- 3) 病院用コンピュータの標準化のチェックリストについて
- 4) 日病雑誌への「コンピュータ講座」掲載について
- 5) ホスピタルショーへのパネル展示について
- 6) 医事コン協議会より厚生省への要望検討について

4. 本年度は、医事コン協議会より厚生省へ提出された要望書の検討を行っており病院情報センター、医事研で共同検討を来年度も引き続き行なうこととなっている。

###### B. シンポジウム

「病院における効果的なコンピュータの使い方」

1. 日時 昭和60年6月15日(土)～16日(日)
2. 会場 サンシャインシティ文化会館
3. 参加者数 116名
4. 演題

- ① 総合的病院情報システム形成の努力と効果

座長 関東通信病院 部長 三宅 浩之

- ② 病院業務処理から病院管理システムへの発展

座長 杏林大学医学部 教授 高橋 政祺

- ③ ニューメディアと医療

病院情報センター委員 岡田 行雄

- ④ グループ別討論会

## 2. 国際モダンホスピタルショウ委員会

開催回数 7回 出席者数 94名

1. 昭和60年  
6月6日(木) 諮問会議 パシフィックホテル 河野副会長他 15名出席  
テーマ：'85 MHS 報告
2. 7月26日 '86 国際モダンホスピタルショウ 第1回企画委員会 日本経営協会会議室  
テーマ：前回の反省 三宅・竹本副会長他 11名出席
3. 9月12日 第2回企画委員会 日本病院会  
テーマ：'86 国際モダンホスピタルショウ企画について 三宅委員長他 12名
4. 9月22日 第3回企画委員会 日本病院会  
テーマ：出品案内作製について 三宅委員長他 11名
5. 10月22日 第4回企画委員会 日本病院会  
テーマ：開催説明会について 三宅委員長他 12名
6. 昭和61年  
1月14日 第5回企画委員会 番町グリーンパレス  
テーマ：企画について 三宅委員長他 20名
7. 3月6日 諮問会議 パシフィックホテル  
テーマ：企画他について報告 河野副会長他 13名

## 第5 医療従事者無料職業紹介事業

(紹介状況)

昭和60年4月～61年3月

職種別	項目	求職件数	求人件数	就職件数	繰越求職件数
医	師	58	83	16	9
看	護 職 員	0	38	0	0
上記を除くその他の医療従事者		15	28	4	3
計		73	149	20	12

(就職者の地域別状況)

職種別	項目	就職件数	北海道	東北	関東	内東京	甲信越	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州
医	師	16	0	1	15	(7)	0	0	0	0	0	0	0
看	護 職 員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上記を除くその他の医療従事者		4	0	0	4	(3)	0	0	0	0	0	0	0
計		20	0	1	19	(10)	0	0	0	0	0	0	0

(就職者の年代別状況)

(診療科別)

職種別	項目	就職件数	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
医	師	16	0	4	3	5	3	1	0
看	護 職 員	0	0	0	0	0	0	0	0
上記を除くその他の医療従事者		4	2	0	0	1	1	0	0
計		20	2	4	3	6	4	1	0

内科医師 14  
外科医師 2  
放射線技師 1  
診療録管理士 1  
その他 2

(総評) 本年度は求職開拓として、医育機関又医療従事者養成専門学校との情報交換等による連携強化を積極的に促進した。特にパラ・メディカル部門についての効果は次期以降に発現すると予想される。対して求人開拓は、本会ニュースを有効利用し新規開拓に務めたが、本会の組織率の低い府県で求職者の要求に答えられず、次年度の課題として問題を持ちこしている。同様に病院施設側の求人が、若年層の医師に集中している関係上、高齢者の医師の要望に答えるべき診療所等の求人開拓が急務の問題としてクローズアップしている。

次年度についても、このような問題意識にもとづき、時の流れに沿って柔軟に対処していきたい。

## 第6 定例研究会

### 1. 定例診療システム研究会

1. 開催回数 4回

2. 開催概要

- (1) 4月23日(火) 平塚胃腸病院 10施設 16名
- ① 「時代の流れより見た消化器病診療の実態」 平塚胃腸病院 院長 平塚 秀雄
- ② 施設見学
- (2) 6月18日(火) 東京女子医科大学病院 母子総合医療センター 16施設 32名
- ① 「母子総合医療センターの意義について」  
— 母性・新生児部門の管理と利点について —  
東京女子医科大学 産婦人科学教授 武田 佳彦
- ② 施設見学
- (3) 12月9日(月) 国立小児病院 小児医療研究センター 8施設 16名
- ① 「乳児行動医学の最近の話題」  
国立小児病院小児医療研究センター センター長 小林 登
- ② 施設見学
- (4) 3月11日(火) 東京専売病院 14施設 22名
- ① 施設概況説明 東京専売病院 院長 山村 秀雄
- ② 施設見学

### 2. 定例事務管理研究会

(今年度の定例研究会は諸般の事情により全て中止とした。)

### 3. 定例医事研究会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

- (1) 6月14日(金) 池袋ワールドインポートマート 104施設 177名
- ① 「診療報酬点数算定の盲点」 河北総合病院 医事課係長 大西 正利  
北品川総合病院 事務部顧問 加藤 雄二
- ② 「医事課員の知識」 — 保険請求等のレベルアップの仕方 —  
聖路加国際病院 医事課次長 湯 浅 誠

社会保険蒲田総合病院 事務長 安藤 秀雄

(2) 10月24日(木) 番町グリーンパレス 120施設 215名

「治療材料を中心とした保険請求の問題点を探る」

「増加の一途をたどる査定減に対応するには」

① 「治療材料を中心とした保険請求の問題点を探る」

a 漏れ易い治療材料 東京警察病院 医事第一課課長補佐 日輝 勝郎

b 治療材料と保険適否 三井記念病院 医事課顧問 三上 晃

② 「増加の一途をたどる査定減に対応するには」

a 査定の現況と今後の展望 佼成病院 医事係長 藤田 勝義

b 具体的な査定減対策〔I〕 越谷市立病院 医事課第二係長 染谷 光一

c 具体的な査定減対策〔II〕 虎の門病院 外来管理課係長 船津 浩

(3) 2月21日(金)～22日(土) 水上市 ホテル聚楽 111施設 192名

① 医事課員として必要な基礎医学知識(第30回)

「胃癌について」

— 胃の解剖生理から手術の実際・術後管理まで医事課員にわかりやすく解明 —

本島病院 外科医長 山田 修司

② グループ討議

③ 情報交換

④ 「請求漏れの発見方法とその防止対策」

— 具体的な症例をもとにこれを解明する —

北品川総合病院 事務部顧問 加藤 雄二

⑤ 「病院としての査定減対策」

— 医事課としての知識の範囲とその習得方法

並びに効果的な医師のレセプトコメントを得るための具体策 —

越谷市立病院 医事課第二係長 染谷 光一

⑥ 事例解答例の説明

⑦ 全体討議

#### 4. 定例庶務人事研究会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

(1) 6月14日(金) サンシャインシティ文化会館 63施設 88名

- ① 「魅力的な院内報の作り方」 ㈱形成社 代表取締役 中 城 民 夫
- ② 「院内広報とCI (Corporate Identity)」 聖路加国際病院 事務長 上 林 三 郎
- ③ 「病院事務管理部門におけるパソコンとワープロ活用の方法」 プラス・システム・エンジニアリング㈱ 常務取締役 橋 本 真 一
- ④ 「サービスとは何か」 ㈱ダスキンヘルスケア 取締役副社長 ブライアン・オクスリイ
- ⑤ 「病院TQC」 日本管理技術協会 代表取締役 遠 間 修 平
- ⑥ パネルディスカッション 「病院賃金体系について」
- (2) 7月5日(金)～6日(土) 東京都 千代田生命研修センター 12施設 17名
- ① 「クリニカルラダー」— その考え方と実践 — 聖路加国際病院 総婦長 内 田 卿 子
- ② 「これからの病院賃金体系」— 年功給から職能給へ — 石和温泉病院 事務長 齊 藤 正 夫
- ③ パネルディスカッション 「看護体制について」— その問題点と改善策 — 東京衛生病院 人事課長 西 浦 捷 裕  
武蔵野赤十字病院 看護婦長 中 原 久 江
- ④ 分科会  
a 「クリニカルラダー」  
b 「病院賃金体系」  
c 「看護体制」
- ⑤ 分科会報告
- ⑥ 総括講演 日本病院管理研究協会 常務理事 石 原 信 吾
- (3) 1月30日(木) SRL セミナールーム 22施設 35名  
「病院事務担当者のためのQCサークルセミナー」
- ① TQC (Total Quality Control) から AQM (All Quality Management) へ  
a AQM の基本的考え方  
b AQM の七つの方策
- ② QCサークル  
a QCサークルとは何か

b Q C サークル活動の始め方

c Q C 七つ道具

③ 演習

a オリエンテーション

b グループディスカッション

c 作図（特性要因図、パレート図）

d 発表

e 講評とまとめ

5. 定例用度研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

(1) 6月20日(木) クラヤ薬品(株) 第3セクター	19施設	27名
① 「医薬品流通の現状と問題点」	クラヤ薬品(株) 副社長	内匠屋 理
② 「クラヤ薬品の物流について」	クラヤ薬品(株) 常務取締役	桑島 久雄
③ 「第3配送センターの概要」	クラヤ薬品(株) 部長	牛山 喜美雄
④ センター見学		
(2) 3月13日(木) 財土木建築厚生会会議室	42施設	44名
① ビデオ「薬価をめぐる諸問題」		
② 「医薬品業界をめぐる諸情勢」	薬事ニュース社記者	東 栄一
③ 「医薬品に関する調査・報告」	用度研究会委員	梅津 勝男
④ グループ討議「薬価改定の情報交換など」		

6. 定例施設研究会

1. 開催回数 4回

2. 開催概要

(1) 6月12日(木) 順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院	36施設	59名
① 「合理化された近代的病院」— 各種委託管理の現状 —		
② 施設見学		
(2) 9月10日(火) 日本病院会会議室	17施設	26名
「病院の施設管理におけるTQC考察」— クレーム分析よりの考察 —		
(3) 12月12日(木) 日本病院会会議室	41施設	51名

① 「外注委託業務の考察」

- 外注委託業務における業務内容の考察 —
- 順天堂浦安病院における施設管理の具体例 —
- 防災面での外注委託業務 —

② 「压力容器（オートクレーブ）の保守点検」

(4) 3月6日(木) 日本病院会会議室 14施設 18名

「施設管理の効率化事例」

- ゴミ焼却熱利用による省エネ —
- 蒸気設備の改善による燃料節減例 —
- QC導入による改善例 —

## 7. 定例会計経理研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

(1) 6月15日(土) サンシャインシティ文化会館 43施設 52名

- ① 「資金繰り表の作り方」
- ② 「収支概算表の作り方」
- ③ 「試算表の出し方」
- ④ 「原価償却の出し方」

(2) 9月11日(水) 順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院 27施設 38名

- ① 「外注委託による経費節減の効果」
- ② 「院内施設見学」

## 8. 定例労務研究会

(今年度は、全て庶務人事研究会との合同開催として実施した。)

## 9. 定例看護管理研究会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

(1) 6月15日(土) 池袋ワールドインポートマート 79施設 184名

「医療を受ける側からの医療者への注文」

日本テレビアナウンス室 チーフアナウンサー 小林 完 吾

- |     |                     |           |       |       |
|-----|---------------------|-----------|-------|-------|
| (2) | 10月23日(水) 主婦の友ビルホール |           | 29 施設 | 120 名 |
|     | 「日本の医療事情の展望」        | 社病院管理研究協会 | 常務理事  | 石原 信吾 |
| (3) | 2月17日(月) 主婦の友ビルホール  |           | 58 施設 | 178 名 |
|     | 「看護業務の法的な責任について」    | (社)日本看護協会 | 常任理事  | 井上 幸子 |

## 10. 定例薬事管理研究会

1. 開催回数 4回

2. 開催概要

- |     |                               |                          |       |       |
|-----|-------------------------------|--------------------------|-------|-------|
| (1) | 6月15日(土) 池袋サンシャイン文化会館         |                          | 59 施設 | 69 名  |
|     | 「医療に貢献するための薬品管理について」          |                          |       |       |
|     | ① 事務部門の立場から                   |                          |       |       |
|     |                               | 用度研究会委員長 聖路加国際病院 用度課長    |       | 塩山 雅英 |
|     | ② 薬剤部門の立場から — 主として病棟管理 —      |                          |       |       |
|     |                               | 国立病院医療センター 薬剤課D I 室      |       | 古泉 秀夫 |
| (2) | 10月25日(金) 日本赤十字社 中央女子短期大学2階講堂 |                          | 29 施設 | 33 名  |
|     | 「診療報酬・調剤報酬」 — 医療をめぐる諸情勢 —     |                          |       |       |
|     |                               | 日本薬剤師会専務理事 中央社会保険医療協議会委員 |       | 望月 正作 |
| (3) | 12月7日(土) 全国町村議員会館 6階第1・第2会議室  |                          | 11 施設 | 12 名  |
|     | 「わが国製薬産業の長期ビジョンと基本方策」         |                          |       |       |
|     | — メーカーと病院のかかわりあい —            |                          |       |       |
|     |                               | 日本製薬工業協会 常務理事            |       | 新谷 鉄郎 |
| (4) | 2月13日(木) 日本病院会会議室             |                          | 42 施設 | 46 名  |
|     | 「医療法改正と薬剤師」                   | 厚生省薬務局 企画課課長補佐           |       | 土井 脩  |

## 11. 定例栄養管理研究会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

- |     |                       |                 |       |        |
|-----|-----------------------|-----------------|-------|--------|
| (1) | 4月16日(火) 日本栄養会館       |                 | 28 施設 | 38 名   |
|     | 「スポーツ医学と食生活」          |                 |       |        |
|     | — 運動とエネルギー —          | 順天堂大学体育学部 助教授   |       | 青木 純一郎 |
|     | — 運動と栄養 —             | 女子栄養大学 生理学研究室講師 |       | 金子 佳代子 |
| (2) | 6月14日(金) (調理研究会と合同開催) |                 |       |        |

	池袋サンシャインシティ文化会館	56 施設	88 名
	「日本人の疾病と栄養問題」	東京大学医学部 保健栄養学教授	細 谷 憲 政
(3)	11月12日(火) 日本栄養会館	37 施設	50 名
	「栄養に生かす心理学」	社経済懇話会五大塾々長 心理学・医学博士	鈴 木 丈 織

## 12. 定例調理研究会

1. 開催回数 3 回
2. 開催概要

(1)	5月14日(火) 日本栄養会館	69 施設	124 名
	「これからの病院調理師の在り方」	厚生省保健医療局 国立療養所課	原 正 俊
(2)	6月14日(金) (栄養管理研究会と合同開催)		
(3)	3月6日(木) 済生会横浜市南部病院	52 施設	111 名
	「厨房見学」		

## 13. 診療録管理研究会

1. 開催回数 4 回
2. 開催概要

(1)	4月13日(土) 第72回	順天堂浦安病院	39 施設	59 名
(2)	7月20日(土) 第73回	中央鉄道病院	39 施設	50 名
(3)	10月12日(土) 第74回	杏林大学病院	40 施設	66 名
(4)	1月11日(土) 第75回	松戸市立病院	24 施設	39 名

極く少数ではあるが診療録管理業務に関心を寄せる医師の参加が目につくようになった。

## 14. 定例病院管理総合研究会

1. 開催回数 1 回
2. 開催概要

(1)	11月16日(土) 家の光ビル 会議室	15 施設	28 名
	「医療を受ける側からの医療者への注文」	日本テレビアナウンス室 チーフアナウンサー	小 林 完 吾

## 15. 定例放射線研究会

1. 開催回数 1回

### 2. 開催概要

(1) 8月9日(金) 日本病院会会議室 10施設 11名  
「QCサークル活動の基礎」

富士メディカルシステム(株) 東京支店長代理 松尾良三

## 16. 定例臨床検査管理研究会

1. 開催回数 1回

### 2. 開催概要

(1) 6月15日(土) 池袋サンシャインシティ文化会館 46施設 59名

① 「腫瘍マーカーの最近の動向」

自治医科大学 臨床病理学教授 河合忠

② 「多様化する医療における臨床検査」

日本大学医学部 臨床病理学教授 河野均也

## 17. 定例ハウス・キーピング研究会

1. 開催回数 3回

### 2. 開催概要

(1) 7月8日(月) 東京医科大学 八王子医療センター 9施設 17名  
「施設見学」

— 病院フロアの大半にカーペットを敷いた利点と管理 —

(2) 10月21日(月) 日本病院会会議室 30施設 41名  
「病院における臭いについて」

理研香料工業(株) 開発研究所所長 石橋昭

(3) 1月22日(水) 日本病院会会議室 14施設 23名  
「米国のハウスキーピング業務の実態について」

(株)ダスキンヘルスケア 取締役副社長 ブライアン・オクスリィ

## 18. 内科臨床協議会

1. 開催回数 4回 (各グループ随時開催分を除く)

### 2. 開催概要

- (1) 昭和60年6月27日(木) 1グループ・D班 東京都済生会中央病院 31名  
 検討症例  
 ① リンパ腫の分類の最近の動向
- (2) 昭和60年11月28日(木) 1グループ・C班 関東通信病院 24名  
 検討症例  
 ① 黄疸を主訴として入院した24歳のソーブランドの女性(北品川総合病院)  
 ② 不明発熱、皮下結節、Pelger 核異常で発症し興味ある経過をとった68歳女性の1例  
 (厚生中央病院)  
 ③ オロナミンC Addictionとして精神科に入院した患者(関東通信病院)
- (3) 昭和61年2月20日(木) 2グループ・B班 関東中央病院 28名  
 検討症例  
 ① 臨床的に悪性関節リウマチが疑われた1剖検例(自衛隊中央病院)  
 ② 腹部腫瘤の1症例(中央鉄道病院)  
 ③ 膿胸・腫瘍の鑑別に困窮した胸壁腫瘤の1例(関東中央病院)  
 ④ 糖尿病と長期間に亘り低蛋白血症を呈した1症例(国立大蔵病院)
- (4) 昭和61年3月25日(火) 1グループ・B班 東京警察病院 15名  
 検討症例  
 ① 僧帽弁狭窄症に脳栓塞を合併した1例(心房細動、僧帽弁狭窄症+脳塞栓症)

## 19. 医療費改定による説明会

1. 開催回数 2回
2. 開催月日 昭和61年3月15日(土) 東京  
 昭和61年3月16日(日) 神戸
3. 開催地 東京 江戸川総合文化センター  
 神戸 西山記念会館
4. 参加者数 東京 511名  
 神戸 532名
5. 講師 東京 厚生省保険局医療課 今田 寛睦  
 神戸 厚生省保険局医療課 麦谷 真理

## 第7 全国研究会

### 1. 全国診療システム研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和60年10月22日(火)～23日(水)
3. 開催地 千葉県 ① 国保旭中央病院  
② 島田総合病院  
茨城県 ③ 鹿島労災病院

4. 参加者数 9施設 14名

5. 演題 (1) 講演

① 「病院完成への道」

— 我が病院の歩みとめざすもの —

国保旭中央病院 院長 諸橋 芳夫

② 「鹿島労災病院の現状について」

鹿島労災病院 院長 坂巻 皓

③ 「島田総合病院の現状について」

島田総合病院 院長 島田 隆

(2) 施設見学

① 国保旭中央病院

② 鹿島労災病院

③ 島田総合病院

### 6. 総評

- (1) 国保旭中央病院は今さというまでもなく、諸橋院長の下、先生の医療についての理想を具現化した病院である。参観、講演を通じてハードの面はもちろん、ソフトの面においても日進月歩の医学を敏速に取入れ、着々と完成への途を歩み続けている状況がうかがわれた。また患者、職員に対する細かい気配りが随所になされているのに感銘した。
- (2) 鹿島労災病院の第一印象は明るさと近代性ということであった。旭中央病院が貫禄ともに備った働きざかり病院とするならば、本院は若さ溢れる病院というべきであろう。コンピュータシステムの充実、看護体制の改革、外来待時間の短縮、薬品の在庫管理の改良等、病院運営に新しい試みが多く取入れられており、多くの刺激を与えられた。
- (3) 島田総合病院は銚子市の私立病院である。私立病院の良さを十分に生かしており、病院全体に家族的な雰囲気が増え、職員の表情、態度が暖かさに溢れているのが、ひしひしと感ぜられ

た。経営上の問題があると考えられるにもかかわらず、施設、設備、機器の面でも、地域の中核病院としての役割を十分果たすだけのものが備えられており、その活動ぶりは注目に値するものであった。

- (4) 参観の機会を与えてくださった上、御講演いただいた上記の三病院の院長先生に、心から感謝いたします。また、2日間にわたり病院のバスを利用させてくださり、夜の懇談会に御出席、病院運営について種々御指導賜った旭中央病院・諸橋院長はじめ幹部諸先生に厚く御礼申し上げます。

## 2. 全国事務管理研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和60年11月15日(金)～16日(土)
3. 開催地 仙台市・仙台赤十字病院 大会議室
4. 参加者数 52施設 63名
5. 演 題
  - (1) 「効率的な人員配置と委託外注」  
 順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院 事務部長 安 田 尚 之
  - (2) 特別講演  
 「最近の病院経営の諸問題」  
 東北大学医学部 病院管理学教室 助教授 車 田 松三郎
  - (3) 「院外処方、全面実施のメリット・デメリット」  
 河北総合病院 事務長 佐々木 和 男
  - (4) 「中間施設の設立条件と採算性」 信愛病院 事務長 長 澤 一 男
  - (5) 特別対談  
 「病院経営から見た看護問題」  
 国家公務員共済連東北公済病院 看護部長 斎 田 トキ子  
 横浜赤十字病院 事務部長 益 田 啓 作
  - (6) 「病院経営面から見た査定問題」  
 社会保険蒲田総合病院 事務長 安 藤 秀 雄
  - (7) シンポジウム  
 「経営改善と職場の活性化」  
 司 会 国家公務員共済連虎の門病院 事務部長 黒 田 幸 男  
 シンポジスト 仙台社会保険病院 事務部長 高 橋 専一郎  
 ” 仙台市立病院 事務局長 菅 原 泰 次

シンポジスト 順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院

事務部長 安田 尚之

”

聖路加国際病院 事務長 上林 三郎

## 6. 総 評

本年度の全国研究会は、昨今の病院をとりまく状況が、ますます複雑化し、病院経営の方向も大きな変革を迫られている環境下で、病院運営管理者はどのように対処したらよいかを追求するため、最近の病院経営の諸問題から、人員配置問題、外注問題、看護問題、査定対策問題、さらに職場の活性化について、と幅広くテーマを取り上げた。特に看護問題については、初のこころみとして特別対談という型式を採り、両講師は原稿なしの対談となったため、実践に即した具体的なものとなり、非常に参加者の興味を引き、真剣さを感じた。また、シンポジウムでも各講師に総論的なものでなく、具体的発表をお願いしたため、参加者の熱心さが、非常に強く感じられた勉強会となった。

今後、一方的な講演でなく、参加者も一体となって考えていけるような研修会として企画する必要性を強く感じた。

また、今回の研修会を開催するにあたり、地元よりの講師選定から事前準備、さらに当日の運営まで、多大なるご尽力を賜りました仙台赤十字病院の職員各位に対し、深く感謝するしだいである。

## 3. 全国医事研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催期日 (第1回) 昭和60年5月24日(金)～25日(土)  
(第2回) 昭和60年11月15日(金)～16日(土)

3. 開催地 (第1回) 札幌市 札幌郵便貯金会館  
(第2回) 熊本市 法華クラブ熊本

4. 参加者数 (第1回) 73施設 128名  
(第2回) 58施設 97名

5. 演 題 (第1回)

(1) 基礎医学講座(第29回)

「高血圧の最近の治療」

旭川赤十字病院 循環器部長 小林 祚彦

(2) 「診療報酬点数算定の盲点」

越谷市立病院 医事課第二係長 染谷 光一

旭川赤十字病院 医事課長 小 谷 裕 一  
河北総合病院 医事課係長 大 西 正 利

(3) 「医事課員の知識」

— 保険請求等のレベルアップの仕方 —

苫小牧市立総合病院 医事課係長 大 山 忠 信  
三井記念病院 医事課顧問 三 上 晃

(4) グループ討議

(5) 事例解答例の説明

(6) 全体討議

(第2回)

(1) 米国における最近の医療費政策

「D. R. G.」(Diagnosis Related Group)について

日本SMS<sup>(株)</sup> 病院システムズコンサルタント アイリーン・清田

(2) グループ討議

(3) 「増加の一途をたどる査定減に対応するには」

熊本赤十字病院 医事課長 岡 村 博 之  
本島病院 業務課長 中 野 隆 男

(4) 「治療材料を中心とした保険請求の問題点を探る」

済生会熊本病院 医事係長 緒 方 博  
三井記念病院 医事課顧問 三 上 晃

(5) 事例出題者による解答例の説明

(6) 全体討議

## 6. 総 評

従来からの基礎医学講座、事例研究に加え、病院経営の観点から医事課職員が抱えている諸問題をタイムリーにプログラムとして盛り込むことを配慮したことも反映し、延131施設、225名の参加者を集めた。

テーマとして、「診療報酬点数算定」、「査定減」、「D. R. G.」等は時宜にかない、非常に参考になったとの声が届いている。

また、事例研究のグループ討議や全体討議は、単に事例研究の範囲にとどまらず、医事業務全般についての終始熱のこもった質疑が交され、時間不足を訴えられた。

#### 4. 全国庶務人事研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和61年10月17日(木)～18日(金)
3. 開催地 神戸市 兵庫県民会館
4. 参加者数 70施設 95名
5. 演題 (1) 「病院経営管理の現状と問題点」 小原病院 院長 小原 知次郎  
(2) 「病院事務効率化へのアプローチ」  
— 「病院事務管理マニュアル」編集にあたり考えたこと —  
聖路加国際病院 総務課次長 石山 稔  
(3) 「病院TQC」— Q Cサークル活動の実例 —  
西能病院Q Cサークル事務局  
(4) パネルディスカッション  
「これからの病院賃金体系」  
— 年功給から職能給へ —  
浅香山病院 管理部長付 西川 良二  
石和温泉病院 事務長 斉藤 正夫  
(5) 「病院におけるC Iの実際」  
大和六地藏病院 理事 松本 彪  
(6) パネルディスカッション  
「看護体制をめぐる問題点と改善策」  
神戸市立中央市民病院 看護部長 小林 道子  
横浜赤十字病院 事務部長 益田 啓作  
吉田病院 事務局長 杉本 良一

#### 6. 総 評

ここ数年来取り組んでいる「病院を取り巻く新しい時代への対策」をふまえて、本年度は庶務・人事・労務部門の立場から一歩進み、病院経営の観点から「病院賃金体系」、「TQC」、「看護体制」、さらに「CI」を加えた企画をし、終始熱のこもった質疑が交された。

また昨年の「病院賃金実態調査資料集」に続き、本年度は全国会員病院を対象にアンケートをとり、「病院事務管理マニュアル」を編集した。それに対して予想以上の好評を博し、各病院での成果が期待されている。

## 5. 全国用度研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和60年11月1日(金)～2日(土)
3. 開催地 松江市 島根県教育会館 大会議室
4. 参加者数 58施設 68名
5. 演題 (1) オリエンテーション — 用度研究会のあゆみ —  
用度研究会委員長 塩山雅英
- (2) アンケート調査報告  
A. 用度業務に関する調査について  
— アンケートを中心として — 用度研究会委員 川田国雄
- B. 医薬品を除いた物品の価格調査について  
— アンケートを中心として — 用度研究会委員 手嶋基行
- C. 医薬品に関する調査について  
— アンケートを中心として —  
用度研究会副委員長 梅津勝男
- (3) ビデオ：NHK特集「ビデオで見る四兆円産業の内幕」  
— 価格はこうして決る —
- (4) 第1回近代的医薬品卸業の配送センター見学と意見交換会をふり返って  
— スライドおよび資料説明 —  
用度研究会委員長 塩山雅英
- (5) 「医薬品卸業の現状」  
㈱三星堂副社長 藤井康男  
松本薬品㈱ 常務取締役 松本浩  
㈱三星堂 企画室課長 松石正昭
- (6) グループ討議
- (7) グループ発表
- (8) 全体討議・まとめ 総司会 用度研究会副委員長 梅津勝男

## 6. 総評

地元の森本正紀日病代議員から開会の挨拶をいただき、委員長からのオリエンテーションをスタートに、アンケート調査結果の分析報告が行われた。今回は全国から160件の回答を得て、その集計による①用度業務、②物品価格（医薬品を除く）、③医薬品に関する調査で、検討を行った。

その後、藤井康男氏らから講演が行われたが、医薬品卸業の現状について海外の状況も混え話

された。

アンケート調査による“実情”の把握と解析は好評で、今後とも業務に直結した問題を中心に  
して研究会開催を考えたい。

## 6. 全国施設研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和60年10月3日(木)～4日(金)
3. 開催地 横浜市 神奈川県保健教育センター
4. 参加者数 55施設 65名
5. 演 題
  - (1) 「電気のトラブルと保守」― 現場での対応 ―  
北品川総合病院 施設課長 中 島 昭二郎
  - (2) 「給排水設備保守の効率化考察」  
都立豊島病院 主事 中 西 照 録
  - (3) 「プレート式熱交換器導入について」  
東京都済生会中央病院 施設課長 辺 見 九十九  
東京都済生会中央病院 施設課副課長 川 永 富 夫
  - (4) 「防災について」  
癌研究会附属病院 施設管理課長 松 岡 文 男
  - (5) 「医療ガスの集中配管について」  
― 医療ガスの配管のメリット・デメリット ―  
― 施工時の苦心談 ―  
河北総合病院 施設課長 瀬 川 篤 宏
  - (6) 施設見学 大口東総合病院
  - (7) 「病棟の環境について」  
― 悪臭・騒音等の対策 ―  
武蔵野赤十字病院 庶務係長 小 峰 建 二
  - (8) 「増改築等の建設計画の考察」  
順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院 静 昌 平
  - (9) 「病院の委託外注について」  
自治医科大学 事務局技監 倉 持 一 雄
  - (10) グループ討議
  - (11) 施設見学 済生会横浜市南部病院

## 6. 総 評

参加者が単に講演を聞くだけに終始せず、グループ討議、あるいは病床規模の異なる2病院の施設見学を盛り込み、昨年以上に各病院が抱える諸問題への糸口が見つけられるようなプログラム編成に心掛けた。

参加者は予想を下回ったにもかかわらず、現場担当者相互の、終始熱のこもった質疑が交され、時間不足を感じさせる程であった。

## 7. 全国会計経理研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和60年11月21日(休)～22日(金)
3. 開催地 東京都 主婦の友ビルホール
4. 参加者数 56施設 61名
5. 演 題 (1) 「最近の病院税制について」

有澤総合病院 院長 有澤源蔵

- (2) 「設備資金計画について」

明治学院大学 経済学部教授 森藤一男

- (3) 「患者統計分析と予測のたてかた」

聖路加国際病院 総務課次長 中村彰吾

- (4) 「比率に基づく経営分析の進め方と昭和59年度集計結果の発表」

河北総合病院 財団事務局常勤顧問 酒泉春雄

- (5) 「最近の税務調査と対応策」

森公認会計士共同事務所 公認会計士 石井孝宜

- (6) 施設見学 聖路加国際病院

## 6. 総 評

例年会計・経理部門担当者に好評を博している「経営分析集計結果の発表」のほか、「設備資金計画」、「患者統計分析と予測」、「税務調査と対応策」、「施設見学」を盛り込み、プログラムを企画した。

特に、本年度の新テーマである「患者統計分析と予測」には、参加者の多くから非常に参考になったとの声があり、また「税務調査と対応策」には熱心な質疑が繰り返され、日常業務での諸問題に対して問題解決の糸口が見つけられたが、時間不足の指摘が参加者からあり、今後の課題として残された。

## 8. 全国労務研究会

(今年度は、全て庶務人事研究会との合同開催として実施した。)

## 9. 全国看護管理研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催期日 (第1回) 昭和60年7月11日(休)～12日(金)

(第2回) 昭和60年11月28日(休)～29日(金)

3. 開催地 (第1回) 旭川市 旭川市勤労者福祉会館

(第2回) 那覇市 沖縄郵便貯金会館

4. 参加者数 (第1回) 45施設 93名

(第2回) 40施設 192名

5. 演題 (第1回)

講演 「看護業務の法的な責任について」

三井法律事務所 弁護士

三井政治

講演 「職場リーダーの活性化について」

前東京専売病院 看護部長

須谷照子

北海学園大学 経済学部教授

後藤啓一

シンポジウム 「老化現象とは」

旭川赤十字病院 循環器科部長

小林祚彦

「老人福祉について」

旭川赤十字病院 医療社会事業係長

大坂英治

「老人看護について」

旭川赤十字病院 看護婦長

黒川芳子

(第2回)

講演 「看護業務の法的な責任について」

饗庭法律事務所 所長

饗庭忠男

講演 「職場リーダーの活性化について」

聖路加国際病院 総婦長

内田卿子

シンポジウム 「看護の継続サービスの実践と課題」

① 行政の立場

沖縄県環境保健部次長

大嶺経勝

② 地域看護の立場

沖縄県八重山保健所 看護課長

唐真佑子

③ 病院看護の立場 沖縄県立中部病院 総婦長 備瀬 信子

④ 病院管理者の立場 沖縄赤十字病院 院長 比嘉 實

## 6. 総 評

今年度2回の全国研究会は、「看護業務の法的な責任について」、「職場リーダーの活性化について」をメインテーマに、(社)日本看護協会北海道・沖縄県両支部の絶大な協力により、充実した内容で、参加者に多くの共感と感銘を与えた。

沖縄では県内を4つの医療圏に区分し、その地域の基幹病院を中心とした保健所、診療所等の医療網が整備され、救急医療等も含めて行政的な対応がすすんでいる。会場ではテレビ局や、地方紙の取材もあり、地域でのイベントとしてかなり大きく取り上げられた。日本病院会にとっても、医療職としても、大変意義があったと思われる。

## 10. 全国薬事管理研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 7月25日(木)～26日(金)

3. 開催地 ① 25日 千歳市 日本赤十字社血漿分画センター

② 26日 札幌市 札幌市教育文化会館

4. 参加者数 50施設 55名

5. 演 題 (1) 日本赤十字社血漿分画センター見学

(2) 「診療報酬・調剤報酬」

日本薬剤師会 専務理事 望月 正作  
中央社会保険医療協議会委員

(3) シンポジウム「病院薬剤師の診療報酬等について」

— それぞれの立場から —

市立旭川病院 薬剤科長 種田 邦彦

北海道大学歯学部附属病院 薬剤部長 水谷 愼一

座長 薬事管理研究会委員 永瀬 一郎  
日本薬剤師会副会長

## 6. 総 評

7月25日(木)に日赤血漿分画センターを見学。浜中栄一所長のご挨拶をはじめとして、多くの資料提供があった。

翌26日(金)は会場をかえて、特別講演で中医協委員望月正作氏から「診療報酬・調剤報酬」について資料をもとに説明があった。中医協に対する要望書の提出、またその結果について一歩づつ

薬剤師ひいては病院にとってよい方向にもっていくよう毎日努力している。と話され、今後も一致団結して折衝を続けるしかないと結んだ。

シンポジウムは、講師2名から問題提起がなされ、望月講師、永瀬座長と共に参加者とディスカッションがもたれた。

なお、今回の開催に際し、北海道病院薬剤師会から参加者派遣等、多くの協力を得た。

## 11. 全国栄養管理・調理合同研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和61年2月21日(金)
3. 開催地 東京都 主婦の友ビルホール
4. 参加者数 77施設 125名
5. 演題 講演 「食物のおいしさと調理」

昭和女子大学 家政学部教授 杉田 浩一

シンポジウム 「病院給食を考える」

厚生連篠ノ井病院 栄養科長 中村 力

都立広尾病院 栄養科長 染谷 愛子

東京衛生病院 調理主任 倍賞 玉之助

## 6. 総評

快晴にめぐまれた会場の主婦の友ビルホールには、朝から参加者が続々とつめかけ、河井博代議員会副議長の開会挨拶で始まり、講演1題と、シンポジウムが、予定通り行われた。杉田浩一講師の講演は「食物のおいしさと調理」をテーマとして、食物の条件、調味料の役割、嗜好に合う献立の条件、食事の性格と今後の方向等について、先生のその確かな知識と、豊かな経験をふまえて理論的かつ具体的に話され、参加者に大きな感銘を与えた。又、シンポジウムにおける、各演者の講演は、実際の豊富な経験にもとづいた充実した内容であった。参加者は今後の病院給食に多くの有益な示唆を与えられたものと思われる。

## 12. 全国病院管理総合研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和60年9月27日(金)～28日(土)
3. 開催地 土浦市 茨城県厚生農業協同組合連合会 総合病院土浦協同病院 東病棟2階 講義室
4. 参加者数 14施設 74名

5. 演 題 (1) 「病院の管理運営と地域医療」  
 日本病院会常任理事 土浦協同病院 院長 登 内 真  
 (2) 「現代の中国の病院」 自治医科大学 教授 一 条 勝 夫  
 (3) 「医療チームにおける看護婦の役割」— 資質の向上と連携 —  
 看護管理研究会委員 前東京専売病院 看護部長 須 谷 照 子  
 (4) 「病院管理マニュアルの解説」— 地域中核病院の考え方 —  
 日本病院会顧問 病院システム開発研究所会長 左奈田 幸 夫  
 (5) 「老人医療の行方」  
 元厚生省医務局長 社会福祉・医療事業団理事 大 谷 藤 郎  
 (6) 病院見学「土浦協同病院」

## 6. 総 評

「病院の管理運営と地域医療」を主テーマとして、それぞれに実態を把握している方々を講師として迎えた。一部日程の変更があり、第1日目午後5時から病院見学を行い、同6時から登内真院長の主催による懇親会を開催していただいた。

一条講師は、多くのスライドを使用し、中日友好医院の現状をはじめ、年々変化していく中国の医療事情について述べられた。

須谷講師は、看護及び看護婦について病院全職員との連携の面からとらえ、コミュニケーションをよくすることにより管理改善をはかることを強調した。

左奈田講師は、日本病院会が制作した病院管理マニュアルをもとに説明、学術講演として演述された。

大谷講師は、老人医療の今後を中心に、日本の病院医療の方向について述べられ、高齢化社会、行政の動き、社会のシステムと医療のシステムについて具体的な提言を行った。

今回は、筑波万博のあおりをうけて、当初の開催期日案を変更したが、地元病院、特に登内院長のお力添えにより催行されたものであり、先生と関係各位に深く感謝する次第である。

## 13. 全国放射線研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和60年6月15日(土)
3. 開催地 東京都 池袋サンシャインシティ文化会館
4. 参加者数 24施設 38名
5. 演 題 (1) 「QCサークル活動について」

富士メディカルシステム㈱ 東京支店長代理 松 尾 良 三

## (2) 討 論

### 6. 総 評

国際モダンホスピタルショウ開催期間中の同会場の特別企画の一つとして参加した。本年度はQC活動を研究会の主要テーマとして選び、年間を通して研修につとめることにした。その皮切りとして全国研でとりあげたものであるが、今後の進展と会員の反響をあわせて内容の検討をしていくこととした。

## 14. 全国臨床検査管理研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 昭和60年9月6日(金)～7日(土)

3. 開催地 浜松市 聖隷浜松病院第二(こうじ)会館

4. 参加者数 33施設 36名

5. 演 題 (1) 「バイオテクノロジーと臨床検査」

浜松医科大学医学部附属病院 検査部部长 教授 菅野 剛史

(2) パネルディスカッション「多様化する医療における検査業務の領域」

① 院内におけるトータルシステムと臨床検査

静岡県立総合病院 臨床検査主任技師 早矢仕 孝也

② 地域医療と臨床検査

豊岡村健康管理センター 臨床検査主任技師 水谷 博

③ 人間ドックと臨床検査

(財)静岡健康管理センター 臨床検査技師長 加瀬沢 信彦

④ 人工透析と臨床検査

浜松赤十字病院 透析室主任技師 塩見 延広

⑤ 画像診断と臨床検査

県西部浜松医療センター 臨床検査係長 高橋 満

⑥ 生理機能と臨床検査

静岡赤十字病院 臨床検査技師長 金原 比良男

(3) 「医療情報システムから見た臨床検査」

浜松医科大学医学部附属病院 医療情報部副部長 助教授 小山 照夫

(4) 「保健医療体制の変革と臨床検査領域の光と影」

静岡県衛生部 部長 松田 朗

(5) 病院見学 聖隷浜松病院

## 6. 総 評

静岡県病院協会（中山耕作会長）の全面的なご支援を得て開催した。地元病院の技師長はじめ県衛生部長など講師の人選も多彩で、豊富な話題の提供があった。今後、地元の理解と技師会との連携を更に深め、研鑽の実をあげてまいりたい。

## 15. 全国ハウスキーピング研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和61年3月10日(月)
3. 開催地 東京都 主婦の友文化センター
4. 参加者数 24施設 37名
5. 演 題 講演 「ハウスキーピング業務標準作業時間の設定の仕方」(実例をあげて)

— 患者サービスの質の向上に不可欠の —

東京美装興業(株) 総務部長 古橋 秀夫

講演 「院内感染防止対策と清掃管理」

シーアンドエス(株) 取締役社長 松崎 亘良

## 6. 総 評

この度の本研究会は、「病院経営の改善（増大する経費の軽減を計るため）」、「患者サービスの質の向上」を主軸に病院運営に資するものとして企画した。各演者の講演は、実例を取り入れた具体的な内容であった。

参加者は今後多くの有益な示唆を与えられたものと思われる。

## 16. 全国図書室研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和61年3月8日(土)
3. 開催地 東京都 東京都養育院 老年学情報センター
4. 参加者数 38施設 41名
5. 演 題 (1) 「病院図書室のマネージメント(1)」

— NLMC 米国国立医学図書館分類法 —

東京女子医科大学 図書館 山根 京

東京女子医科大学 図書館 伊関 節子

慶応義塾大学 医学情報センター 山中 みどり

日本歯科大学 図書館 和田 佳代子  
日本医科大学 図書館 岩田 淳子  
日本医科大学 図書館 渡辺 由美

## 6. 総 評

「病院図書室のマネージメント(1)」と題し、NLMC（米国国立医学図書館分類法）について、講義・実習、そしてその解説・質疑応答と、充実した内容で開催した。

特に、東京都養育院老年学情報センターの諸施設を使用しての実習は、参加者から好評を得て、今後の研究会を開催するにあたって参考になるものと思われる。

## 第8 職場リーダー研修会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要 第1回（5日間コース）

開催期日 昭和60年6月10日(月)～14日(金)

開催地 静岡県熱海市 湯河原厚生年金会館

参加者数 7施設 9名

演 題 (1) 「病院の増改築について」 — 日米の医療費問題 —

日本病院会理事 神奈川県病院協会会長 小野 肇

(2) 監督者の職務

(3) 仕事の管理

(4) 仕事の改善

(5) 部下の育成

(6) 事例研究

(7) リーダーシップ

JST指導有資格者

武蔵野赤十字病院 医事課長 緒方 廣市

東京医科大学病院 栄養課係長 平井 千枝

聖路加国際病院 ハウスキーピング課長 内藤 均

昭和大学病院 放射線科技師長 神田 幸助

(8) 「職場リーダーの役割遂行のために」

日本人事管理協会 理事 酒井 暢

第2回（3日間コース）

開催期日 昭和60年11月20日(水)～22日(金)

開催地 東京都 日本病院会会議室

参加者数 21施設 32名

演 題 (1) 「職場リーダーのポジションと役割」

(2) 「職場運営のポイント」

(3) 「要求される創意工夫」

(4) 「職場研修のねらい」

(5) 「ケース・スタディ」

(6) 「リーダーシップと相互理解」

J S T 指導有資格者

武蔵野赤十字病院 医事課長 緒 方 廣 市  
聖路加国際病院 ハウスキーピング課長 内 藤 均

第 3 回 ( 3 日間コース )

開催期日 昭和 61 年 2 月 20 日 ( 木 ) ~ 22 日 ( 土 )

開催地 京都市 京都タワーホテル

参加者数 32 施設 51 名

演 題 第 2 回と同じ

社京都私立病院協会会長 中 野 進

J S T 指導有資格者

武蔵野赤十字病院 医事課長 緒 方 廣 市  
東京医科大学病院 栄養課係長 平 井 千 枝  
聖路加国際病院 ハウスキーピング課長 内 藤 均

## 第 9 第 25 回病院視察研究会

1. 開催地 千葉県・埼玉県
2. 開催期日 昭和 60 年 11 月 13 日(水)～15 日(金) 2 泊 3 日
3. 視察病院 (1) 千葉県・鴨川市(医療法人) 亀田総合病院 (14 日)  
(2) 千葉県・旭市(市町村) 総合病院国保旭中央病院 (14 日)  
(3) 千葉県・佐倉市(国) 国立佐倉病院 (15 日)  
(4) 埼玉県・与野市(日赤) 大宮赤十字病院 (15 日)
4. 宿泊所 (1) 13 日・鴨川館(兼集合場所)  
(2) 14 日・グランドホテル磯屋
5. 参加者数 25 施設 42 名
6. 総 評

今回の研究会は、当初企画は 3 泊 4 日として、千葉・埼玉・群馬の 3 県を想定したが、会長からの示唆があり、2 泊 3 日、千葉・埼玉の両県と決められた。

道程の長さに多少の難はあったが、4 病院ともに屈指の施設として名高い。個人病院から成長した私的総合病院で、救急と人間ドックの亀田総合病院、市町村立で日本病院会と全国自治体病院協議会の両方の会長を勤める諸橋芳夫院長の旭中央病院、腎臓移植センターの国立佐倉病院、総合・救急で耐震建築、さらに運営上の収支状況がよい大宮赤十字病院と、それぞれ特色のある病院で、参加者の意欲は相当なものがあった。

コーディネーター以下 42 名の参加者の内訳は、院長 9、副院長等 6、医系部長等 6、事務系 13、技術系 1、看護系 7 であった。ここ数年停滞気味であった当研究会としては久々のヒットとなった。これを契機に開催地との連携、会員への周知にさらに力を入れたい。なお、今回まで連続皆勤の杏林大学医学部教授高橋政祺氏に記念品が贈られた。

当研究会のレポートは、日本病院会雑誌 '86 3 月号にグラフとともに収録された。

## 第10 診療録管理通信教育

### 1. 入学状況

#### ○第27期生入学

- 1) 開講月日 昭和60年7月1日
- 2) 入学者数 80名（但し、2年次編入3名含む）
- 3) 受講料 60,000円

#### ○第28期生入学

- 1) 開講月日 昭和61年1月1日
- 2) 入学者数 72名（但し、2年次編入17名含む）

### 2. 卒業状況

#### ○第23回卒業

- 1) 卒業生数 47名（男9名、女38名）
- 2) 卒業式典 昭和60年10月16日（水）
- 3) 同会場 福岡市：ガーデンパレス

#### ○第24回卒業

- 1) 卒業生数 46名（男6名、女40名）
- 2) 卒業式典 昭和61年3月29日（土）
- 3) 同会場 東京：ふくおか会館

### 3. 受講生員数状況（61年3月31日現在）

#### ○入学者の総数 2,396名

男 561名

女 1,835名

#### ○卒業生の総数 1,017名

男 206名

女 811名

#### ○受講者の総数 429名

25期 195名                      27期 120名

26期 42名                        28期 72名

最近は、国公立の病院から本通信教育部へ、内容についての問い合わせが多くなりつつあるが、改めて診療録管理室の必要性が認識されて来ているものと思われる。いくつかの病院では、61年度の予算の中に診療録管理士の定員もとってあると聞いている。

#### 4. 集中スクーリング実施状況

##### 第27回集中スクーリングおよび試験

○ 期日（昭和60年8月22日～昭和60年8月28日）

第一年次スクーリング			試 験	第二年次スクーリング		
第26・27期生			第23・25期生	第24・25期生 第26・27期生の内 2年次編入者		
22日 (木)	23日 (金)	24日 (土)	昭和60年8月25日 (日)	26日 (月)	27日 (火)	28日 (水)

<会 場>

延出席者

東 京：早稲田速記学校	356名
大 阪：大阪府職業訓練センター	227名
福 岡：福岡大学医学部	121名

##### 第28回集中スクーリングおよび試験

○ 期日（昭和61年2月20日～昭和61年2月26日）

第一年次スクーリング			試 験	第二年次スクーリング		
第27・28期生			第24・26期生	第25・26期生 第27・28期生の内 2年次編入者		
20日 (木)	21日 (金)	22日 (土)	昭和60年2月23日 (日)	24日 (月)	25日 (火)	26日 (水)

<会 場>

延出席者

東 京：早稲田速記学校	348名
大 阪：大阪府職業訓練センター	210名
福 岡：福岡大学医学部	132名

## 5. 医学セミナー

4月20日	内科学	日病会議室	10名
5月18日	内科学	国際医療管理専門学校	18名
6月15日	内科学	同	15名
6月22日	医学用語	日病会議室	22名
7月20日	医学用語	同	28名
9月14日	病歴室運営	国際医療管理専門学校	15名
9月21日	外科学	日病会議室	22名
9月28日	病歴室運営	国際医療管理専門学校	12名
10月19日	外科学	日病会議室	19名
10月26日	病歴室運営	国際医療管理専門学校	10名
11月9日	統計学	日病会議室	17名
11月16日	外科学	同	25名
12月7日	統計学	同	13名
12月14日	外科学	同	17名
1月12日	医学用語	大阪医療技術学園	18名
1月18日	外科学	日病会議室	22名
3月15日	外科学	同	10名

開催 17回 延参加者 293名

## 第11 メディカルクラーク通信教育

### 1. 第9回認定証授与式

昭和60年10月12日(土) 17:00～19:30

会 場 : 東京 東条会館

認 定 者 : 22名

追加認定者 : 2名〔61年3月10日(月)〕

### 2. 試 験

#### 1) 第9期生後期〔8月24日(土)〕

東京会場 : 14名

京都会場 : 11名

合 格 者 : 22名

不合格者 : 3名

#### 2) 第10期生前期及び延長生の再追試〔2月14日(金)〕

東京会場 : 26名 (前期25名、後期1名)

京都会場 : 19名 (前期18名、後期1名)

合 格 者 : 42名 (前期40名、後期2名)

不合格者 : 3名 (前期)

### 3. スクーリング (第10期生)

#### 1) 前期 (8月22日～28日)

8/22	23	24	26	27	28
(木)	(金)	(土)	(月)	(火)	(水)
東京: 早稲田速記学校			京都: ビル葆光		
112名			66名		

#### 2) 後期 (2月11日～17日)

2/11	12	13	15	16	17
(火)	(水)	(木)	(土)	(日)	(月)
東京: 千代田生命研修センター			京都: ビル葆光		
88名			57名		

## 第12 事務長養成課程通信教育

### 1. 第6回認定証授与式

昭和60年7月13日(土) 17:00～19:30

会 場 : 東京 半蔵門 ふくおか会館

認定者 : 5名

### 2. 試 験

#### 1) 第6回生2年次後期〔6月8日(土)〕

於 京都 本能寺会館

受験者 5名、 合格者 5名

#### 2) 第7回生1年次後期〔7月14日(日)〕

於 日本病院会 第1会議室

受験者 9名、 合格者 9名

#### 3) 第7回生 2年次前期〔61年1月19日(日)〕

於 東京 NSビル22階SRLセミナールーム

受験者 9名、 合格者 9名

#### 4) 第8回生 1年次前期〔61年1月12日(日)〕

於 東京 NSビル22階SRLセミナールーム

受験者 15名、 合格者 15名

### 3. スクーリング

#### 1) 前期 (7.8～7.20)

	7/8	9	10	11	12	13	15	16	17	18	19	20
	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土
期 別	第 8 回 生						第 7 回 生					
参加人員	117 名						63 名					
会 場	東 京 : 中央区中央保健所											

2) 後期 (61.1.13 ~ 25)

	1/13	14	15	16	17	18	20	21	22	23	24	25
	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土
期 別	第 8 回 生						第 7 回 生					
参加人員	100 名						53 名					
会 場	東 京 : 新宿 N S ビル 22 階 S R L セミナールーム											

4. 第 4 回卒後研修会

昭和61年6月8日(土) 13:00 ~ 17:00

会 場 : 京都 本能寺文化会館

テーマ : 「医療法改正の衝撃に如何に対処するか」

講 師 : 杏林大学医学部教授 高橋 政祺

自治医科大学教授 一条 勝夫

東京文化学園常務理事 落合勝一郎

参加者 : 20 名

# 第13 セミナー

## 1. 病院長・幹部職員セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和60年8月24日(土) 13:00～18:00、25日(日) 10:00～17:30
3. 開催地 東京都 ダイヤモンドホテル
4. 参加者数 109施設 166名
5. 演題 第1日(8月24日)

### (1) 講演「老人保健の考え方」

厚生省保健医療局老人保健部長 水田 努  
司会 会長 諸橋 芳夫

### (2) 講演「これからの日本の経済と医療」

京都大学経済学部教授 中医協委員 伊東 光晴  
司会 副会長 河野 稔

### (3) シンポジウム「医療の質の向上と経営の合理化」

市町村・山形市立病院済生館 館長(山形) 安藤 静男  
医療法人・遠山病院 院長(三重) 遠山 豪  
医療法人・岡村病院 院長(高知) 岡村 一雄  
司会 副会長 竹本 吉夫

### 第2日(8月25日)

### (4) 講演「私の病院経営」 — 救急医療完成への道 —

公益法人・名古屋掖済会病院 院長(愛知) 太田 元次  
司会 岡山病院 院長 岡山 義雄

### (5) 講演「診療所から病院の完成へ」 — 地域の救急医療を担当して —

医療法人・小原病院 院長(兵庫) 小原 知次郎  
司会 代議員会議長 財津 晃

### (6) シンポジウム「単科病院をこのように運営している」

金地病院 院長(東京) 金地 嘉夫  
港北耳鼻咽喉科病院 院長(神奈川) 平野 一彌  
司会 代議員会副議長 河井 博

### (7) 「日本病院会政治連盟の活動」

日本病院会政治連盟副委員長 河野 稔

(8) シンポジウム「私は如何にして新病院を建設したか」

済生会・済生会横浜市南部病院 院長(神奈川)	阿部 達夫
医療法人・大口東総合病院 理事長(神奈川)	小野 肇
市町村・昭和伊南総合病院 院長(長野)	小口 源一郎
医療法人・府中病院 院長(大阪)	岸口 繁
司会 副会長	有澤 源蔵

6. 総 評

昨年のセミナーを受けて、諸橋会長の主宰する3年目のセミナーであった。参加者数は多少減少したが、変容する医療の中にあって提起されてきた“老人保健問題”、経済学者による“これからの日本の経済と医療”、病院運営の本質をみつめる“医療の質の向上と経営の合理化”、“病院経営”、“新しい病院の建設”さらに日本病院会と表裏一体となって活動を展開している日本病院会政治連盟の活動状況など、地道な活動を進めてきている日本病院会の姿勢を基本においたものであった。

会の主張と動向、さらに病院医療の実態について、世間の関心が高まっているが、報道関係者の取材も多くみられた。

2. 総婦長セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催日 昭和60年8月29日(木)～30日(金)
3. 開催地 東京都 主婦の友ビルホール
4. 参加者数 80施設 97名
5. 演 題 講演「これからの看護をめぐる課題」

	(社)日本看護協会 顧問	清水 嘉与子
講演「医療報道の功罪」	筑波大学 教授	青木 彰
講演「世界及び日本の医療事情の展望」		
	(社)病院管理研究協会 常務理事	石原 信吾
講演「枕草子と歴史的背景」	独協大学 教授	河北 騰
講演「総婦長と看護管理」	聖路加国際病院 総婦長	内田 卿子

6. 総 評

高山瑩常任理事の開会挨拶で始まり、講演5題が、予定通り行われた。内田卿子講師の講演は「総婦長と看護管理」と題され、今日の病院、病院外部(医師や患者)からの病院のとらえかた、総婦長の業務の実態、看護管理の目指すもの等について、豊富な経験をふまえて理論的に話され、

参加者に多くの共感と感銘を与えた。今後も、参加者相互の交流を通じて意義のあるセミナーとして盛り上げていきたいと思う。

### 3. 事務長セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和61年1月24日(金)～25日(土)
3. 開催地 東京都 日興証券赤坂支店 2階ホール
4. 参加者数 70施設 84名
5. 演 題
  - (1) 「医療費の今後」
 

	(社)日本病院管理研究協会 常務理事	石原信吾
--	--------------------	------
  - (2) 「医療法改正のポイント」
 

	蕨市立病院 院長	池谷 亘
--	----------	------
  - (3) シンポジウム「院内情報の効果的伝達をめぐって」
    - ① 医師の立場から
 

	関東通信病院 電子応用医学研究所 部長	三宅浩之
--	---------------------	------
    - ② 看護部の立場から
 

	社会保険中央総合病院 総看護婦長	大久保 ミヨ子
--	------------------	---------
    - ③ 技師部門の立場から
 

	東京都済生会中央病院 検査科技師長	坂内 英明
--	-------------------	-------
    - ④ 事務部の立場から
 

	順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院 事務部長	安田 尚之
	司会 国家公務員共済連虎の門病院 事務部長	黒田 幸男
  - (4) 「看護婦確保の問題点」
 

	聖路加国際病院 総婦長	内田 卿子
--	-------------	-------
  - (5) シンポジウム「経営面から見た病院外来のあり方と運営」
    - ① 院長の立場で
 

	東京都済生会中央病院 院長	伊賀 六一
--	---------------	-------
    - ② 事務長の立場で
 

	横浜赤十字病院 事務部長	益田 啓作
--	--------------	-------
    - ③ 医事課長の立場で
 

	河北総合病院 医事課長	小松 茂樹
--	-------------	-------
    - ④ 婦長の立場で
 

	国家公務員共済連虎の門病院 外来婦長	宮本 昭子
	司会 聖路加国際病院 事務長	上林 三郎

## 6. 総 評

本年度の事務長セミナーは、「病院環境の変化に経営はどう対応すべきか」をメインテーマとし、近年の病院を取りまくさまざまな環境の変化にどう対処し、病院運営を実施したらよいかを討論の中より探り出そうと企画した。病院の運営や経営改善の施策を効果的に全職員へ徹底させ、意識向上をはかる方法について、それぞれの立場からの具体的な発表は、今後の院内情報の伝達方法改善に一助をなすのではないかと自負している。また、激動下の病院運営において、病院外来のあり方、さらにこれからどう変化してゆくか、一度考えなおす時期に来ているのでは、という事で企画したシンポジウムは、外来で患者を待つ時代から、病院より出かける時代に入ったのでは等の発表により、既成概念を越えた今後の病院運営のあり方として考えなくてはならないという認識を強く参加者に示したものとして受けとめられたようであった。

今後、時代に即したテーマを積極的に採り入れ、追求して行かなければならないと再認識するような会場の熱気であった。

なお、参加者へのアンケートの結果、小病院と大病院を分けたセミナー開催についても一考を要すると思われる。

## 4. 放射線技師監督者セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和60年11月14日(休)～16日(土)
3. 開催地 東京都 (財)土木建築厚生会会議室 (麹町共同ビル)
4. 参加者数 22施設 26名
5. 演 題
  - (1) 「放射線研究会のあゆみ」、「オリエンテーション」  
放射線研究会委員長 藤 田 良 三  
東京医科大学霞が浦病院 放射線科技師長補佐
  - (2) 「病院のQCとQA」  
日本病院会顧問 病院システム開発研究所 会長 左奈田 幸 夫
  - (3) 「経済面から見た病院の現状と展望」  
厚生省病院管理研究所 経営管理部部長 針 谷 達 志
  - (4) 「患者接遇」  
看護管理研究会委員 東京警察病院 総婦長 嶋 崎 佐 智 子
  - (5) 「医師の民事責任」  
— 癌の早期診断の注意義務を中心として —  
須田清法律事務所 弁護士 須 田 清

- (6) 「チーム医療における放射線技師の重要性」
- ① 放射線科患者の心理とムンド・セラピイの効用
  - ② Q C (クオリティー・コントロール) の考え方による放射線患者へのサービス
- (7) 「人間心理の理解を進める新しいコミュニケーション技法」
- ① 自我状態 (Ego - states) を測るエゴグラム の活用
  - ② 交流分析 (T A) による人間心理の理解 (スライド)
  - ③ T A で放射線技師の T Q C を推進する方法を学ぶ
- (8) 「放射線患者への対応の仕方を新たに学ぶ」
- ① 対話分析 (対人交流の仕方を分析する) (スライド)
  - ② カウンセリングに於ける「積極的傾聴法 (Active listening)」などを学ぶ
- (9) 「放射線患者への応待の仕方を新たに学ぶ」 (続き)
- ① ストローク交換の理解と日常行動の改善
  - ② 人生態度の四つのパターンと行動の変容
- 司会 研究会委員 松尾 敏憲 ・ 荻原 淳 ・ 栗田 道雄
- (10) 「放射線患者への具体的対応をどうするか」
- ① 現状認識と将来設計
  - ② 改善行動計画書作り
- 司会 研究会委員 平 和夫 ・ 虎渡 勇二 ・ 野村 任
- (6)～(10)の講師

㈱日本 T A センター 代表取締役社長 加 納 正 規  
 富士メディカルシステム㈱ 東京支社長 松 尾 良 三

- (11) 発 表
- (12) 講 評 ・ 受講終了証授与

## 6. 総 評

監督者としての管理責任問題をはじめ病院の環境などについての特別講演を聴いた後、Q C 活動にかかわる多角的なテーマをとりあげた。今後委員の勉強会を開いて、手法等をまとめていきたい。

## 5. 臨床検査管理セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和61年2月7日(金)～8日(土)
3. 開催地 熱海市 湯河原厚生年金会館
4. 参加者数 26施設 27名
5. 演 題 (1) 「医療費の今後・医療法の改訂」

日本病院会事務管理研究会副委員長 黒田 幸男  
虎の門病院 事務部長

- (2) シンポジウム「医療費改訂により臨床検査はどのように変動しているか」

私立病院の立場から	研究会副委員長	成田 周市
私立病院の立場から	研究会委員	小金沢 宗雄
公立病院の立場から	研究会委員	川越 功
公立病院の立場から	研究会委員	工藤 正十三
大学病院の立場から	研究会委員	古谷 信滋
大学病院の立場から	研究会委員	天川 勉
	司会 研究会委員	平沢 政人

- (3) グループ討議「無資格従事者・男女平等機会雇用の問題をめぐって」

司会進行 研究会副委員長 成田 周市  
研究会委員長 坂内 英明

- (4) 「医療従事者の法的責任」

須田清法律事務所 弁護士 須田 清

- (5) グループ討議別発表

司会進行 研究会委員長 坂内 英明

## 6. 総 評

医療費問題について講師から、その見通しと病院としての受取め方について厳しい状況の解説がされた。須田弁護士からは、判りやすい法文の解釈と病院における医療責任の話がされ、興味深く聴き入った。

研究会委員がレポーターとなったシンポジウム、また夕食後のグループ討議についての質疑応答は大変熱心に行われた。病院運営に関して、本質的な倫理、質の向上、マンパワー、外注問題など多角的に論じられ、もっと多くの関係者に聴いてもらいたいという感が深かった。

## 6. 医療紛争防止のためのセミナー

1. 開催回数 2回
2. 開催期日 昭和60年6月13日(木)～14日(金)  
昭和60年9月29日(日)
3. 開催地 東京 池袋サンシャインシティ(6月)  
神戸 西山記念会館(9月)
4. 参加者数 東京 126名  
神戸 466名
5. テーマ (1)「看護と救急」 北里大学 教授 田中 亮  
(2)「患者・家族に対する言葉遣い」 元NHK用語部長 大井 安正  
(3)「看護と医療事故」 慶応大学病院 総婦長 中鉢 美津子  
(4)「医事紛争の概況」 東北大学 名誉教授 赤石 英  
(5)「病院における労働問題と医療事故」 弁護士 小沢 浩  
(6)「医療側と患者側の人間関係」 大阪大学 名誉教授 松倉 豊治  
(7)「医療事故と民事訴訟について」 弁護士 饗庭 忠男  
(8)「最近の社会情勢と医療事故」 NHK解説委員 行天 良雄  
(9)「医療事故と刑事訴訟について」 福岡高検 検事長 臼井 滋夫  
(10)「看護と救急」 香雪記念病院 副院長 堀口 進

## 6. 総 評

医療紛争の約80%は何らかの形で看護婦が関与しているケースが多く、これを管理する医師の責任を問われる事例が数多くあり、当セミナーでは、医師・看護婦を中心としたテーマを取り上げ、今回は東京・神戸において開催した。

## 7. 病院防災セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和60年8月29日(木)～30日(金)
3. 開催地 神戸市医師会館
4. 参加者数 87名
5. テーマ (1)「地域(都市)防災について」 神戸大学 助教授 室崎 益輝  
(2) シンポジウム「各部門での防災対策」  
自治医科大学 施設課長 倉持 一雄  
(3)「病院の安全対策のチェックポイント」 消防庁 課長補佐 小林 恭一

(4) シンポジウム「看護部門での防災対策」

司会 聖路加国際病院 事務長 上 林 三 郎

(5) シンポジウム「病院の防災管理について」

司会 神戸葺合消防署 署長 森 本 宏

(6) 実技訓練

## 6. 総 評

今回のセミナーは神戸市消防署のご協力により、従来行えなかった高度の実技訓練、ヘリコプターによる救護、ビス脱出法、スプリンクラー消火実験、看護衣・病衣等の燃焼実験により、効果的なセミナーとなった。

## 8. 病院経営セミナー

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 昭和60年4月16日(土)

3. 開催地 大阪 国民会館

4. 参加者数 36施設 42名

5. 演 題 (1) 「上手な病院経営の仕方」

伊藤会計事務所 公認会計士 伊 藤 寛

(2) 「最近医療税制の動き」

有澤総合病院 院長 有 澤 源 蔵

## 6. 総 評

今回は初めての試みであったので、案内不足等が多少見られた。次回開催時は、2日間コースぐらいほしいとの要望が多かった。

## 第14 病院幹部医会

### 1. 総 会

- (1) 開催期日 昭和61年3月9日(日)
- (2) 開催地 愛知県名古屋市 ホテルキャッスルプラザ
- (3) 協議項目
  - ① 昭和61年度事業計画案
  - ② 昭和61年度予算案
  - ③ 役員の改選について

### 2. 常任幹事会

- (1) 開催期日 昭和60年6月15日(土)  
昭和60年11月30日(土)
- (2) 開催地 東京都 日本病院会・番町グリーンパレス
- (3) 協議項目
  - ① 病院幹部医セミナー実施について
  - ② 常任幹事の増員について
  - ③ 昭和61年度事業計画案
  - ④ 昭和61年度予算案
  - ⑤ 役員の改選について

### 3. 病院幹部医セミナー

- (1) 開催期日 昭和60年10月26日(土)～27日(日)  
昭和61年3月8日(土)～9日(日)
- (2) 開催地 富山県・誉一山荘(10月)  
愛知県・ホテルキャッスルプラザ(3月)
- (3) 参加者数 51名(富山県)  
134名(愛知県)
- (4) テーマ 富山県
  - ① 病院勤務医に対する要望 日本病院会会長 諸橋芳夫
  - ② シンポジウム「病院長と勤務医の連携」 日本病院会常任理事 西能正一郎

③ 対談「米国の医療情勢」

病院幹部医会副会長 牧野永城  
病院幹部医会常任幹事 三宅浩之

④ シンポジウム「パート医師はどうかわるか」

座長 病院幹部医会常任幹事 小野丞二

愛知県

① シンポジウム「医療システムの将来像」

座長 京都大学教授 平川顕名

② 医療法改正と今後の医療法人の経営管理の問題

日本病院会副会長 有澤源蔵

③ 医師急増時代を迎えて

日本病院会理事 岡山義雄

④ シンポジウム「医師と放射線技師の連携」

座長 名古屋大学教授 佐久間貞行

⑤ 変りゆくアメリカの医療情勢

日本病院会常任理事 大道学

4. 6月開催のセミナーは、日本病院会常任理事会が富山県氷見市で開催されるのに際し、同所において開催し、病院長、幹部医師の連携の場とすることを目的に開催した。

また、3月のセミナーについては、地元愛知県病院協会等の協力により従来の参加者数をはるかに超えるものとなった。

## 第15 海外視察研究会

### 1. 医学交流中国旅行団

- ① 訪問国 中華人民共和国
- ② 期間 昭和60年10月6日(日)～10月17日(木) 12日間
- ③ 訪問都市 北京、西安、成都、桂林、上海
- ④ コーディネーター 有澤 源蔵(有澤総合病院院長)  
熊田 正春(日吉病院院長)
- ⑤ 参加者数 15名

### 2. 第24回国際病院連盟学会参加

- ① 訪問国 プエルトリコ、米国
- ② 期間 昭和60年5月24日(金)～6月3日(月) 11日間
- ③ 訪問都市 サンファン、ニューオリンズ
- ④ コーディネーター 波多野 誠(国際委員会委員 九段坂病院外科部長)
- ⑤ 参加者数 20名

### 3. AHF スタディツアー参加

- ① 訪問国 インドネシア
- ② 期間 昭和60年5月11日(出)～5月20日(月) 10日間
- ③ 訪問都市 ジャカルタ、セマラン、デンパサール
- ④ 参加者数 10名

### 4. 国営医療の2つの国を訪れる旅

- ① 訪問国 フランス、イギリス、イタリア
- ② 期間 昭和60年9月1日(日)～9月10日(火) 10日間
- ③ 訪問都市 パリ、ロンドン、ミラノ、ベロナ、ベニス
- ④ コーディネーター 長澤 泰(厚生省病院管理研究所主任研究官)
- ⑤ 参加者数 19名

## 第16 調 査 室

本年度も、全国公私病院連盟との合同調査である「病院運営実態調査」を実施し、「病院概況調査報告書」として発刊した。また、公私病連との合同で実施した「病院部門別原価計算調査」がまとめ、「病院部門別原価計算調査報告」として発刊した。

他方、公私病連との合同調査とは別に、簡便な「病院部門別原価計算調査」を実施すべく、調査票、調査要領の検討を行った。

### ◎ 昭和60年 病院概況調査報告書

- ☆ 病院概況（病院数・病床数・専用病床保有状況等）
- ☆ 患者状況（入院－外来、救急、比率等）
- ☆ 設備状況（ICU、CCU、未熟児室、人間ドック、医療機器、コンピュータ等）
- ☆ 職員数（職種、病床規模、1病院当り－100床当り、開設者・常勤－非常勤別）
- ☆ 部門別業務量（診療・薬剤・放射線・検査・給食・事務）
- ☆ 外注委託状況（寝具・清掃・給食・検査等）
- ☆ その他（基準看護、救急告示、手術件数、冷暖房、敷地－建物面積、剖検率・病床利用率・平均在院日数等）

## 第17 医療費対策および病院大会

### 1. 病院診療報酬適正化推進会議

1. 開催回数 2回（中央・地方代表者会議1回）
2. 出席者数 7名
3. 協議項目
  - 1) 病院大会開催について
  - 2) 中央・地方代表者会議について

### 2. 四病院団体連絡協議会

- |          |  |     |
|----------|--|-----|
| 4月18日(木) | 総合部会   | 10名 |
|          | <ol style="list-style-type: none"><li>1. 医師の需給について</li><li>2. 看護制度について</li><li>3. 医療法改正について</li><li>4. 昭和61年度税制改正要望事項について</li></ol>                  |     |
| 5月16日(木) | 総合部会   | 8名  |
|          | <ol style="list-style-type: none"><li>1. 医療法改正問題の取扱いについて</li><li>2. 当面の医業税制対策について</li><li>3. 診療報酬問題について</li><li>4. 看護制度検討会・中間施設・家庭医問題等について</li></ol> |     |
| 5月31日(金) | 税制委員会  | 5名  |
|          | <ol style="list-style-type: none"><li>1. 61年度税制改正要望事項について</li></ol>  |     |
| 6月13日(木) | 看護小委員会   | 9名  |
|          | <ol style="list-style-type: none"><li>1. 看護制度について</li></ol>  |     |
| 6月22日(土) | 医療経済委員会  | 6名  |
|          | <ol style="list-style-type: none"><li>1. 診療報酬3月改定の影響とその対策</li><li>2. 診療報酬体系の検討について</li></ol>   |     |
| 7月10日(水) | 医療法・看護小合同委員会   | 15名 |
|          | <ol style="list-style-type: none"><li>1. 看護制度について</li><li>2. 病院等構造設備基準の見直しについて</li><li>3. 基準看護関係について</li></ol>                                       |     |
| 7月17日(水) | 総合・医療法合同委員会  | 13名 |
|          | <ol style="list-style-type: none"><li>1. 基準看護関係について</li></ol>  |     |

	2. 病院等構造設備基準の見直しについて	
7月25日(木)	医療経済委員会	9名
	1. 医療経済について	
8月27日(火)	総合・医療経済・税制委員会	16名
	1. 医療費問題について	
	2. 税制改正の要望書について	
	3. 建物耐用年数調査について	
	4. 中間施設に関する懇談会の中間報告	
9月24日(火)	総合・医療法・医療経済・税制合同委員会	12名
	1. 老人保健の1割負担について	
	2. 医療財源について	
	3. 薬価問題について	
	4. 診療報酬問題について	
	5. 看護婦制度について	
	6. 看護要員問題について	
	7. 基準看護について	
	8. 医療監視について	
	9. 事業税について	
	10. 耐用年数の短縮について	
10月14日(月)	医療経済委員会	8名
	1. 診療報酬の引き上げについて	
10月22日(火)	総合・医療法合同委員会	11名
	1. 医療監視について	
	2. 基準看護等の問題について	
11月19日(火)	総合・医療経済合同委員会	16名
	1. 診療報酬について	
	2. 基準看護等の問題について	
11月25日(月)	総合・医療法・医療経済合同委員会	12名
	1. 診療報酬の改訂要望について	
	2. 61年度税制改正とくに事業税について	
12月18日(水)	総合部会	8名
	1. 医療法改正について（結果報告）	

	2. 61年度税制改正について（結果報告）	
	3. 診療報酬の改訂について	
	4. 老人保健法の改正について	
1月23日(木)	総合・医療法・医療経済・税制合同委員会	21名
	1. 医療法改正について	
	2. 診療報酬改訂について	
	3. 61年度医業税制について	
2月6日(木)	総合・医療経済合同委員会	14名
	1. 診療報酬について	
	2. 老人保健施設について	
2月22日(土)	医療経済委員会	5名
	1. 民間医療保険のあり方について	
	2. 病院給食業務の一部委託について	
	3. 病院診療報酬改訂要望について	
3月27日(木)	総合・医療経済合同委員会	11名
	1. 診療報酬改訂について	
	2. 民間医療保険について	
	3. 病院給食の一部委託について	

### 3. 病院大会

1. 名 称 国民医療を守る全国病院大会
2. 日 時 昭和60年11月12日(火) 13:00～15:30
3. 会 場 千代田区公会堂
4. 主 催 病院診療報酬適正化推進会議
5. 来 賓 日本医師会・日本薬剤師会・国会議員等 156名
6. 参加人員 993名
7. 大会スローガン
  - (1) 社会保険診療報酬に対する事業税非課税措置を存続せよ。
  - (2) 診療報酬を適正化し病院経営を健全化せよ。
  - (3) 老人患者の自己負担の増加を中止せよ。
  - (4) 中医協に病院団体の推薦する委員を参加させよ。

## 第18 第35回日本病院学会

1. 学 会 長 遠山 豪（遠山病院 院長）
2. テ ー マ 医の原点に還って伊勢から病院に光を
3. 開催期日 昭和60年9月19日(木)～21日(土)
4. 開催地 三重県・伊勢市
5. 会 場 (1) 伊勢市観光文化会館  
(2) 伊勢商工会議所
6. 演 題 (1) 学会長講演 1題  
「看護問題への提言」 — 三重県看対協の活動を通じて —  
遠山病院 院長 遠山 豪
- (2) 特別講演 2題  
「人間と医療」 大阪大学 名誉教授 澤 瀧 久 敬  
「天然痘の歴史」 日本医史学会 評議員 守 屋 正
- (3) パネルディスカッション 2題  
「三重県の救急医療体制」  
座長 三重県医師会 会長 松 本 俊 二  
演者 三重県医師会 理事 松 葉 欣一郎  
" 三重県救急医療情報センター 常務理事 岸 田 貞 愛  
" 三重県消防長会 会長 山 口 博  
" 山田赤十字病院 院長 高 村 行 雄  
" 三重大学医学部附属病院 救急部助教 千 種 弘 章  
" 三重県保健衛生部 部長 石 須 哲 也  
" N H K 津放送局 記者 太 田 英 一  
「わが道をゆく病院人」 — その実践と問題点 —  
座長 高山整形外科病院 院長 高 山 肇  
演者 天本病院 院長 天 本 宏  
" 淀川キリスト教病院 副院長 柏 木 哲 夫  
" 信愛病院 事務長 長 沢 一 男  
" 松山リハビリテーション病院 理事長 桑 原 公 達

演者	長崎県離島医療圏組合厳原病院 院長	嘉 村 末 男
”	堀川病院 院長	早 川 一 光
”	沖縄県立中部病院 院長	新 垣 浄 治
”	済生会熊本病院 院長	三 浦 義 一
”	松阪中央総合病院 名誉院長	竹 内 藤 吉
”	南大阪病院 院長	内 藤 景 岳

(4) シンポジウム 3 題

「病院運営における各部門の役割」

— 日本病院会研究会委員長によるシンポジウム —

座長	土浦協同病院 院長	登 内 真
演者	診療システム研究会	嶋 田 和 正
”	医事研究会	三 上 晃
”	庶務人事・労務研究会	石 山 稔
”	看護管理研究会	中 原 久 江
”	薬事管理研究会	垣 花 満
”	放射線研究会	藤 田 良 三
”	臨床検査管理研究会	坂 内 英 明
”	ハウスキーピング研究会	近 藤 英 二
”	図書室研究会	後 藤 久 夫
”	職場リーダー研修会	内 藤 均

「看護の現実的課題への対応」

— 三重県における現状と問題点 —

座長	三重県看護協会 会長	関 よ ね
助言者	聖路加看護大学 学長	日野原 重 明
演者	山田赤十字病院 看護部長	中 西 勝 子
”	三重県保健衛生部医務薬務課主幹兼看護係長	山 口 直 美
”	三重県立看護短期大学 助教授	楠 美 智子
”	四日市市立四日市高等看護学院 教務主任	長 江 拓 子

「日本の医療」 — 私はどうしたい —

座長	N H K 解説委員	行 天 良 雄
助言者	厚生省病院管理研究所 所長	佐分利 輝 彦
”	国保旭中央病院 院長	諸 橋 芳 夫

演者	日本電気(株) 副会長	大 内 淳 義
”	東京女子大学 学長	隅 谷 三喜男
”	アメリカの麻酔専門医	遠 山 毅
”	衆議員議員	橋 本 龍太郎
”	大分県知事	平 松 守 彦
”	東京女子医科大学 理事長	吉 岡 博 人
”	厚生省事務次官	吉 村 仁

(5) 一般演題 208題

7. 医療人の集い (鳥羽国際ホテル)

8. 併設ホスピタルショー

- (1) 伊勢シティープラザ
- (2) 伊勢市観光文化会館展示室

9. 参加者 延べ 5,000 名

10. プログラム (別 掲)

# 第35回日本病院学会 プログラム

テーマ “医の原点に還って 伊勢から病院に光を”

時間		8:30 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18																
期日	会場																	
第 一 日	第1会場	受付	開会式	神宮 舞楽	特別講演 人間と医療 澤 篤 久 敬	評議員会 かいづ	病院運営における各部門の役割 — 日本病院会研究委員会によるシンポジウム —	パネルディスカッション 三重県の救急医療体制										
	第2会場				一般演題 看護(I) 1~11			一般演題 看護(III)12~27 老人医療 28~30	一般演題 教育・研修 31~46 地域医療(I) 47~53-2									
	第3会場				一般演題 地域医療(II) 54~64			一般演題 病院経営 病歴管理 65~80 病院建築 81~88	一般演題 看護(IV) 89~96 医学的研究 97~108									
	展示会場	→ ホスピタルショー																
時間		8:30 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18																
期日	会場																	
第 二 日	第1会場	受付	パネルディスカッション わが道を行く病院人 — その実践と問題点 — 座長 高山 肇				総会	学会長 講演	シンポジウム 看護の現実的課題への対応 — 三重県における現状と問題点 —				特別講演 天然痘の歴史 守屋 正	医療人の集い 鳥羽国際ホテル				
	第2会場				一般演題 看護(V) 109~124 救急医療 125~131 病院施設管理 132~135								一般演題 事務管理 136~152 情報管理 153~160					
	第3会場				一般演題 検査 161~173 給食 174~185								一般演題 薬剤 186~194 放射線 195~208					
	展示会場	→ ホスピタルショー																
時間		8:30 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18																
期日	会場																	
第 三 日	第1会場	受付	シンポジウム 日本の医療 — 私はこうしたい — 座長 行天良雄				閉会式											
	第2会場																	
	第3会場				講演と映画の集い (市民対象)													
	展示会場	→ ホスピタルショー																

## 第19 第26回日本人間ドック学会

1. 学 会 長 河野 稔 (北品川総合病院 院長)
2. テ ー マ 健康医学のニューパラダイム — 予防から健康増進へ —
3. 開催期日 昭和60年8月22日(木)～23日(金)
4. 開催地 東京都・品川区
5. 会 場 (1) 簡易保険ホール“ゆうぼうと”  
(2) T.O.C (東京卸売センター)
6. 演 題 (1) 学会長講演 1題  
「健康医学のニューパラダイム」  
北品川総合病院 院長 河野 稔  
(2) 特別講演 4題  
「健康な心と体づくり」 東京慈恵会医科大学 学長 阿部 正和  
「禅と健康」 臨済宗竜沢寺専門道場師家 鈴木 宗忠  
「運動による健康づくり」 順天堂大学 客員教授 石河 利寛  
中京大学 教授  
「先を読む心」 — 私の体験から —  
日本将棋連盟 会長 第15世将棋名人 大山 康晴  
(3) シンポジウム 2題  
「人間ドックにおける疾病構造の変化への対応」(I)  
— 循環器系 —  
座長 聖路加看護大学 学長 日野原 重明  
演者 愛知県総合保健センター 部長 横井 正史  
“ 東海大学病院健診センター 室長 日野原 茂雄  
“ 住友生命総合健診システム 所長 吉川 博通  
「人間ドックにおける疾病構造の変化への対応」(II)  
— 運動・肥満 —  
座長 東京慈恵会医科大学 助教授 池田 義雄  
演者 愛知県総合保健センター 所長 岩塚 徹

演者	中京大学体育学部 教授	北 川 薫
”	東京慈恵会医科大学 第三内科	大 野 誠
”	大阪大学医学部第二内科 講師	松 沢 佑 次
”	日本体力医学会 理事長	小 野 三 嗣

(4) パネルディスカッション 1 題

「21世紀の健康を考える」

— これからの人間ドックのあり方 —

座長	北品川総合病院 院長	河 野 稔
”	総合病院土浦協同病院 院長	登 内 真
演者	衆議院議員	後 藤 正 夫
”	社会福祉医療事業団 理事	大 谷 藤 郎
”	中国ハルビン医科大学 名誉学長	于 維 漢
”	星薬科大学 理事長	大 谷 孝 吉
”	品川区 区長	多 賀 栄太郎
”	岩井総合病院 院長	岩 井 宏 方
”	品川区医師会	鈴 木 武 松

(5) 宿題報告 1 題

「長寿と人間ドック活動」	牧田総合病院 副院長	笹 森 典 雄
--------------	------------	---------

(6) フリートーク 1 題

「すこやかな人生のために」— これからの食生活は —

座長	北品川総合病院 院長	河 野 稔
”	北里大学病院診療部 栄養科長	城 井 美 子
演者	東京慈恵会医科大学 助教授	池 田 義 雄
”	聖路加国際病院 栄養科科長	宇 井 美代子
”	西陣病院 栄養科科長	下 条 都
”	聖路加国際病院 総婦長	内 田 卿 子

(7) モーニングセミナー 1 題

「超音波による腹部疾患のスクリーニング」

虎の門病院 消化器科	竹 内 和 男
------------	---------

(8) 一般演題 162 題

7. 参加者 6,300名(登録参加)

**8. 併設公開講座**

(一般市民も対象にして第一日目(8月22日)に実施)

「健康と性」

北品川総合病院 産婦人科部長 鈴木 覚 義

**9. 併設ポスターセッション発表**

(一般演題発表の他、発表者の希望によりポスター展示し討論を実施)

**10. 併設日病指定人間ドック並びに自動化健診実施施設長・担当者会議**

**11. 併設コンサート(オプション)**

「健康と音楽」 第一部・第二部

**12. 併設 Health 展**

会 場 T. O. C (東京卸売センター)

テーマ — '85 心とからだの健康展 —

**13. 併設サテライト・シンポジウム**

(学会前日に一般市民も対象にして実施)

会 場 東京慈恵会医科大学高木会館

テーマ 健康医学のすすめ方

**14. プログラム (別 掲)**

# 第26回日本人間ドック学会日程表

(暫定版)

時間	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
開始		9:30	9:45	10:30	11:40	12:20	13:40	14:20	15:20	16:30	17:15	18:15	19:30
第1日	開会式 学生会堂 会長 藤原 芳夫	開会式 学生会堂 会長 藤原 芳夫	特別講演1 「健康な心と体づくり」 東京基督教医科大学 学長 岡部 正和 副学長 日本神学会 会長 藤原 芳夫	シンポジウム1 「人間ドックにおける 疾病構造の変化への対応」(I) 一般座談会 東京基督教医科大学 学長 岡部 正和 副学長 藤原 芳夫	昼休み 「田原かおるを 追ひよ」 一般と特別座談会 国民健康保険 会長 田原かおる	学生会長講演 「ニューバウタイム」 学生会 河野 寛 会長 東京歯科大学 理事長 丸根 良二	特別講演2 「胸と健康」 福井医科大学 専門医 藤原 孝 副学長 藤原 孝 会長 藤原 孝	一般演習 — 肥満 — 1-7	シンポジウム2 「人間ドックにおける 疾病構造の変化への対応」(II) — 運動・肥満 — 東京基督教医科大学 副学長 藤原 芳夫	コンサート準備 (休憩)	一般と座談 ワンナールツ・ボルの珠玉 展二部 「オクストラの部」と 「日本民謡によるラフソフィ」		
第2日			一般演習 — 肥満 — 8-16	一般演習 — 肥満 — 40-48	フリーターニング 「夢ごっこや人生の必死に」 これらの発生原因は— — 藤原 孝 会長 花巻 忠 — 東京大学病院 藤原 孝 会長 藤原 孝	一般演習 — 肥満 — 17-24	一般演習 — 肥満 — 49-58	一般演習 — 肥満 — 25-30	一般演習 — 肥満 — 59-75				
第3日													
ポスター発表	ポスター発表												
健康セミナー	Health展 (心と体の健康展)												
第1日	開会式 学生会堂 会長 藤原 芳夫	開会式 学生会堂 会長 藤原 芳夫	一般演習 — 肥満 — 76-84	特別講演3 「長寿と人間ドック」 和田清太郎 副学長 野島典雄 会長 大阪府立中央病院 副学長 二木 敏	シンポジウム2 「運動による健康づくり」 東京大学健康 ・中野 隆 石原 利実 会長 藤原 孝 副学長 藤原 孝	昼休み 原休館 尾川中学校 (文部科学省健康推進課 長 二木 敏)	学生会長講演 「先を脱出」 日本再建協会 会長 15 野村 浩一 副会長 次山 隆博 会長 藤原 孝 副学長 藤原 孝	特別講演4 「先を脱出」 日本再建協会 会長 15 野村 浩一 副会長 次山 隆博 会長 藤原 孝 副学長 藤原 孝	パネディスカッション 「21世紀の健康を考える」 — これからの人間ドックのあり方 — 総合病院 藤原 孝 会長 藤原 孝 副学長 藤原 孝	開会式 学生会堂 会長 藤原 芳夫	一般と座談 ワンナールツ・ボルの珠玉 展二部 「オクストラの部」と 「日本民謡によるラフソフィ」		
第2日			一般演習 — 肥満 — 85-96	一般演習 — 肥満 — 3-11	一般演習 — 肥満 — 119-138	一般演習 — 肥満 — 139-148	一般演習 — 肥満 — 149-158	一般演習 — 肥満 — 159-168	一般演習 — 肥満 — 169-178				
第3日													
ポスター発表	ポスター発表												
健康セミナー	Health展 (心と体の健康展)												

## 第20 第11回日本診療録管理学会

1. 学 会 長 兵働 貞夫 (浜の町病院院長)

2. 期 日 昭和60年10月17日(木)～18日(金)

3. 会 場 福岡市：都久志会館

4. 演 題

(1) 特別講演 2題

特別講演Ⅰ

「診療録上の問題点とその新しい考え方」 聖路加看護大学 学長 日野原 重 明

特別講演Ⅱ

「キリシタン時代の社会福祉とド・ロ神父」 日本二十六聖人記念館 館長 結 城 了 悟

(2) シンポジウム 2題

シンポジウムⅠ

「蓄積する医療記録の対応策」 司会 福岡大学医学部 教授 犬 塚 貞 光

1. わが国における対応の概況と当院の対応策

県立がんセンター新潟病院 副院長 藤 野 臻 策

2. 一私大病院の経験例 北里大学病院病歴センター 室長 伊 藤 雄 次

3. マイクロフィルムの利用度からみた資料の保管法

関東通信病院 診療録管理士 戸 川 登美子

4. 著積する医療記録の対応策

天理よろず相談所病院 診療録管理士 野 坂 弥須夫

シンポジウムⅡ

「診療録管理士から見た診療録管理の在り方」

司会 日本診療録管理士協会 会長 酒 井 隆 子

シンポジスト 国立仙台病院 診療録管理士 上 田 京 子

東京警察病院 診療録管理士 百 々 勝 子

県西部浜松医療センター 診療録管理士 藤 田 三 由

倉敷中央病院 診療録管理士 友 杉 順 子

佐賀医科大学病院 診療録管理士 諸 泉 イサ子

(3) 一般演題 26 題

一般演題 セッションⅠ（1～5）

1. 癌死亡患者家族に対するアンケート調査結果と診療録記載の一考察
2. ワードプロセッサによる退院サマリーの作成
3. 診療録記載の評価と診療録管理士の役割
4. 診療録管理を教育に導入した課程 第2報
5. 通教医学用語学担当10年を省みて

一般演題 セッションⅡ（6～9）

6. 10年を迎えた病歴医療情報管理の反省と今後の活用について
7. パソコンによる手術情報のデータベース化
8. 診療支援のための病歴情報オンライン検索システム
9. プロトコル診療支援コンピュータシステム

一般演題 セッションⅢ（10～14）

10. 病歴室が抱えている問題 — 現状と未来 —
11. 病歴室が抱えている問題 — 現状と未来 —
12. 病歴室が抱えている問題 — 現状と未来 —
13. 診療録管理室の業務内容検討について
14. 病歴室の作業研究

一般演題 セッションⅣ（15～19）

15. 医事システムに於ける外来患者の疾病分類コード化及び運用について
16. 診療録中央管理によるがん診療情報サービスについて
17. 産業医科大学における人間ドックと一般診療録の管理上の問題点
18. 公立病院における病歴管理
19. 診療記録・検査記録の貸出についての医師の意識調査

一般演題 セッションⅤ（20～23）

20. 医療統計算出時の問題点
21. 退院時疾病統計の書式標準化について
22. 周産期専門医療施設における病歴管理（第一報）
23. 当院における病歴管理20年の統計

一般演題 セッションⅥ（24～26）

24. 昭和50年および59年における当院入院患者の診療圏の対比

25. 人工都市・千里ニュータウンにおける高齢化による諸問題

26. 北里大学病院における重複癌患者の調査（第一報）

(4) 指定課題 15 題

**指定課題(1) チームケアのための医療記録（1～6）**

1. チームケアのための医療記録とは
2. POS 11年目を迎えて
3. チームで共有する診療録の実際
4. ICUにおける記録の問題点とその対策
5. 同一面への医師・ナース・記載方法
6. 本院におけるPOMRの実際

**指定課題(2) 中小病院における診療録管理（1～4）**

1. X線フィルム病名別マイクロ化について
2. 五ヶ年過ぎた診療記録及び資料の整理と対策
3. 地域医療のための生涯診療録管理について
4. 当院における診療録管理について

**指定課題(3) 電算機による医療情報の管理とその活用（1～5）**

1. 肝疾患データベースの構築と、その活用に関する研究
2. 放射線科における医療情報の管理とその応用
3. 将来の基準日による生年月日患者ナンバーリングについて
4. 大阪府立母子保健総合医療センターの情報処理システム
5. パソコン利用による診療録管理システムにおける工夫について

5. 展示会 （会場内にて併設開催）

6. 参加者 600 名

7. プログラム （別 掲）

(7) プログラム

日 程 表

第1日 (10月17日 木曜日)

第2日 (10月18日 金曜日)

8:00	受 付
8:50	開 会 式
9:00	一般演題 セッション I (1~5)
9:50	一般演題 セッション II (6~9)
10:30	一般演題 セッション III (10~14)
11:20	指定課題(1) チームケアのための医療記録
12:30	昼 食 休 憩
13:30	学 会 総 会
14:00	特別講演 I 診療録上の問題点とその新しい考え方 日野原 重明
15:00	コ ー ヒ ー ・ タ イ ム
15:30	シンポジウム I 蓄積する医療記録の対応策 司会 犬塚 貞光
17:00	
17:10	音 楽 会 (九州交響楽団)
18:00	
18:15	懇 親 会 ガ ー デ ン パ レ ス
20:00	

8:30	受 付
9:00	一般演題 セッション IV (15~19)
9:50	一般演題 セッション V (20~23)
10:30	指定課題(2) 中小病院における診療録管理
11:20	指定課題(3) 電算機による医療情報の 管理とその活用
12:30	昼 食 休 憩
13:30	一般演題 セッション VI (24~26)
14:00	特別講演 II キリシタン時代の社会福祉とド・ロ神父 結城 了悟
15:00	
15:10	シンポジウム II 診療録管理士から見た 診療録管理の在り方 司会 酒井 隆子
16:40	
16:50	閉 会 式

## 第21 '85国際モダンホスピタルショウ実施概要

### 開催要綱

- テーマ : よりよい医療を求めて  
～ 医療における質の改善と実践 ～
- 会期 : 昭和60年6月14日(金)～17日(日)  
午前10時～午後6時 (最終日のみ午後4時終了)
- 会場 : 東京・池袋サンシャインシティ文化会館 2階・3階・4階  
(東京都豊島区東池袋3-1-4)
- 主催 : 社団法人 日本病院会  
社団法人 日本経営協会
- 後援 : 厚生省 外務省 通商産業省 消防庁 東京都 特殊法人日本貿易振興会  
財製産輸入促進協会(ミプロ) 社日本医師会 社日本薬剤師会  
社日本看護協会 財医療情報システム開発センター 財日本医薬情報センター  
社全国自治体病院協議会 社全日本病院協会 社日本医療法人協会  
社日本精神病院協会 全国公私病院連盟 出展各国大使館
- 協賛 : 社日本病院薬剤師会 社日本栄養士会 社日本放射線技師会  
社日本臨床衛生検査技師会 社東京都臨床衛生検査技師会  
社日本エムイー学会 社日本放射線機器工業会 日本薬科機器協会  
社日本病院建築協会 日本衛生検査所協会 社日本電子機械工業会  
日本医科器械商工団体連合会 日本医用機器工業会  
日本医療用プラスチック協会 社日本衛生材料工業連合会  
日本人工臓器工業協会 財日本医療食協会 社日本健康治療器工業会  
日本理学療法器材工業会 全国消防機器協会 日本分析機器工業会  
日本医用光学機器工業会 全国社会福祉協議会 社全国病院理学療法協会  
日本歯科商工会 日本歯科器械工業協同組合 日本歯科材料工業協同組合  
歯科薬品協議会 日本歯科用品輸入協会 日本歯科用品協同組合連合会  
(順不同)
- 開会式 : 来賓祝辞 (順不同・敬称略)
- |                  |       |
|------------------|-------|
| 厚生省 健康政策局長       | 吉崎正義  |
| 社団法人 日本医師会 常任理事  | 森田浩一郎 |
| 社団法人 日本看護協会 常任理事 | 杉谷藤子  |

スイス大使館 一等書記官	アントン・タールマン
日本医療機器関係団体協議会 会長	岩井 喜典
主催者挨拶	
社団法人 日本病院会 会長	諸橋 芳夫
社団法人 日本経営協会 理事長	高橋 松三郎
社団法人 日本病院会 会長	諸橋 芳夫
社団法人 日本経営協会 理事長	高橋 松三郎
'85 国際モダンホスピタルショウ 担当理事	河野 稔
厚生省 健康政策 局長	吉崎 正義
社団法人 日本医師会 常任理事	森田 浩一郎
日本医療機器関係団体協議会 会長	岩井 喜典

テーブルカット :

社団法人 日本病院会 会長	諸橋 芳夫
社団法人 日本経営協会 理事長	高橋 松三郎
'85 国際モダンホスピタルショウ 担当理事	河野 稔
厚生省 健康政策 局長	吉崎 正義
社団法人 日本医師会 常任理事	森田 浩一郎
日本医療機器関係団体協議会 会長	岩井 喜典

特別企画事業 :

- ホームケアコーナー
- ～ 在宅介護用品・看護相談 ～
- ① 食生活関係 食器・イス・テーブル・道具等および流動食などの食事関連製品
  - ② 排泄関係 便器・尿器・ポータブル便器・蓄尿袋・人工肛門など
  - ③ 清潔関係 ポータブル浴槽・バスリフト・浴槽安全手摺・シャワー用チェア・清拭剤・ソープ・洗髪器ほか
  - ④ 衣生活関係 シーツ・肌着・寝まき・おむつ・独自で開発した着やすい服ほか
  - ⑤ 睡眠・寝具関係 電動式リモートコントロールベッド・ギャッチベッド・ウォーターベッド・褥瘡マット・ベッドサイドテーブル・ストレッチャー・便器付ベッド・マット・布団・ベッドほか
  - ⑥ リハビリテーション(歩行・移動)関係 車椅子・電動車椅子・移動椅子・クッション・腕支持クラッチ・松葉杖・杖先用ゴム・はきもの(すべらないもの)ウォーカー・補装具・自助具等機能回復訓練器具ほか
  - ⑦ その他関連関係 血圧計・体温計・脱臭・消毒用品ほか

特別研究会・セミナー :

- ① 医事研究会
- ② 庶務人事・労務研究会
- ③ 会計経理研究会

- ④ 看護管理研究会
- ⑤ 薬事管理研究会
- ⑥ 栄養管理・調理研究会
- ⑦ 放射線研究会
- ⑧ 臨床検査管理研究会
- ⑨ ハウスキーピング研究会
- ⑩ リハビリテーション研究会
- ⑪ 医療紛争防止のためのセミナー
- ⑫ シンポジウム「病院における効果的なコンピュータの使い方」

## 1. 展示規模

159社／7,700  $m^2$  過去最大規模で開催

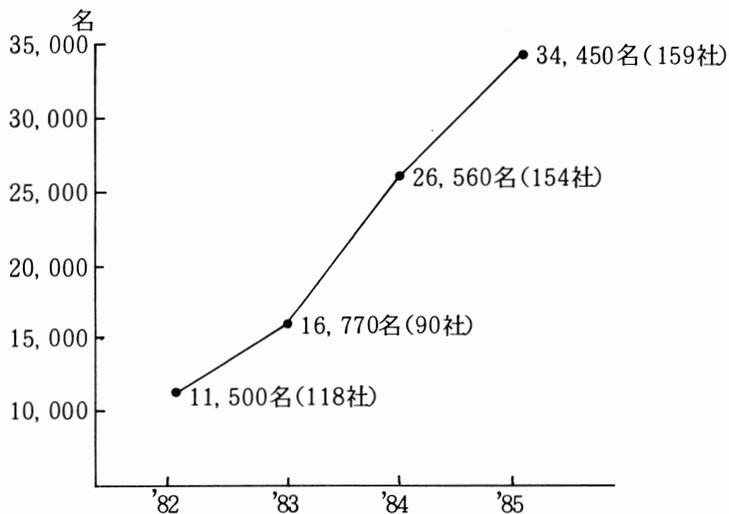
海外からカナダ、スイスが出展

'85	159社／7,700 $m^2$ (展示面積 2,500 $m^2$ )	輸入品展示 21社
'84	154社／7,700 $m^2$ (展示面積 2,000 $m^2$ )	輸入品展示 10社
'83	90社／4,500 $m^2$ (展示面積 1,300 $m^2$ )	—

## 2. 来場者数

総入場者数は34,450名(昨年度26,560名)

前年比30%増



	'85 (第12回)		'84 (第11回)		'83 (第10回)	
第1日	6月14日(金)	11,920	6月15日(金)	8,350	6月17日(金)	5,210
第2日	6月15日(土)	13,670	6月16日(土)	10,940	6月18日(土)	6,990
第3日	6月16日(日)	8,860	6月17日(日)	7,270	6月19日(日)	4,570
	合計	34,450	合計	26,560	合計	16,770

※ 詳細については、来場者分析をご参照ください。

※ 団体見学（医療専門学校）35校2,582名（昨年33校 2,443名）

### 3. 来場者動員対策とパブリシティ活動

'85 国際モダンホスピタルショウの規模・特色 新製品、特別企画事業「ホームケアコーナー」の内容紹介

また、会場への報道関係者動員など積極的なパブリシティ活動を展開した。

(1) ポスターの配布

全国の病院および出品社・協賛団体へ2,000部配布

(2) 特別招待状の配布

2,000部配布（内159部は出品社配布）

(3) 招待状の配布

300,000通

(4) 駅貼りポスター

ポスター掲示 地下鉄有楽町線の12駅に掲示

掲 示 期 間 6月12日(水)～6月16日(日)の5日間

(5) テレビ

放送局	番組名	放送日時
TBSテレビ	JNNニュース	6月14日(土) AM11:40～
フジテレビ	FNNニュース	6月14日(土) AM11:30～
テレビ朝日	ニュースライナー	6月14日(土) AM11:40～
テレビ東京	ニュースTODAY	6月14日(土) PM5:30～
日本テレビ	きょうのニュース	6月14日(土) PM6:30～
NHK	NHK特集	9月2日(月) PM8:00～

(6) 開催記者発表会

事務局では、下記のとおり記者発表会を行なった。

日 時	場 所	内 容
4月23日(火)	大手町サンケイ会館にて記者発表会	(専門紙)
6月12日(水)	厚生省記者クラブにて記者発表会	(専門紙)

## 要 望 書

この度の北九州一病院グループにおける不祥事件の発生は、国民に医療に対する不信感を与えるものであり、かねてよりわれわれ四病院四団体が医の倫理の高揚に努めている折柄誠に遺憾である。

この際、病院側も行政側も深く反省し、再発の防止に全力をつくすべきである。

厚生省は、これら一部の不祥事件の度ごとにあたかもそれが全医療機関に共通するものの如く考え、指導・監督の強化を唱え、今回もまた「医療監視の強化」及び「基準看護の一斉総点検」を指示している。

現在のわが国の低医療費政策のもとに、病院の経営管理に苦慮しながらも、国民医療の向上に努力している一般の善良な病院関係者に徒らに不安を抱かせ、又診療意欲を低下せしめるものであり、誠に憂慮に堪えない。

ここに、われわれ四病院団体連絡協議会は、次の点について強く要望する。

- 1、厚生省の今回の「医療監視の強化」及び「基準看護の適正な運用」にあたって徒らに強権を直ちに発動することなく、適正かつ適切な指導を先行するように措置されたい。
- 2、厚生省は、今後各都道府県等に対する指示事項、諸法令の改正等の際し、予め日本医師会と協議するはもとよりであるが、病院と重大な関係をもつ事項については、四病院団体連絡協議会にも予め協議されたい。

昭和60年 7 月 25日

殿

(五十音順)

社団法人 全日本病院協会



社団法人 日本医療法人協会



社団法人 日本精神病院協会



社団法人 日本病院会



## 税制に関する要望書

医療業は、業務の基本的性格から高い公共性を要請されており、また、われわれ医療従事者もこれを自覚し、その社会的使命の達成に努力しております。

医療の原点とも言うべき救急医療または措置医療に関しても、これに積極的に取り組みその責務を果しているのは、民間医療機関であります。

しかしながら、税制面におきましては、一般産業と比較して、その公共的側面に対する配慮がほとんどされてなく、また公的医療機関と比較しても、その業務の同質性からみて著しく均衡に欠けるものがあります。

医療業の公益的側面に見合った税制の確立のため、別紙のとおり、昭和六十一年度の税制改正要望事項の実現について格別のご配慮の程要望申し上げます。

昭和六十年九月二十四日

社団法人 全日本病院協会

社団法人 日本医療法人協会

社団法人 日本精神病院協会

社団法人 日本病院会

(五十音順)

殿

## 昭和六十一年度税制改正要望事項

### 一、事業税関係

一、医療機関に対する事業税の特例措置、即ち

(一) 医療法人に対する事業税の軽減措置

(地方税法第七十二条の二十二)

(二) 社会保険診療報酬にかかる事業税の非課税措置

(同法第七十二条の十四及び第七十二条の十七)

を現行どおり存続されたい。

### (理由)

従来から医療機関に対する事業税の見なおし論議がありますが、医療は医療法第七条から見ても公共性の高いものであり、これに事業税を課すべきものでない。

(一) 公的医療機関に比較し、税負担という差別を余儀なくされている私的医療機関に、更に税負担の加重を強いることは、経営の悪化を招き、医療事業の健全性を損ねることは明らかである。

(二) 社会保険制度の制限診療の特質や、診療報酬支払基金の性格からみて、これに事業税を課することは妥当でない。

(三) 収支の悪化から経営危機が叫ばれている私的医療機関の実情無視は、その存在否定にもつながり医療の混乱が懸念される。

### 二、所得税、法人税関係

一、非常勤医師の給与所得源泉徴収額は所得税法第二百四条の適用を可能にすること。

(所得税法第二百四条第一項)

### (理由)

現在は、乙種適用による高度の累進税率適用になっているため、雇用者の負担は極めて高いものとなっている。必要な法令通達の改正により、報酬または料金の十％税率適用を可能にされたい。

二 剰余金の配当の禁止と業務範囲が制限されている医療法人について、協同組合等と同様の法人税率を適用すること。(法人税法第六十六条第三項)

また、特定の医療法人は非課税法人とされたい。(措置法六十七条の二)

### (理由)

(一) 医療法人は、その法人組織、運営のすべてに亘り、民法第三十四条の公益法人のそれを準用してい

る。しかも、剰余金の配当禁止と業務上附帯業務についての制限等があり、医療事業の公益的性格と併せて、協同組合等と比較し、その位置づけに即応した同率の二十六分の税率を適用されたい。

(二) また特定の医療法人は、その組織運営及び最終財産の帰属が、社会福祉法人または厚生連医療機関と同一の条件にある以上、税制上も同等な非課税法人とされたい。

三、病院用建物および建物附帯設備について、法定耐用年数を短縮すること。(耐年省令別表第一)

(理 由)

病院の施設基準は患者等の収容に適応した環境条件を要求している。老朽化した設備については、耐用年数未満でも改善命令による更新が義務づけられ、国際登録ホテル等と比較しても、その耐用年数はより短縮されるべきである。

建物鉄筋コンクリート造三十六年、建物附帯設備十二年等登録ホテル業等の耐用年数と同等以下の年数に短縮されたい。

四、中小企業新技術体化投資促進税制(メカトロ減税)の適用期限の延長及び対象機器の範囲を拡大されたい。

(理 由)

中小企業新技術体化投資促進税制(メカトロ減税)期限を、昭和六十一年四月一日以降も引き続き延長し、医療設備の近代化と、その整備充実の促進をはかられるよう要望する。

五、病院、診療所等医療機関の耐火構造を有する建物、構築物及び防災施設に対する割増償却制度を設けること。

特に防災施設については、大幅の割増償却制度を設けること。

(理 由)

(一) 火災による災害の多発から、消防・防災査察は一段と強化され、殊に人体の安全、保護を至上命令とする医療施設については、建築基準法及び医療法に規定する安全確保のための諸設備の実施、履行の徹底が期せられている。

(二) 規定される諸設備の完全実施はもとより制度の趣旨を生かし、耐火及び防災施設の改善、促進をはかるためにも、特例措置が必要である。

(三) 耐火建築物等、耐火及び防災施設を取得し、事業の用に供した場合は、以後五年以内の日を含む事業年度については普通償却限度の百分の割増償却を認めること。

(昭和四十九年三月三十一日限り廃止された措置法四十八条の耐火建築物の割増償却の復活)

六、休日、夜間診療または予防接種法による予防接種等に協力した場合の謝金については、特別控除の特例を設けること。

(理由)

救急医療、並びに予防接種の公益性にかんがみ、協力謝金に対する特例措置を講ずることにより、救急医療体制の推進と予防接種の円滑な実施など、地域医療の確保を図る必要がある。

七、特定の医療法人に対する財産の贈与または遺贈があった場合において、措置法第四十条の承認を受け、譲渡が無かったものとされた財産提供については、特定医療法人成立後も受入れに対する法人税を非課税とされたい。

(理由)

法人設立後の財産の贈与または遺贈は、基本財産組入れを指定されたもので、これに組入れられたものであっても益金として法人税の課税対象となるのは、提供の趣旨にても不合理である。

三、固定資産税、不動産取得税関係

一、医療法人が経営する病院、診療所及び看護学校等パラメディカル養成施設において、直接その用に供する固定資産または不動産について、固定資産税または、不動産取得税を非課税とされたい。

(理由)

(一) 現在、公的医療機関の経営する病院、診療所において直接その用に供する固定資産または不動産については、固定資産税または不動産取得税は非課税となっており、また、特定医療法人についても、その設置する医療関係者の養成所において、直接教育の用に供する固定資産または不動産については、固定資産税または不動産取得税は非課税とされている。(地方税法第七十三条の四第一項三号及び同法第三百四十八条第二項九号)

(二) 殊に、特定医療法人は、特に強い公益性を義務づけられた医療法人であり、その要件からみて、公的医療機関と何等変わることのない取り扱いをされてしかるべきである。

(三) 総制上協同組合等に位置づけられている特定医療法人においては、協同組合経営の病院・診療所の不動産取得税及び固定資産税は非課税となっており、これと同様の措置をとられるよう要望する。(地方税法第七十三条の四第一項八及び同法第三百四十八条第二項十一号の三)

(四) その他の医療法人についても、社会保険診療機関及び救急医療機関の整備にからめて、全国一律に軽減措置を適用されますよう要望する。

# 病院診療報酬改定要求書

昭和60年11月12日  
病院診療報酬適正化推進会議  
社団法人 日本病院会  
全国公私病院連盟

## 1. 要求の趣旨

昭和59年3月の診療報酬改定は、病院にとって、実質2.4%の収入減となり、病院経営を一段と悪化させた。59年10月の健保本人1割負担の実施により、経営状況はさらに悪化し、60年3月の改定は、平均的には2.2%の増収となったが、物価や人件費の高騰に見合うものではなく、特に小病院においては実質的な増収とはならなかった。

このような状況の下で、病院の経営は逼迫の度を増し、医療の荒廃を懸念させるようになってきているので、診療報酬を適時適正に改定して、良質の医療が継続発展できるようにしなければならない。

## 2. 病院診療報酬改定の方針

### (1) 原価割れ料金の適正化

部門別(入院・外来・手術・人工透析・放射線・検査・リハビリ・薬剤・給食等)に収支の均衡が図られるよう原価割れ料金を適正化すること。このことが、医療費を効率的に活用し、国民医療の向上をはかる経済的基盤を確立することになる。

### (2) 物と技術の分離評価

医療サービスの中心となる医師の技術を適正に評価し、看護婦その他

の医療技術員の技術料を明確にし、消費する物について適当な料金を設定しなければならない。

### (3) 薬価差益によらない適正化

改定に際しては、薬価差益等により経営を支えることのないよう、薬価等の引き下げを行なうと同時に、物と技術にかかる費用を適正に補償しなければならない。

### (4) 診療報酬年1回の見直し

医療機関の経営等にかかる実態を、毎年1回調査し、この結果に基づいて診療報酬の見直しを行ない、明確な算定基礎に立脚した診療行為別点数表を策定しなければならない。

## 3. 改定要求の重点項目

昭和59年10月に実施した「病院部門別原価計算調査」の結果による原価割れの実態、さらにその後における物価・人件費の変動等を勘案し、次のとおり診療報酬の改定を要求する。

### (1) 入院時医学管理料

- ① 現行点数を約10%程度引き上げること。
- ② 入院後の期間によるのみでなく、病状により、医師の取扱う患者数の多寡を考慮に入れるなど医療サービスの態様により、弾力的に点数を設定する必要がある。
- ③ 入院期間の取り扱いについて次のように改めること。
  - (ア) がん、脊損、厚生省指定の難病、植物人間、小児、未熟児については、在院全期間に「2週間以内」料金を適用すること。
  - (イ) 特定の手術(概ね3,000点以上)の患者は、3カ月以内に限り、「2週間以内」料金を適用すること。

(ウ) 脳卒中患者については、1カ月以内に限り、「2週間以内」料金を適用すること。

(ロ) リハビリ中の患者については、3カ月以上においても3カ月以内料金を適用すること。

④ ICU、CCUの加算については、認定基準および料金を実態に即して、大幅に改善すること。

## (2) 室料

① 現行点数を約40%程度引き上げること。

② 室料の原価は、施設・面積・冷暖房等のサービス水準により著しく異なるので、これらの実態により、加算制度を考えること。

③ 医療法、消防法、建築基準法等の規制があり、これに適合するような建設に要した原価は、補償すること。

④ 国民の生活水準の向上に伴い、差額病室を希望する患者が増加する傾向にあるので、病院ごとの差額病床数の制限は緩和すること。

## (3) 給食料

① 病院給食の質的改善のため約8%引き上げること。

② 栄養食事指導回数、現行月1回の算定を2週間に1回に改善すること。

③ 基準給食における特別食加算の枠を拡大すること。

## (4) 看護料(基準看護加算を含む)

① 看護要員の給与および関連費用と看護要員1人当りの患者数を勘案して、看護料および加算点数を算定すること。

② 看護料は、現行点数を約40%程度引き上げること。

③ 基準看護の適用を次のように改めること。  
資格別看護要員の割合については、看護助手を増加し、看護力の効

率的活用をはかること。

(ウ) 基準看護承認基準は、病院単位の承認基準を廃止し、病棟単位とする。病棟単位は、一般病棟、小児病棟、老人病棟、精神病棟、結核病棟の5区分により、それぞれ適用すること。

(イ) 現行基準看護基準の再検討を行い、看護婦、准看護婦、看護助手の比率を、4:4:2のほか、特定の病棟において新たな基準、例えば2:3:5を新設すること。

(ウ) 1類以上については、准看護婦5年以上の経験者を、看護基準人員の30%以内で、看護婦とみなすこと。(看護婦の採用が著しく困難な地域に限る)

(ロ) より高い看護密度が要求される一部の病棟については、より高い基準看護基準(2:1)を新設し対応すること。

④ 重症者収容看護加算の点数を600点に引き上げ、収容承認の枠を拡大するとともに、精神、結核病棟についても適用すること。なお、重症加算室は、特別室に固定しないこと。

## (5) 初診料・再診料

① 現行点数を約10%程度引き上げること。

② 精神病の初診料加算を新設すること。

## (6) 外来看護料(新設)

① 外来患者1人1カ月につき60点を要求できるものとする。

② 病院は、一定数の看護婦を配置しなければならないことを、医療法で規定しているが、料金設定がないこともあり、外来部門は大きな赤字を生じている。従って、この原価を補償すること。

③ 60点は、1人1日当りの原価であるが、当面、1カ月に1回として要求するものである。

(7) 訪問看護料（新設）

医療依存度の高い在宅療養者に対する看護婦の訪問指導の料金を新設すること。

(8) 手術料

現行点数を約10%程度引き上げること。行為の難易度、所要時間、従事する医師及び看護婦数を勘案して引き上げ率を変え、一率にならないように留意すること。なお、処置料についても適正に引き上げること。

(9) レントゲン診断料および放射線治療料

- ① 現行点数を約15%程度引き上げること。特に赤字の大きいリニアック、コバルト等放射線治療の原価を補償すること。
- ② レントゲン診断料の名称をエックス線診断料に訂正すること。

(10) 検査料

検査機器の高度化と多様化に伴い、更に高度な精度管理が必要となるため、検査技術料を評価すること。

(11) リハビリテーション関係料金（運動療法、作業療法、言語療法等）

- ① 現行点数を約18%程度引き上げること。
- ② 施設認定病院外で行われる場合に限り、マッサージ料を新設すること。
- ③ 理学療法関係検査料を引き上げること。
- ④ 言語療法にかかる治療行為の点数を引き上げること。

(12) 調剤関係料金

- ① 入院時薬歴管理料を新設するとともに、薬剤師等の技術料を明確に評価すること。
- ② 調剤技術基本料および調剤料を適正化すること。なお、保険調剤薬局の料金との均衡をはかる必要がある。

(13) 指導管理料・退院時指導料

- ① 医師の指示に基づき、保健婦、医療ソーシャルワーカー、理学療法士、作業療法士、等が行う指導、相談に対し、指導管理料を新設すること。
- ② 栄養士の指導管理料を実態に即して改善すること。
- ③ 医師又は医師の指示を受けて、保険医療機関の薬剤師、看護婦、保健婦、栄養士、医療ソーシャルワーカー、理学療法士、作業療法士等が指導を行った場合に算定される退院時指導料を引き上げるとともに、老人保健法以外にも適用すること。

(14) 精神病特殊療法料

精神療法等の技術料の引き上げ、精神科デイ・ケアおよび精神科作業療法の見直し、（1日取扱数を75名より引き下げること）ならびに入院時カウンセリング料、退院時カウンセリング料の新設を行うこと。

(15) 救急医療

救急加算の範囲の拡大、および引き上げを行うこと。

(16) その他

- ① 特定治療材料  
保険適用の範囲を拡大すること。
- ② デイ・ケア料  
精神科以外にも新設すること。
- ③ ケース・ワーク料  
新設すること。
- ④ 注射手技料  
適正に引き上げること。
- ⑤ 僻地加算  
新設すること。

⑥ 時間外加算  
適正に引き上げること。

⑦ 暖房加算  
新設すること。

⑧ その他の加算  
人件費の増加に見合うよう引き上げること。

⑨ 老人性痴呆等問題行動があって特別の介護を要する老人患者に対し、特別介護料を新設すること。

#### 4. そ の 他

##### (1) 薬 価 基 準

薬価基準の改定を行なうと同時に、診療報酬の見直しを必ず行なうこと。

##### (2) 検 査

検査料の適正化により生じた財源は、必ず原価割れ料金の引き上げにあてること。

##### (3) 老 人 医 療

老人医療について制度の範囲の拡大・新設・引き上げなど、つぎの改善を行なうこと。

① 一般病院（基準看護承認病院）に特例許可病棟の承認がされるよう制度改善を行なうこと。

② デイ・ケア運用基準を拡大すること。

なお、在宅老人医療ケアを向上させるためにも、デイ・ホスピタルを指導すること。

③ 退院後看護指導料の期間を延長し、指導料を540点に改めること。

④ 一般病院に入院する老人患者にも、特定患者収容管理料（1日20点）を設けること。

( 参 考 )

5. 診療報酬改定率とその影響

	引き上げ率 %	影響率(診療行為別点数構成 割合×引き上げ率)
		病 院
入院時医学管理料	10	0.6
室料(給食料を含む)	48	2.6
看護料	40	2.0
基準看護加算		
特 3	新 設 (特定病棟)	0.4
特 2	34	1.1
特 1	30	0.3
1 類	27	0.2
2 類	25	0.0
3 類	10	0.0
初 診 料	10	0.2
再 診 料	10	0.4
外 来 看 護 料	新 設 1月1回60点	1.7
手 術 料	10	0.3
放 射 線 料	15	0.6
リハビリ関係料	18	0.2
合 計		10.6

注：引き上げる行為の影響率を列記して合計したものであるから  
薬剤料等引き下げられるものについては、別に考慮する必要がある。

看護料および基準看護加算現行点数・要求点数

	現行点数	要 求 点 数		上 昇 率 (A) %
		(A)	(B)	
(1) 看護料	111	155	155	40
(2) 基準看護加算				
1) 特 3 類 ( 2 : 1 )		475	407	
2) 特 2 類 ( 2.5 : 1 )	278	345	290	24
3) 特 1 類 ( 3 : 1 )	212	259	213	22
4) 1 類 ( 4 : 1 )	123	150	116	22
5) 2 類 ( 5 : 1 )	72	85	58	18
6) 3 類 ( 6 : 1 )	40	42	19	5

基準看護基準別必要看護料(加算を含む)現行料金による収入：(円)

	(1) 必要看護料 (A)	(2) 現行料金	(3) (1)-(2)	(4) $\frac{(3)}{(1)} \times 100$
特 2 類	4,938	3,890	1,048	21
特 1 類	4,072	3,230	842	21
1 類	2,989	2,340	649	22
2 類	2,339	1,830	509	22
3 類	1,906	1,510	396	21

## 国民医療を守るための決議

社会保険診療報酬は、医療費抑制策のもと二度の実質的マインナス改定により、六年有半据置かれ、本年三月僅かな手直しを実施したものの、この間の人件費および物価の上昇は、病院の経営を長期に亘って圧迫している。今にして診療報酬の適正化・合理化が行なわれなのまま放置されれば、病院経営に破綻をきたし、医療は荒廃し、良質の医療を国民に提供することは極めて困難なものとなる。

かつまた政府は、昨年十月健保本人一割負担を実施し、来年六月より弱者たる老人患者の負担増を行なおうとしていることは、国の福祉政策にも逆行する悪政と謂わざるを得ない。

そのうえ、昭和二十七年より医療の公共性から実施されている社会保険診療報酬に係る事業税の非課税措置の撤廃をはからんとしていることは、甚だ遺憾の極みである。

ここに本大会の開催により政府の方針に反省を促し、国民医療を守る立場から、左記事項の実施を要求するものである。

### 記

- 一、政府は、社会保険診療報酬に対する事業税の非課税措置を存続すること。
  - 二、政府は、われわれの策定した病院診療報酬改定要求を直ちに実施すること。
  - 三、政府は、老人患者の自己負担増加を中止すること。
- 右決議する。

昭和六十年十一月十二日

## 国民医療を守る全国病院大会

主催団体  
病院診療報酬適正化推進会議

社団法人日本病院会

- 東京 支部
- 千葉 支部
- 和歌山 支部
- 高知 支部

全国公私病院連盟

- 全国自治体病院協議会
- 全国公立病院連盟
- 全国厚生農業協同組合連合会
- 日本赤十字社病院長連盟
- 日本私立病院協会
- 東京都病院協会
- 岡山県病院協会

協賛団体

- 恩賜財団済生会
- 全国済生会病院長会
- 日本結核病院協会
- 北海道社会事業協会
- 北海道公立病院連盟
- 北海道私的病院協会
- 秋田県病院協会
- 山形県病院協議会
- 福島県病院協会
- 栃木県病院協会
- 茨城県病院協会
- 埼玉県公的病院協議会
- 神奈川県病院協会
- 長野県病院協議会
- 長野県公的病院協議会
- 山梨県病院協会
- 静岡県病院協会

- 新潟県病院協会
- 愛知県病院協会
- 岐阜県病院協会
- 石川県病院協会
- 富山県公的病院長協議会
- 三重県病院協会
- 滋賀県病院協会
- 京都府病院協会
- 京都私立病院協会
- 大阪府病院協会
- 大阪府私立病院協会
- 奈良県病院協会
- 和歌山県病院協会
- 兵庫県病院協会
- 兵庫県私立病院協会
- 広島県病院協会
- 鳥取県病院協会
- 島根県病院協会
- 山口県病院協会
- 愛媛県病院協会
- 福岡県病院協会
- 長崎県医師会病院部会
- 横浜市病院協会
- 川崎市病院協会

- 日本看護協会
- 日本病院薬剤師会
- 日本栄養士会
- 全国病院栄養士協議会
- 日本臨床衛生検査技師会
- 日本放射線技師会
- 日本理学療法士協会
- 全国病院理学療法協会
- 日本作業療法士協会
- 日本医療社会事業協会

(順不同)

医療費を改訂し老人患者の負担増を避け  
事業税の非課税措置の存続を要望する

病院診療報酬適正化推進会議 代表委員 諸橋 芳夫  
社団法人 日本病院会 会 長

医療費の高騰は世界の趨勢である。医学医療・薬学の進歩、人口の高齢化、疾病構造の変化が最大の要因である。加えて国民の生活水準の向上に伴うよりよきサービスへの要望があるからである。

我が国民の健康水準は医学医療の進歩、医療供給体制の整備、公衆衛生の進展、国民皆保険制度の実施と医療従事者の絶ゆまざる努力により今や世界第1位に達した。

## 1) 医療費改訂

政府は国の財政赤字解消を名目に、この数年来公的負担を減らし、急激なる医療費抑制策をとってきた。社会保険診療報酬は、昭和56年6月および昭和59年3月に改訂されたが、いずれも同時の薬価基準の大幅な引き下げにより、マイナス改訂となった。漸くこの3月1日より病院は実質1.6%アップとなった。

一方この間、物価・人件費は25~30%も高騰している。事実、水道・ガス・電気・国鉄・バス等の公共料金は平均 22.2%の上昇を示しているのである。その結果病院の経営は長期にわたって逼迫している。即ち、医療機関の倒産は昭和56年から昭和59年の間、昭和56年35件、負債額216億円余。昭和57年43件、負債額166億円余。昭和58年54件、負債額466億7,450万円。昭和59年68件、負債額289億円となっており、今年7月までに既に22件、負債額213億円余となっている。

さらに社会保険診療報酬支払基金の調査では、債権譲渡、差し押さえ命令等を受けているものは数百件にのぼるといふ。従って、年末までには倒産が続出するであろうと言われている。

このままでは、良心的な、良質な医療を提供する病院の崩壊も避け難いものと思われる。厚生省の調査による一般病院としての自治体、日赤、厚生連、済生会、共済連等の公的病院200の今年6月の移動年計による医療収支は100円の収入を上げるのに甲表病院は102円10銭、乙表病院は102円60銭の費用を要している。

このことは、補助金のある、税金のかからない公的病院の経営が原価を割り、赤字であることを示すものである。

従って、補助金のない税金を納めている、良心的な良質な医療を提供する私的病院は、正にその経営が危殆に類していると言っても決して過言ではない。

病院経営にあたって、無駄の排除、節約、経営の合理化、人件費の節約、設備投資の節減等々はもちろん実行済みであり、既にその極限に達している。

厚生省当局も技術料重視の診療報酬体系を確立し、医療費を適正化し、民間医療機関に対しては、税制面、融資面で優遇し、良質な医療機関の経営の健全化を計ると言明している。医療機関の中にも、少数ながら立地条件その他により、経営の良いものも確かにある。しかしながら、昨年の経常利益は上位100の医療機関の総計額でも、製薬メーカーで第1位の1社534億円の87%にしか当たらない。ちなみに製薬メーカー上位50社の経常利益は4,648億5,200万円で、医薬品卸業者の上位50社では561億4,800万円を示している。

各メーカー、卸業者は販売促進員と称し6万人以上も有し多額の費用を使っている利益である。製薬業界も毎年の薬価引き下げで経営が苦しくなってきたという。

しかしながら、欧米先進国に比し少ないとはいえ、拡大再生産のための研究開発費を多額（昭和59年度 100~300億円以上6社、50~99億円5社、17~49億円9社 計20社 1,680億円、総計約3,000億円-売り上げ額の平均8.8%）に費している。厚生省は新薬の価格設定において、研究開発費、拡大再生産費を加味して決めてあるという。

しかし、社会保険の診療報酬設定においては、医学医療の進歩を医

療の現場でとり入れ、また生活水準の上昇により、よりよきサービスを求めようとの国民の要望に応えたくとも、医療機関には拡大再生産費用が認められていないのは、不合理ではないか。

今や病院の医療費の中にも、医学技術の進歩、国民生活水準の向上、国民の要望の多様化高度化に対処するために、物的・人的整備充実に向かって拡大再生産費をとり入れた医療費改訂を行うことこそ、国民健康水準、世界第1位を維持し、人生80年型、福祉社会に対処できる所以である。医療費は健康への投資である。健康は何よりも大切である。

いずれにしても、病院において経営効率の改善努力をするにしても限度がある。長期にわたる経営逼迫の結果、背に腹は代えられず、経営的に有利な医療提供にのみ走り、高度・先駆的、および救急・新生児・リハビリ・へき地医療等の不採算医療を放棄するようになったら、国民の健康水準は低下し、国民の不幸は極めて大きいと言わざるを得ない。

今こそ直ちに原価割れ診療報酬を適正に改訂しなければ、国民にとっても、病院にとっても、重大なる局面に達することは火を見るより明らかである。

幸い、政管健保は4年続いて黒字であり、昨年度も2,040億円の黒字決算であったし、健康保険組合も、所得補償としての傷病手当金2千数百億円、保健施設費に1,917億円支出して尚かつ2,611億円の多額の黒字であった。

従って、健康への投資の医療費財源はあるのである。我々は国民の健康水準の向上を維持するため、病院経営健全化を計るためにも、原価割れ料金は是正として技術料を中心に室料（現在1,160円、国民宿舍2,600円）、給食料（現在1日3食1,270円、国民宿舍2食2,200円）入院時医学管理料、診察料、手術料、外来看護料を含む看護料、放射線料、調剤料、リハビリ料等のアップを拡大再生産費を含み病院診療報酬の10.6%のアップを要求するものである。小澤辰男氏、橋本龍太郎氏も、人事院勧告により、人件費がアップする以上医療費は毎年あげるべきであると言明されているのは誠に正しい言である。

## 2) 老人患者の自己負担増を避ける

政府は老人医療費を老人保健制度の改正、即ち現在の入院時1日300円の負担2ヵ月限りを、期限なしの1日500円、外来1ヵ月400円を1,000円の負担に引き上げることによって、患者負担を2.6倍（1,560億円）にし、1,000億円の老人医療費減を計らんとしている。老人は所得が少なく、有病率、受療率も高い弱者である。

折角昭和48年に老人医療費の無料化を計り、政府はこの年を福祉元年と声高らかに言っていたのに、12年にして今やこれを放棄せんとしている。現在の老人は、厳しい戦争を生き抜き、戦中戦後身体をすり減らして働き今日の日本の繁栄を築いた人達である。

この人達に老人保健法を改正して一挙に2.6倍の負担金増をかけることは、老人患者の早期受診、早期発見、早期治療を遅らせることとなり、国の福祉政策に逆行するも甚だしいと言わざるを得ない。

ここに我々病院人は弱者たる老人と共に老人医療費の自己負担増に反対するものである。

## 3) 社会保険診療報酬に係る事業税の非課税措置の存続

大蔵省は社会保険診療報酬に係る事業税の非課税の特別措置を来年度から廃止しようとしている。

このことは、次に述べる理由により、病院医療の本質にとって、誠に重大なことである。

医療法の第7条において、病院または診療所は、営利を目的としてはならない、と規定されているばかりでなく、人命救助、救急医療、学校医、住民検診等地域医療など非常に公共性が高く、医師法第19条で、医師は、診療、治療を求められた場合は正当な事情がない限り拒否できないことになっており、医療とは人命に結びつき、奉仕性の強いものである。

国保および社会保険診療報酬は、全国一律の公定の公共料金で、技術的報酬を主体とし労働性が強く、所得税は源泉徴収されるなど、給与的性格をもっている。これに他の営利事業と同じように事業税を課することは全く不合理極まるものである。

自民党医療基本問題調査会会長 橋本龍太郎氏は「事業税を課した場合、公費や自賠責診療は社保の1.5～2倍となっており、事業税を課して営利と認めた瞬間、社保の点数引き上げ要求を拒否できなくなる。

同様に学校医の報酬を初診料相当額で算定したら現行の38億円が1,106億円、3才児検診の5億円が20億円弱となるように、予防接種、民間に多く依存する休日・夜間・救急診療、へき地巡回診療、健康教育などの手当・報酬を引き上げたら膨大な額になる。

事業税を賦課した場合地方税が600億円増収になるとしても差し引き国にとって大きなマイナスになる」と言明されている。

万一事業税賦課ともなれば、これにより病院が営利化され、株式会社化されたら、一体国民の被害はどうなるであろうかと思うだに身ぶるいを感ずるものである。このことは、公的医療機関が無税であるだけに、厚生省が税制面で民間医療機関の経営の健全化を計ると言明している主旨に反するものである。

万一、この事業税が課せられると、試算では、固定資産税の他に既に払っている法人税・県民税・市民税に加えて、加算され所得の62%以上の課税となり、年間10億円の診療収入のある医療法人では事業税分として更に480万円余の増税となる。また年間22億円の収入の医療法人は更に3,650万円余の増税となる。

これでは、民間病院は相当数破壊するであろう。

私は、ここに声を大にして、従前通り社会保険診療報酬に対して非課税措置を強く要望するものである。

以上、私は良質な医療を提供し、国民福祉を守るため、原価割れの病院診療報酬を即時改訂し、老人医療費の自己負担増反対、社会保険診療報酬についての事業税の課税反対を強く要望するものである。

国保診療報酬百円に相当する診療料とその影響率

	引き上げ率 %	影響率(診療行為 別点数構成割合× 引き上げ率)
		病 院
入院時医学管理料	10	0.6
室料(給食料を含む)	31	1.7
看 護 料	55	2.9
基 準 看 護 加 算		
特 3	新 設 (特定病棟)	0.4
特 2	34	1.1
特 1	30	0.3
1 類	27	0.2
2 類	25	0.0
3 類	10	0.0
初 診 料	10	0.2
再 診 料	10	0.4
外 来 看 護 料	新 設 (1月1回60点)	1.7
手 術 料	10	0.3
放 射 線 料	15	0.6
リハビリ関係料	18	0.2
合 計		10.6

注：引き上げる行為の影響率を列記して合計したものであるから薬剤料等引き下げられるものについては、別に考慮する必要がある。

## 老人患者の自己負担増に反対

### 老人保健法改正に伴う老人患者 の自己負担増反対要望書

殿

昭和60年11月25日

社団法人 全日本病院協会

社団法人 日本医療法人協会

社団法人 日本精神病院協会

社団法人 日本病院会

(五十音順)

政府は、老人医療費を老人保健制度の改正、即ち現在の入院時・1日300円の負担2カ月限りを期限なしの1日500円、外来・月400円を1000円の負担に引き上げることによって、患者負担を2.6倍(1,560億円)にし、1000億円の老人医療費減を計らんとしている。老人は、所得が少なく有病率、受療率も高い弱者である。

折角昭和48年に老人医療費の無料化を計り、政府はこの年を福祉元年と声高らかに言っていたのに、12年にして、今やこれを放棄せんとしている。現在の老人は、厳しい戦争を生き抜き、戦中戦後身体をすり減らして働き今日の日本の繁栄を築いた人達である。

この人達に老人保健法を改正して、一挙に2.6倍の負担金増をかけることは、老人患者の早期受診、早期発見、早期治療を遅らせることとなり、国の福祉政策に逆行するも甚だしいと言わざるを得ない。

ここに我々病院人は、弱者たる老人と共に老人医療費の自己負担増に反対するものである。

## 昭和六十一年度政府予算に対する要望

概記についての次の三点を要望いたしますので、格別の御尽力を賜りますようお願いいたします。

### 一、診療報酬の改訂について

病院経営健全化のため、部門別原価割れ料金を是正し、物的人的装備充実に向かつての、拡大再生産費をとり入れ、診療報酬十・六％引き上げを實現されたい。特に次の事項の實現を要望します。

- (一) 高齢化社会に対応する在宅ケアの推進
- (二) 看護料の重点評価
- (三) 初診料、再診料及び入院時医学管理料を引き上げる
- (四) 外来看護料の新設
- (五) 入院室料等の適正評価（給食、寝具を含む）
- (六) レントゲン診断料及び放射線治療料の適正評価
- (七) 病院調剤技術料及びリハビリテーション技術料等を引き上げる

### 二、社会保険診療報酬に係わる事業税の非課税措置の存続

医療は人間の生命と健康を守る極めて公共性の高いもので、営利を目的とすることは許されていない。

税負担の加重を強いることは、経営の健全性を損ね、ひいては医療の荒廃につながるものである。

### 三、老人患者の自己負担増を避ける

老人は所得が少なく有病率、受療率も高い弱者である、この人達に老人保健法を改正して一挙に二・六倍の負担増をかけることは、老人患者の早期受診、早期発見、早期治療を遅らせることとなり、国の福祉政策にも逆行することとなる。

昭和六十年十二月二十日

社団法人日本病院会  
会長 諸橋芳夫

自由民主党

全国組織委員長 佐藤 隆 殿

国民生活局長 稲垣 実男 殿

昭和60年12月 日

内科系学会社会保険連合  
代表 五島雄一郎 殿

日本病院学会  
社団法人日本病院会  
会長 諸橋芳夫

### 診療報酬改定等に関する要望書

#### 1. 要求の趣旨

昭和53年3月の診療報酬改定は、病院にとって、実質2.4%の収入減となり病院経営を一段と悪化させた。59年10月の健保本人一割負担の実施により、経営状態はさらに悪化し、60年3月の改定は、平均的には2.2%の増収となったが、物価や人件費の高騰に見合うものではなく、特に小病院においては実質的な増収とはならなかった。このような情勢の下で、病院の経営は逼迫の度を増し、医療の荒廃を懸念させるようになってきていぬので、拡大再生産費を含め診療報酬を適時適切に改定して、良質の医療が継続発展できるようにしなければならない。

#### 2. 要望項目

- (1) 入院時医学管理料
- (2) 室料、給食料を含む
- (3) 看護料

に重点を置き以上の項目について次の如き新設及び改定を要望します。

##### A 新設を要望するもの

- 1) 基準看護加算特3類(2:1)の新設 475点
- 2) 外来看護料の新設 月1回 60点
- 3) 検査、レントゲン検査の時間外加算の新設

##### B 現行点数の改定を要望するもの

- 1) 看護料 111→172点
- 2) 基準看護加算  
特2類 278→345点  
特1類 212→259"  
1類 123→150"  
2類 72→85"  
3類 40→42"

昭和60年12月 日

殿

社団法人 日本病院会  
会長 諸 橋 芳 夫

### 診療報酬改定についての要望

昭和59年 3月の診療報酬改定は、病院にとって、実質 2.4% の収入減となり、病院経営を一段と悪化させた。59年10月の健保本人 1割負担の実施により、経営状況はさらに悪化し、60年 3月の改定は、平均的には 2.2% の増収となったが、物価や人件費の高騰に見合うものではなく、特に小病院においては実質的な増収とはならなかった。

このような情勢の下で、病院の経営は逼迫の度を増し、医療の荒廃を懸念させるようになってきているので拡大再生産費を含め診療報酬を適時適正に改定して、良質の医療が継続発展できるよう次の事項の改定について格段のご配慮をお願いします。

#### 1. 初診料、再診料および入院時医学管理料の引き上げ

- (1) 医師技術料評価の中心であり、特に期間計算において疾病の重症度により運用すること。
- (2) 病院外来、専門外来（高血圧、甲状腺、糖尿病、腎臓病、アレルギー）を評価すること。

#### 2. 看護料の重点評価

- (1) 看護料および特に基準看護加算の引き上げ（高度の基準になるにつれて赤字が多くなるため）。
- (2) より高い看護密度が要求される一部の病棟については2：1の看護基準（特3類）を新設すること。

#### 3. 外来看護料の新設

医療法にもとずき、各科別に患者30人に1人の看護婦を配置することとなり、これが完全に赤字部門となっているので新設すること。

#### 4. 入院室料等の適正評価

- (1) 国民の生活水準の向上に見合った入院室料の評価をすること。
- (2) 差額病室を希望する患者が増加する傾向にあるので、病院ごとの差額病床数の制限は緩和すること。
- (3) 基準寝具設備点数を引き上げること
- (4) 給食料および医療用食品加算点数を引き上げること。

#### 5. レントゲン診断料および放射線治療料の適正評価

#### 6. 調剤関係の適正評価

- (1) 薬剤師の技術料を明確にすること。
- (2) 入院時薬歴管理料の新設。
- (3) 調剤技術基本料および調剤料の適正評価（保険調剤薬局の料金との均衡）

病院診療報酬改訂要望書

殿

昭和61年 2月 6日

病院診療報酬改訂要望書

社団法人 全日本病院協会

社団法人 日本医療法人協会

昭和61年 2月 6日

社団法人 日本精神病院協会

社団法人 日本病院会

四病院団体連絡協議会

(五十音順)

## 1. 総論

疾病構造の変化、人口の高齢化、医学医術の進歩により、医療、福祉を中心とする社会保障体制に重大な変化が生じている事は単に我が国のみならず世界的な趨勢であります。昭和56年6月以降政府は、物価人件費の上昇に全く無関係に医療費抑制策に終始してきたと共にその間の薬価基準の切り下げは45.8%（昭和53年2月以降）に及んでいますが、良質な医療の供給並びに医療費の節減に対して、我々は重大なる関心をもって努力しているところであり、その為に政管健保は昭和59年度において約2,000億円の黒字決算を示しまた組合健保においても、同様黒字決算を示しています。

その一方で医療機関の経営は赤字決算の傾向にあり、加えて保険法の改正並びに老健法の発足による受診者の自己負担額の導入政策が引きおこす受診率の低下並びに国民の医療受診に対する遅滞等の現象も見逃す事ができない実態であります。

現状が続くならば医療法改正の附帯決議にもある医療機関の経営の安定は不可能となり、国民の健康の保持に支障をもたらすこととなります。

したがって我々は医療費の改訂を強く要望します。

## 2. 各論

### 緊急改訂要求項目

- ① 初診料・再診料アップ
- ② 室料倍額要求
- ③ 給食料のアップ
- ④ 看護料の大幅アップ 特に基礎看護料の大幅アップ
- ⑤ 医学管理料の大幅アップ 逓減方式の緩和
- ⑥ 処置料のアップ
- ⑦ 薬価基準は薬効群を広げ、出来るだけ小幅に平等になるよう配慮してほしい。殊に医薬分業の不可能な注射については小幅にしてほしい。
- ⑧ 検査料の大幅引き下げは絶対反対である。

昭和61年2月8日

中央社会保険医療協議会  
委員 立花 銀三 殿

社団法人 日本病院会  
会長 許橋 芳夫

#### 診療報酬改定についての要望

社会保険診療報酬は、昭和56年6月及び昭和59年3月に改定されたがいずれも同時の薬価基準の大幅な引き下げにより、マイナス改定となった。昨年の3月1日改定により病院は実質1.6%アップとなった。

一方この間、物価・人件費は25～30%も高騰している。事実、水道・ガス・電気・国鉄・バス等の公共料金は平均22.2%の上昇を示しているのである。その結果病院の経営は長期にわたって逼迫している。今年4月1日より2.3%アップ（薬価改定分 1.5%を振り替え、実質0.7%のアップ）ときまつた。良質な医療が国民に提供出来、病院経営基盤の健全化が図られるよう次の事項について格段のご配慮をお願いします。

#### 1. 医師技術料の引き上げ

- (1) 初診料、再診料の引き上げ。
- (2) 入院時医学管理料の引き上げ。
- (3) 手術料の引き上げ。
- (4) 各種指導管理料の引き上げ。
- (5) 放射線治療料およびレントゲン診断料の適正評価。

#### 2. 看護料の重点評価

- (1) 基本看護料および基準看護加算の引き上げ（組織医療としての病院人件費の最大を占めるのは看護婦である）。
- (2) より高い看護密度が要求される一部の病棟については2:1の看護基準（特3類）を新設すること。
- (3) 5:3:2（4:4:2）の比率の他に病院によっては2:3:5の比率の基準看護を新設すること。

#### 3. 外来部門の適正評価

— 外来看護料の新設 —

病院は医療法にもとずき、各科別に患者30人に1人の看護婦を配置することとなっているので外来看護料を新設すること。

#### 4. 入院室料等の適正評価

- (1) 国民の生活水準の向上に見合った入院室料（現在国民宿舎の半分以下）の評価をすること。
- (2) 差額病室を希望する患者が増加する傾向にあるので、府院毎の差額病床（個室又は2人床）数の制限は緩和すること。
- (3) 基準による寝具設備加算点数を引き上げること。
- (4) 給食料、基準給食料、特別食、医療用食品等の加算点数を引き上げること。
- (5) 基準給食における特別食加算の枠を拡大すること。

#### 5. 退院及び在宅医療の促進

- (1) 退院時指導料、退院時継続看護・指導料の引き上げ。
- (2) 訪問看護料の適用範囲の拡大及び点数の引き上げ。

#### 6. 調剤関係の適正評価

- (1) 薬剤師の技術料を明確にすること。
- (2) 入院時薬歴管理料の新設。
- (3) 調剤技術基本料および調剤料の適正評価（保険調剤薬局の料金との均衡）。

#### 7. 総合病院における診療科別の初診料、再診料の算定について。

総合病院は特別な基準により知事の承認を得て運営されるもので、これが取り扱いを廃止されれば、運営に重大な支障をきたすこととなるので、各科別診療の算定を引き続き存続させること。

# 民間医療保険制度の 発足に関する要望

昭和61年3月27日

殿

社団法人

全日本病院協会



社団法人

日本医療法人協会



社団法人

日本精神病院協会



社団法人

日本病院会



本年4月から民間医療保険が、生保、損保会社によって発売されることとなった。本制度の導入は、近年における国民医療費の膨張、公的保険の役割の見直しと民間活力の導入等一連の流れの中で、公的保険に一定の限界を設けるという国の施策の補完的対策として、医療費の受益者負担部分及び公的保険の給付外の医療サービス等に対する保険制度として登場したものである。

しかしながら民間保険のあり方如何によっては、国民の医療と福祉のあり方や、その質的水準の維持向上にも重大な影響をもたらすとともに、節度ある医療費体系とその効率化を阻害するおそれもなしとしないことを憂うものである。

われわれ四病院団体は、このような施策の検討が医療供給側の団体の直接関与することなく決定されたことを遺憾とするとともに、国民医療の立場から民間医療保険制度の発足に当り、その運用と今後の医療、福祉の改善等に関し、次のとおり要望する。

## 要望事項

1. 関係官庁及び関係団体による民間医療保険制度検討の場を設置し、病院団体の代表者を委員として参加させること。

以上

顧問・参与

役職名	氏名	所属	〒	連絡先	電
顧問	神崎三益	日本赤十字社常任理事 武蔵野赤十字病院名誉院長	181	東京都三鷹市井口372(自宅)	0422-31-4
〃	東陽一	中伊豆リハビリテーションセンター 顧問	412	静岡県御殿場市二の岡1-17-26(自宅)	0550-2-1
〃	阿久津慎	名鉄病院名誉院長	451 457	愛知県名古屋西区松前町3-45 〃 南区霞町78(自宅)	052-551-6 052-811-4
〃	左奈田幸夫	病院システム開発研究所	107 155	東京都港区北青山2-5-8 ハザマビルディング内 〃 世田谷区代田4-10-16(自宅)	03-470-6 03-328-0
〃	小野田敏郎	佼成病院名誉院長	176	東京都練馬区中村南3-24(自宅)	03-990-9
〃	内藤景岳	総合病院南大阪病院院長	559 558	大阪府大阪市住之江区東加賀屋1-18-18 〃 住吉区希塚山中1-8-9(自宅)	06-685-0 06-673-4
〃	遠山豪	遠山病院院長	514 〃	三重県津市南新町17-22 〃 〃 新町1-2-36(自宅)	0592-27-6 0592-28-5
〃	羽田春晃	(社)日本医師会会長	101	東京都千代田区神田駿河台2-5	03-291-2
〃	大浜方栄	参議院議員	100	東京都千代田区永田町2-1-1 参議院議員会館733号室	03-581-3 内5
参与	佐分利輝彦	社会保険審査会委員	154	東京都世田谷区下馬6-41-7(自宅)	03-418-5
〃	大池眞澄	厚生省病院管理研究所所長	162	東京都新宿区戸山町1-21-13	03-203-5
〃	行天良雄	NHK解説委員	150 240	東京都渋谷区神南2-2-1 神奈川県横浜市保土ヶ谷区桜ヶ丘188 (自宅)	03-465-1 045-331-2
〃	内田卿子	(財)聖路加国際病院総婦長	104 174	東京都中央区明石町10-1 〃 板橋区志村1-34-7-1004(自宅)	03-541-5 03-969-7
〃	大森文子	(社)日本看護協会会長	150	東京都渋谷区神宮前5-8-2	03-400-8
〃	平岡栄一	(社)日本病院薬剤師会会長	150	東京都渋谷区渋谷2-12-15 薬学会館	03-406-0

員

職名	都道府県	氏名	病院名	経営主体	〒	所在地	電話
長	千葉県	諸橋芳夫	国保旭中央病院	市町村 自宅 東京宅	289-25 289-25 153	旭市イの1326 旭市イの1863 東京都目黒区中目黒1-1-17 恵比須苑211	04796-3-8111 04796-2-0368 03-711-6604
会長	長野県	若月俊一	佐久総合病院	厚生連 自宅	384-03 384-03	南佐久郡臼田町大字臼田197 南佐久郡臼田町大字臼田2,211-2	02678-2-3131 02678-2-2045
〃	東京都	河野稔	北品川総合病院	公益法人 自宅	140 150	品川区北品川1-23-19 渋谷区南平台4-8 アジアンション207	03-474-0023 03-463-2455
〃	大阪府	有澤源蔵	有澤総合病院	医療法人 自宅	573 573	枚方市中宮東之町12-14 枚方市大垣内町1-3-37	0720-47-2606 0720-43-8360
〃	秋田県	竹本吉夫	秋田赤十字病院	日赤 自宅	010 010	秋田市中通1-4-36 秋田市高陽青柳町14-2	0188-34-3361 0188-24-4484
理事	茨城県	登内真	土浦協同病院	厚生連 自宅	300 161	土浦市真鍋新町11-7 東京都新宿区中落合3-29-6	0298-23-3111 03-951-1982
〃	茨城県	丹野清喜	水戸済生会病院	済生会 自宅	311-41 310	水戸市双葉台3-3 水戸市見和2-25-10	0292-54-5151 0292-53-0666
〃	埼玉県	池谷亘	蕨市立病院	市町村 自宅	335 167	蕨市北町2-12-18 東京都杉並区南荻窪1-7-11	0484-32-2277 03-332-0112
〃	千葉県	鈴木憲輔	八千代中央病院	医療法人 自宅	276 276	八千代市八千代台北6-7 八千代市八千代台北11-20-3	0474-83-1555 0474-82-4732
〃	東京都	高山瑩	高山整形外科病院	医療法人 自宅	125 271	東京都葛飾区金町3-4-5 千葉県松戸市中矢切488-28	03-607-3260 0473-62-0655
〃	神奈川県	平野一彌	港北耳鼻咽喉科病院	個人 自宅	222 222	横浜市港北区菊名7-1-11 横浜市港北区菊名7-1-11	045-421-8944 045-421-8946
〃	富山県	西能正一郎	西能病院	医療法人 自宅	930 930	富山市五福1130 富山市五福2576-8	0764-41-2481 0764-32-3207
〃	静岡県	中山耕作	総合病院聖隷浜松病院	その他法人 自宅	430 433	浜松市住吉2-12-12 浜松市和合町154	0534-74-2222 0534-73-8737
〃	三重県	岡崎通	国立津病院	国 自宅	514-11 514	久居市新町1022 津市洪見町770-35	05925-5-3120 0592-25-4030
〃	京都府	岡本隆一	岡本病院	医療法人 自宅	612 612	京都市伏見区京町9-50 京都市伏見区京町9-36	075-611-1114 075-612-1313
〃	大阪府	二本杉皎	大阪赤十字病院	日赤 自宅	543 558	大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-53 大阪市住吉区帝塚山中2-8-15	06-771-5131 06-671-2306
〃	大阪府	大道学	大道病院	医療法人 自宅	536 659	大阪府城東区東中浜1-3-17 兵庫県芦屋市三条町23-5	06-967-7111 0797-34-0126
〃	高知県	近藤慶二	高知県立中央病院	都府県 自宅	780 780	高知市桜井町2-7-33 高知市愛宕山南町4-37	0888-82-1211 0888-75-4220
〃	福岡県	土屋呂武	済生会福岡総合病院	済生会 自宅	810 810	福岡市中央区天神1-3-46 福岡市博多区中洲5-1-19	092-771-8151 092-291-1253
〃	福岡県	菱山博文	福岡城南病院	個人 自宅	810 810	福岡市中央区薬院4-6-9 福岡市中央区薬院4-5-9	092-531-7031 092-531-5775

理事

役職名	都道府県	氏名	病院名	経営主体	〒	所在地	電
理事	北海道	水上 勝太郎	旭川赤十字病院	日 赤 自宅	070	旭川市曙1条1丁目	0166-22
					070	旭川市神居4条4丁目	0166-61
"	岩手県	金子 保彦	岩手県立中央病院	都府県 自宅	020 020	盛岡市本町通1-1-1 盛岡市天神町13-20	0196-55 0196-25
"	山形県	安藤 静男	山形市立病院済生館	市町村 自宅	990 990	山形市七日町1-3-26 山形市あこや町2-14-1	0236-22 0236-31
"	福島県	竹内 正也	いわき市立常磐病院	市町村 自宅	972 972	いわき市常磐上湯長谷町上ノ台2 いわき市常磐湯本町栄田71	0246-45 0246-42
"	福島県	遠藤 良一	白河厚生総合病院	厚生連 自宅	961 961	白河市横町114 白河市昭和町249-3	02482-2 02482-5
"	福島県	星 源之助	総合会津中央病院	公益法人 自宅	965 965	会津若松市一箕町大字鶴賀字 船ヶ森東181-1 会津若松市日新町6-17	0242-25 0242-27
"	埼玉県	井坂 重長	小川赤十字病院	日 赤 自宅	355-03 355	比企郡小川町小川1525 東松山市大字高坂1391-1	0493-72 0493-34
"	東京都	野辺地 篤郎	聖路加国際病院	公益法人 自宅	104 114	中央区明石町10-1 北区田端5-5-2	03-541 03-821
"	東京都	織本 正慶	織本病院	医療法人 自宅	204 177	清瀬市旭が丘1-261 練馬区東大泉3-38-10	0424-91 03-922
"	東京都	深瀬 邦雄	日比谷病院	医療法人 自宅	100 153	千代田区内幸町1-3-2 目黒区上目黒3-31-5	03-502 03-713
"	神奈川県	崖 節也	秦野赤十字病院	日 赤 自宅	257 251	秦野市桜町1-4-5 藤沢市辻堂東海岸4-14-4	0463-81 0466-34
"	神奈川県	石井 昭郎	相模原協同病院	厚生連 自宅	229 229	相模原市橋本2-8-18 相模原市相武台2-2-18	0427-72 0462-51
"	神奈川県	小野 肇	大口東総合病院	医療法人 自宅	221 231	横浜市神奈川区入江2-19-1 横浜市中区石川町2-78	045-401 045-641
"	神奈川県	篠崎 功	篠崎病院	個人 自宅	240 240	横浜市保土ヶ谷区上星川町391 横浜市保土ヶ谷区上星川町391	045-401 045-371
"	富山県	石田 礼二	富山市立富山市民病院	市町村 自宅	930-11 930-11	富山市今泉292 富山市高屋敷855-4	0764-22 0764-21
"	山梨県	許山 隆	許山胃腸病院	医療法人 自宅	400 400	甲府市中央1-12-6 甲府市中央1-12-6	0552-33 0552-33
"	長野県	小口 源一郎	昭和伊南総合病院	市町村 自宅	399-41 399-41	駒ヶ根市赤穂3230 駒ヶ根市赤穂4145	02658-2 02658-3
"	岐阜県	高橋 善彌太	岐阜県立岐阜病院	都府県 自宅	500 500	岐阜市野一色4-6-1 岐阜市光明町3-3-2 松本アイリス414号	0582-45 0582-53
"	岐阜県	藤掛 敏	藤掛第一病院	個人 自宅	500 500	岐阜市一番町1 岐阜市一番町1	0582-65 0582-65
"	静岡県	三好 秋馬	静岡県立総合病院	都府県 自宅	420 420	静岡市北安東4-27-1 静岡市緑町8-4	0542-47 0542-45
"	愛知県	寺田 守	公立陶生病院	市町村 自宅	489 489	瀬戸市西追分町160 瀬戸市南山町3-38	0561-82 0561-82
"	愛知県	岡山 義雄	岡山病院	医療法人 自宅	460 461	名古屋市中区栄1-30-1 名古屋市東区泉1-17-3 第2オレンジビル 8F-A	052-221 052-951

職名	都道府県	氏名	病院名	経営主体	〒	所在地	電話
事	愛知県	太田元次	名古屋掖済会病院	公益法人	454	名古屋市中川区松年町4-66	052-652-7711
				自宅	454	名古屋市昭和区御器所3-3-12	052-881-0306
"	大阪府	豊島正忠	済生会大阪府中津病院	済生会	530	大阪市北区芝田2-10-39	06-372-0333
				自宅	565	吹田市古江台1-20-10	06-872-0810
"	大阪府	吉岡観八	新千里病院	公益法人	565	吹田市津雲台1-1-D6	06-871-0121
				自宅	545	大阪市阿倍野区北畠3-9-11	06-661-3877
"	大阪府	加納繁美	総合加納病院	医療法人	531	大阪市大淀区天神橋7-5-26	06-351-5381
				自宅	662	西宮市霞町4-17	0798-36-6000
"	兵庫県	安東三郎	神戸市立西市民病院	市町村	653	神戸市長田区一番町2-4	078-576-5251
				自宅	658	神戸市東灘区本山北町 4-7-59-1306	078-452-7963
"	兵庫県	平野明	共立会病院	医療法人	675	加古川市米田町平津596	0794-31-0234
				自宅	675	加古川市米田町平津629	0794-32-3549
"	兵庫県	北村行彦	優生病院	個人	660	尼崎市杭瀬大崩1	06-488-1851
				自宅	664	伊丹市鈴原町7-49-2	0727-81-1785
"	兵庫県	小原知次郎	小原病院	医療法人	652	神戸市兵庫区荒田町1-9-19	078-521-1222
				自宅	652	神戸市兵庫区荒田町1-11-1	078-531-3849
"	奈良県	南益	秋津鴻池病院	医療法人	639-22	御所市池之内1064	07456-2-2058
				自宅	639-22	御所市大字柏原1604	07456-2-2765
"	和歌山県	中村了生	中村病院	医療法人	640	和歌山市友田町2-28	0734-31-0351
				自宅	640	和歌山市新内217	0734-22-5138
"	和歌山県	遠藤香苗	和歌浦中央病院	医療法人	641	和歌山市塩屋6-2-70	0734-44-1600
				自宅	642	海南市日方1188	07348-2-8035
"	岡山県	榊原宏	心臓病センター榊原病院	医療法人	700	岡山市丸の内2-1-10	0862-25-1921
				自宅	700	岡山市北方3-7-41-1	0862-22-2084
"	山口県	吉富正一	総合病院山口赤十字病院	日赤	753	山口市八幡馬場53-1	0839-23-0111
				自宅	753	山口市後河原33	0839-22-0270
"	高知県	長崎彬	高知赤十字病院	日赤	780	高知市新本町2-13-51	0888-22-1201
				自宅	780	高知市藪野2018	0888-45-7284
"	高知県	岡村一雄	岡村病院	医療法人	780	高知市入明町1-5	0888-22-5155
				自宅	780	高知市大川筋2-7-3	0888-25-2626
"	福岡県	鎌塚登喜郎	福岡赤十字病院	日赤	815	福岡市南区大楠3-1-1	092-521-1211
				自宅	815	福岡市南区筑紫丘2-18-26	092-541-4401
"	長崎県	岩永光治	十善会病院	その他法人	850	長崎市籠町7-18	0958-21-1214
				自宅	852	長崎市平野町21-9	0958-44-1984
"	熊本県	三浦義一	済生会熊本病院	済生会	860	熊本市段山本町4-38	0963-54-9163
				自宅	862	熊本市水前寺公園27-1	0963-84-0192
事	神奈川県	太田清一	太田総合病院	医療法人	210	川崎市川崎区駅前本町3-1	044-244-0131
				自宅	249	逗子市小坪4-845-15 清風庵	0468-73-3662
"	茨城県	戸川潔	茨城県立中央病院	都府県	309-17	西茨城郡友部町鯉淵6528	02967-7-1121
				自宅	311-41	水戸市河和田東原149-1	0292-52-6865
員 会 長	滋賀県	財津晃	長浜赤十字病院	日赤	526	長浜市宮前町14-7	07496-3-2111
				自宅	526	長浜市八幡東町大字下牛丸540	07496-2-2224
員 会 長	東京都	河井博	河井病院	個人	161	新宿区西落合1-27-10	03-951-9116
				自宅	170	豊島区駒込1-13-16	03-945-6068

代 議 員

役職名	都道府県	氏名	病院名	経営主体	〒	所在地	電
代議員	北海道	嘉戸達也	総合病院浦河赤十字病院	日赤	057	浦河郡浦河町東町ちのみ1-2-1	01462-2-
〃	北海道	野田 潔	白石中央病院	医療法人	062	札幌市白石区平和通3丁目北2-3	011-861-
〃	青森県	末武保政	十和田市立中央病院	市町村	034	十和田市西12番町14-8	01762-3-
〃	青森県	中村登喜雄	中村整形外科病院	個人	037	五所川原市字一ツ谷160	0173-34-
〃	岩手県	倉光 宏	北上済生会病院	済生会	024	北上市花園町1-6-8	0197-64-
〃	岩手県	栃内 巖	栃内 病 院	医療法人	020	盛岡市肴町2-28	0196-23-
〃	宮城県	丹野三男	仙台市立病院	市町村	980	仙台市清水小路3-1	0222-66-
〃	宮城県	小野寺 淳次郎	宮城健康保険病院	全社連	982	仙台市長町2-4-18	0222-48-
〃	秋田県	五十嵐 卓	仙北組合総合病院	厚生連	014	大曲市通町1-30	01876-3-
〃	秋田県	瀬戸 泰士	中通 病 院	医療法人	010	秋田市南通みその町3-15	0188-33-
〃	山形県	高橋 浩一	長井市立総合病院	市町村	993	長井市宮378	02388-4-
〃	山形県	篠田 昭男	篠田総合病院	医療法人	990	山形市桜町2-68	0236-23-
〃	福島県	本宿 尚	公立藤田総合病院	市町村	969	伊達郡国見町大字塚野目字三本木14	024585-2-
〃	福島県	渡辺 正光	渡辺内科胃腸科病院	医療法人	960	福島市北町1-40	0245-22-
〃	茨城県	三宅 和夫	県西総合病院	市町村	309	西茨城県岩瀬町大字畷田604	02967-5-
〃	茨城県	林 茂樹	水戸協同病院	厚生連	310	水戸市宮町3-2-7	0292-31-
〃	茨城県	会 沢 孝	大洗海岸病院	医療法人	311	東茨城県大洗町大貫町915	02926-7-
〃	栃木県	斉藤 達郎	大田原赤十字病院	日赤	324	大田原市住吉町2-7-3	02872-3-
〃	栃木県	松本 清一	自治医科大学附属病院	学校法人	329	河内郡南河内町大字薬師寺3311-1	0285-44-
〃	群馬県	長 洋	前橋赤十字病院	日赤	371	前橋市朝日町3-21-36	0272-24-
〃	群馬県	山崎 学	慈光会病院	医療法人	370	高崎市上佐野町786-7	0273-47-
〃	埼玉県	高木 紹夫	深谷赤十字病院	日赤	366	深谷市大字上野台856-1	0485-71-
〃	埼玉県	井上 寿一	上福岡中央病院	個人	356	上福岡市上福岡1-14-7	0492-62-
〃	千葉県	小林 愷之	小見川中央病院	市町村	289	香取郡小見川町南原地新田438	04788-2-
〃	千葉県	柏戸 正英	柏戸 病 院	医療法人	280	千葉市長州2-21-8	0472-27-
〃	東京都	丹羽直久	武蔵野赤十字病院	日赤	180	武蔵野市境南町1-26-1	0422-32-
〃	東京都	川瀬 貞臣	社保都南病院	全社連	140	品川区東大井5-8-12	03-474-2-
〃	東京都	中川 三与三	九段坂病院	共済及連合	102	千代田区九段南2-1-39	03-262-9-
〃	東京都	河井 博	河井 病 院	個人	161	新宿区西落合1-27-10	03-951-9-
〃	東京都	野村 益朗	第一 病 院	医療法人	125	葛飾区東金町4-2-10	03-607-0-
〃	東京都	金地 嘉夫	金地 病 院	個人	114	北区中里1-5-6	03-821-6-
〃	東京都	長崎 太郎	救世軍ブース記念病院	その他法人	166	杉並区和田1-40-5	03-381-7-
〃	神奈川県	藤森 一平	川崎市立川崎病院	市町村	210	川崎市川崎区新川通12-1	044-233-5-
〃	神奈川県	土屋 章	淵野辺病院	医療法人	229	相模原市淵野辺3-2-8	0427-54-2-
〃	神奈川県	山本 敬	衣笠 病 院	その他法人	238	横須賀市小矢部2-23-1	0468-52-1-
〃	神奈川県	熊田 正春	日吉 病 院	個人	223	横浜市港北区日吉本町1966	044-63-7-
〃	新潟県	寺田 一郎	水原郷病院	市町村	959	北蒲原郡水原町岡山町13-23	02506-2-
〃	新潟県	青池 卓	信楽園病院	その他法人	950	新潟市西有明町1-27	0252-67-1-
〃	富山県	吉崎 亨	富山県立中央病院	都府県	930	富山市西長江220	0764-24-1-
〃	富山県	高木 弘	高木 病 院	個人	939	高岡市戸手町3-15-11	0766-63-1-

職名	都道府県	氏名	病院名	経営主体	〒	所在地	電話
議員	石川県	道下 忠 蔵	石川県立高松病院	都府県	929	河北郡高松町字内高松ヤ 36	0762-81-1125
議員	石川県	神野 正 一	恵寿総合病院	医療法人	926	七尾市富岡町 94	07675-2-3211
議員	福井県	向野 栄	福井赤十字病院	日赤	910	福井市月見 2-4-1	0776-36-3630
議員	福井県	藤沢 正 清	福井県済生会病院	済生会	910	福井市中央 2-8-6	0776-23-1111
議員	山梨県	飯田 文 良	山梨県立中央病院	都府県	400	甲府市富士見 1-1-1	0522-53-7111
議員	山梨県	安田 宏	大月市立中央病院	市町村	401	大月市大月町花咲 1225	05542-2-1251
議員	山梨県	小野 良 蔵	小野病院	医療法人	400	甲府市若松町 4-7	0552-33-4174
議員	長野県	永田 丕	厚生連北信総合病院	厚生連	383	中野市西 1-5-63	02692-2-2151
議員	長野県	関 守	城西病院	医療法人	390	松本市城西 1-5-16	0263-33-6400
議員	岐阜県	井戸 豊 彦	岐阜赤十字病院	日赤	502	岐阜市若倉町 3-36	0582-31-2266
議員	岐阜県	木沢 彰	木沢病院	医療法人	505	美濃加茂市古井町下古井 2565	05742-5-2181
議員	静岡県	野木村 昭 平	静岡市立静岡病院	市町村	420	静岡市追手町 10-93	0542-53-3125
議員	静岡県	菊池 貞 徳	順天堂伊豆長岡病院	学校法人	410	田方郡伊豆長岡町長岡 1129	05594-8-3111
議員	愛知県	富永 健 二	名古屋第二赤十字病院	日赤	466	名古屋市昭和区妙見町 2-9	052-832-1121
議員	愛知県	吉田 孝 夫	半田市立半田病院	市町村	475	半田市東洋町 2-29	0569-22-9881
議員	愛知県	伊藤 研	総合大雄会病院	医療法人	491	一宮市桜 1-9-9	0586-72-1211
議員	愛知県	加藤 健	三九朗病院	〃	471	豊田市小坂町 7-80	0565-32-0282
議員	三重県	小山 士 郎	松阪市民病院	市町村	515	松阪市殿町 1550	0598-23-1515
議員	三重県	田中 矩 夫	田中病院	個人	519	亀山市西丸町 539	05958-2-1335
議員	滋賀県	財津 晃	長浜赤十字病院	日赤	526	長浜市宮前町 14-7	07496-3-2111
議員	滋賀県	加藤 明	琵琶湖病院	医療法人	520	大津市坂本本町 660	0775-78-2023
議員	京都府	中橋 彌 光	西陣病院	その他法人	602	京都市上京区五辻通六軒町 西入藩前町 1035	075-461-8800
議員	京都府	中野 進	京都四条病院	医療法人	600	京都市下京区四条堀川下ル	075-361-5471
議員	大阪府	武田 惇	大阪府済生会泉尾病院	済生会	551	大阪市大正区泉尾 4-13-20	06-552-0091
議員	大阪府	西田 茂 樹	済生会野江病院	済生会	536	大阪市城東区今福東 2-2-33	06-932-0401
議員	大阪府	中野 博 光	中野小児病院	医療法人	535	大阪市旭区新森 4-13-17	06-952-4771
議員	大阪府	牧 安 孝	牧病院	〃	535	大阪市旭区清水 3-28-17	06-953-0120
議員	大阪府	岸口 繁	府中病院	〃	594	和泉市肥子町 1-10-17	0725-41-1646
議員	兵庫県	岡田 康 男	姫路赤十字病院	日赤	670	姫路市龍野町 5-30-1	0792-94-2251
議員	兵庫県	依藤 省 三	済生会兵庫県病院	済生会	651	神戸市中央区日暮通 5-5-17	078-251-8558
議員	兵庫県	安田 俊 吉	広野高原病院	医療法人	673-02	神戸市西区北山台 3-1-1	078-994-1155
議員	兵庫県	元原 利 武	明舞中央病院	〃	673	明石市松が丘 4-1-32	078-917-2020
議員	兵庫県	多胡 檜 祐	城南多胡病院	〃	670	姫路市本町 15	0792-25-2211
議員	奈良県	久米 道 雄	済生会奈良病院	済生会	630	奈良市杉ヶ町 24	0742-22-6881
議員	奈良県	沢井 陽 一	沢井病院	公益法人	630	奈良市船橋町 8	0742-23-3086
議員	和歌山県	前川 暢 夫	和歌山赤十字病院	日赤	640	和歌山市小松原通り 4-1	0734-22-4171
議員	和歌山県	瀬藤 光 仁	瀬藤病院	医療法人	640	和歌山市岡山丁 9	0734-24-3181
議員	和歌山県	月山 和 男	月山病院	個人	640	和歌山市小松原通り 1-3	0734-23-2300

役職名	都道府県	氏名	病院名	経営主体	〒	所在地	電
代議員	鳥取県	岩宮 緑	鳥取県立中央病院	都府県	680	鳥取市江津730	0857-26
〃	鳥取県	野島 鉄之助	野島病院	医療法人	682	倉吉市瀬崎町2714-1	08582-2
〃	島根県	杉浦 純彦	島根県立中央病院	都府県	693	出雲市今市町116	0853-22
〃	島根県	森本 正紀	森本産婦人科病院	個人	690	松江市雑賀本町82	0852-25
〃	岡山県	秋本 若二	岡山赤十字病院	日赤	700	岡山市丸の内1-6-20	0862-22
〃	岡山県	宮本 祥郎	津山中央病院	公益法人	708	津山市二階町67	08682-2
〃	岡山県	木田 恵三	新見中央病院	医療法人	718	新見市新見827-1	08677-2
〃	広島県	佐々木 甲子郎	社保広島市民病院	市町村	730	広島市中区基町7-33	082-221
〃	広島県	岡田 泰二	岡田病院	個人	734	広島市南区字品町26-19	0822-55
〃	山口県	西村 静一	社保下関厚生病院	全社連	750	下関市上新地町3-3-8	0832-31
〃	山口県	村田 寿太郎	村田博愛病院	医療法人	747	防府市三田尻1-1-24	0835-22
〃	徳島県	中西 修	中西病院	〃	770	徳島市中通町1-29	0886-26
〃	香川県	妹尾 利夫	高松病院	共済及連合	760	高松市天神前4-18	0878-61
〃	香川県	藤原 憲和	総合病院回生病院	医療法人	762	坂出市室町3-5-28	08774-6
〃	愛媛県	土屋 定敏	松山赤十字病院	日赤	790	松山市文京町1	0899-24
〃	愛媛県	宮田 信熙	松山市民病院	公益法人	790	松山市大手町2-6-5	0899-43
〃	高知県	山本 彰芳	高知市立市民病院	市町村	780	高知市丸ノ内1-7-45	0888-22
〃	高知県	田中 稔正	田中整形外科病院	医療法人	780	高知市上町3-2-6	0888-22
〃	福岡県	兵働 貞夫	浜の町病院	共済及連合	810	福岡市中央区舞鶴3-5-27	092-721
〃	福岡県	原 安彦	香椎原病院	医療法人	813	福岡市東区香椎3-3-1	092-662
〃	福岡県	井手 一郎	聖マリア病院	〃	830	久留米市津福本町422	0942-35
〃	福岡県	佐々木 勇之進	福岡間病院	〃	811-32	宗像郡福岡町2310	0940-42
〃	佐賀県	井口 潔	佐賀県立病院好生館	都府県	840	佐賀市水ヶ江1-12-9	0952-24
〃	佐賀県	山口 弾之	至誠会病院	医療法人	840	佐賀市田代2-7-24	0952-24
〃	長崎県	藤田 長利	日本赤十字社長崎原爆病院	日赤	852	長崎市茂里町3-15	0958-26
〃	長崎県	福井 順	福井病院	医療法人	851	長崎市深堀町1-11-54	0958-71
〃	熊本県	松金 秀暢	熊本赤十字病院	日赤	862	熊本市長嶺町2255-209	0963-84
〃	熊本県	金澤 幸一	青磁野病院	医療法人	860	熊本市島崎2-22-15	0963-54
〃	大分県	岡村 幹雄	大分赤十字病院	日赤	870	大分市千代町3-2-37	0975-32
〃	宮崎県	永田 高見	宮崎県立延岡病院	都府県	882	延岡市新小路2-1-10	0982-32
〃	鹿児島県	時任 純孝	鹿児島市立病院	市町村	892	鹿児島市加治屋町20-17	0992-24
〃	沖縄県	比嘉 實	沖縄赤十字病院	日赤	900	那覇市古波蔵113	0988-53

委員会

委員会名	役職名	氏名	病院名	電話
療制度委員会	委員長	丹野 清喜	水戸済生会病院	0292-54-5151
	副委員長	小野 肇	大口東総合病院	045-401-2411
	副委員長	小西 宏	済生会神奈川県支部	045-662-4721
院管理運営委員会	委員長	若月 俊一	佐久総合病院	02678-2-3131
	副委員長	岡本 隆一	岡本病院	075-611-1114
先計調査部会	部長	大道 学	大道病院	06-967-7111
病院情報センター	委員長	三宅 浩之	関東通信病院	03-448-6537
医療事故対策部会	部長	菱山 博文	福岡城南病院	092-531-7031
防災対策部会	部長	小原 知次郎	小原病院	078-521-1222
労務、福利厚生、物品部会	委員長	岡本 隆一	岡本病院	075-611-1114
務医対策委員会	委員長	土屋 呂武	済生会福岡総合病院	092-771-8151
育委員会	委員長	竹本 吉夫	秋田赤十字病院	0188-34-3361
	副委員長	登内 真	土浦協同病院	0298-23-3111
信教育委員会	委員長	高橋 政祺	杏林大学医学部	0422-47-5511
床予防医学委員会	委員長	二本杉 皎	大阪赤十字病院	06-771-5131
会保険委員会	委員長	北村 行彦	優生病院	06-488-1851
	副委員長	近藤 慶彦	高知県立中央病院	0888-82-1211
療経済委員会	委員長	有澤 源蔵	有澤総合病院	0720-47-2606
	副委員長	鈴木 憲輔	八千代中央病院	0474-83-1555
際委員会	委員長	吉岡 観八	新千里病院	06-871-0121
	副委員長	紀伊国 献三	筑波大学	0298-53-2111
織委員会	委員長	岡山 義雄	岡山病院	052-221-1851
術委員会	委員長	岡崎 通	国立津病院	05925-5-3120
	副委員長	中山 耕作	総合病院聖隷浜松病院	0534-74-2222
学術図書企画委員会	委員長	中山 耕作	総合病院聖隷浜松病院	0534-74-2222
雑誌編集委員会	委員長	北原 哲夫	東京通信病院	(自) 03-328-5610
報委員会	委員長	高山 正瑩	高山整形外科病院	03-607-3260
	副委員長	西能 正一郎	西能病院	0764-41-2481
規程検討委員会	委員長	池谷 巨	蕨市立病院	0484-32-3111
	副委員長	大道 学	大道病院	06-967-7111
務担当		平野 一彌	港北耳鼻咽喉科病院	045-421-8944
療モダンホスピタルショウ	担当理事	河野 稔	北品川総合病院	03-474-0023
企画委員会	委員長	三宅 浩之	関東通信病院	03-448-6537
実行委員会	委員長	竹本 吉夫	秋田赤十字病院	0188-34-3361
会	担当理事	土屋 呂武	済生会福岡総合病院	092-771-8151
日本病院学会	担当理事	中山 耕作	総合病院聖隷浜松病院	0534-74-2222
日本人間ドック学会	担当理事	二本杉 皎	大阪赤十字病院	06-771-5131
日本診療録管理学会	担当委員長	高橋 政祺	杏林大学医学部	0422-47-5511
料職業紹介事業	担当理事	中山 耕作	総合病院聖隷浜松病院	0534-74-2222
院診療報酬適正化推進会議	代表委員	諸橋 芳夫	国保旭中央病院	04796-3-8111
推進委員会	副代表委員	有澤 源蔵	有澤総合病院	0720-47-2606
病院団体連絡協議会	代表委員	河野 稔	北品川総合病院	03-474-0023

社団法人 日本病院会委員会委員名簿

1. 医療制度委員会

丹野清喜	委員長	水戸済生会病院	茨城県	0292-54-5151
小野肇	副委員長	大口東総合病院	神奈川県	045-401-2411
小西宏	副委員長	済生会神奈川県支部	神奈川県	045-662-4721
左奈田幸夫	委員	病院システム開発研究所	東京都	03-328-0830
井上昌彦	委員	北里大学	東京都	03-444-6161
尾崎恭輔	委員	東海大学	神奈川県	0463-93-1121
大野松次	委員	京浜総合病院	東京都	044-777-3251
佐分利輝彦	委員	厚生省病院管理研究所	東京都	03-203-5327
紀伊国献三	委員	筑波大学	茨城県	0298-53-2111
行天良雄	委員	日本放送協会	東京都	03-465-1111
荒井蝶子	委員	聖路加看護大学	東京都	03-543-6391
大森文子	委員	日本看護協会	東京都	03-400-8331
原俊夫	委員	公立昭和病院	東京都	0424-61-0052

2. 病院管理運営委員会

若月俊一	委員長	佐久総合病院	長野県	02678-2-3131
岡本隆一	副委員長	岡本病院	京都府	075-611-1114
大道学	委員	大道病院	大阪府	06-962-9621
土屋呂武	委員	済生会福岡総合病院	福岡県	092-771-8151
菱山博文	委員	福岡城南病院	福岡県	092-531-7031
小原知次郎	委員	小原病院	兵庫県	078-521-1222
寺田一郎	委員	水原郷病院	新潟県	02506-2-2780
野辺地篤郎	委員	聖路加国際病院	東京都	03-541-5151

①統計調査部会

大道学	部会長	大道病院	大阪府	06-962-9621
三宅浩之	委員	関東逋信病院	東京都	03-448-6537

牧 安 孝 委 員	牧 病 院	大 阪 府	06 - 953-0120
関 田 康 慶 委 員	東 北 大 学	宮 城 県	0222-74-1111
遠 藤 香 苗 委 員	和 歌 浦 中 央 病 院	和 歌 山 県	0734-44-1600
飯 田 信 吾 委 員	北 品 川 総 合 病 院	東 京 都	03 - 474-5861

## ②医療事故対策部会

菱 山 博 文 部 会 長	福 岡 城 南 病 院	福 岡 県	092-531-7031
藤 森 暢 路 委 員	藤 森 病 院	兵 庫 県	0792-24-1357
勝 守 昭 雄 委 員	北 品 川 総 合 病 院	東 京 都	03 - 474-5861
遠 藤 良 一 委 員	白 河 厚 生 総 合 病 院	福 島 県	02482-2-2211
細 田 健 二 委 員	関 川 総 合 病 院	東 京 都	03 - 803-5151
前 田 マスヨ 委 員	東 海 大 学 病 院	神 奈 川 県	0463-93-1121

## ③防災対策部会

小 原 知 次 郎 部 会 長	小 原 病 院	兵 庫 県	078-521-1222
上 林 三 郎 委 員	聖 路 加 国 際 病 院	東 京 都	03 - 541-5151
倉 持 一 雄 委 員	自 治 医 科 大 学	栃 木 県	02854-4-2111
松 井 永 二 委 員	大 垣 市 民 病 院	岐 阜 県	0584-81-3341
入 山 和 太 次 委 員	武 蔵 野 赤 十 字 病 院	東 京 都	0422-32-3111
渊 沢 み さ え 委 員	牧 田 総 合 病 院	東 京 都	03 - 762-4671
植 田 義 雄 (協 力 委 員)	恵 寿 総 合 病 院	石 川 県	07675-2-3211

## ④労務・福利厚生・物品部会

岡 本 隆 一 部 会 長	岡 本 病 院	京 都 府	075-611-1114
加 納 繁 美 副 部 会 長	総 合 加 納 病 院	大 阪 府	06 - 351-5381
中 野 進 委 員	京 都 四 条 病 院	京 都 府	075-361-5471
本 宿 尚 委 員	公 立 藤 田 総 合 病 院	福 島 県	024585 - 2121
星 源 之 助 委 員	総 合 会 津 中 央 病 院	福 島 県	0242-25-1515
石 橋 秀 雄 委 員	目 蒲 病 院	東 京 都	03 - 759-8885

石山 稔	委員	聖路加国際病院	東京都	03-541-5151
緒方 廣市	委員	武蔵野赤十字病院	東京都	0422-32-3111

### 3. 勤務医対策委員会

土屋 呂武	部会長	済生会福岡総合病院	福岡県	092-771-8151
野辺地 篤郎	委員	聖路加国際病院	東京都	03-541-5151
安東 三郎	委員	神戸市立西市民病院	兵庫県	078-576-5251
榊原 宏	委員	榊原十全病院	岡山県	0862-25-1921
石井 昭郎	委員	相模原協同病院	神奈川県	0427-72-4291
鍬塚 登喜郎	委員	福岡赤十字病院	福岡県	092-521-1211
牧野 永城	委員	聖路加国際病院	東京都	03-541-5151

### 4. 教育委員会

竹本 吉夫	委員長	秋田赤十字病院	秋田県	0188-34-3361
登内 真	副委員長	土浦協同病院	茨城県	0298-23-3111
三宅 史郎	委員	日本大学	東京都	03-972-8111
川北 祐幸	委員	順天堂医院	東京都	03-813-3111
石橋 秀雄	委員	目蒲病院	東京都	03-759-8885
太田 元次	委員	名古屋掖済会病院	愛知県	052-652-7711
中村 了生	委員	中村病院	和歌山県	0734 31-0351
三宅 浩之	委員	関東通信病院	東京都	03-448-6537
井上 幸子	委員	日本看護協会	東京都	03-400-8331
内田 卿子	委員	聖路加国際病院	東京都	03-541-5151
米田 啓二	委員	全国自治体病院協議会	東京都	03-261-8555
黒田 幸男	委員	虎の門病院	東京都	03-583-6871

## 5. 通信教育委員会

高橋政祺	委員長	杏林大学医学部	東京都	0422-47-5511
竹村喬	副委員長	大阪府立 母子保健総合医療センター	大阪府	0725-56-1220
犬塚貞光	委員	福岡大学病院	福岡県	092-801-1011
大町文子	委員	元日本バプテスト病院	京都府	(自宅) 075-701-8016
落合勝一郎	委員	東京文化学園	東京都	03 - 381-0196
笠井良一	委員	元日本バプテスト病院	京都府	(自宅) 075-451-7035
栗田静枝	委員	元聖路加国際病院	東京都	(自宅) 03 - 402-5613
酒井隆子	委員	京都市立病院	京都府	075-311-5311
一条勝夫	委員	自治医科大学	栃木県	02854-4-2111

## 退院時疾病統計の書式標準化検討委員会

高橋政祺	委員長	杏林大学医学部	東京都	0422-47-5511
一条勝夫	委員	自治医科大学	栃木県	02854-4-2111
石塚隆男	委員	医療情報システム 開発センター	東京都	03 - 586-6321
小野丞二	委員	東邦大学医学部	東京都	03 - 762-4151
財津晃	委員	長浜赤十字病院	滋賀県	07496-3-2111
仲村英一	委員	厚生省統計情報部	東京都	03 - 260-3181

## 6. 医療経済委員会

有澤源蔵	委員長	有澤総合病院	大阪府	0720-47-2606
鈴木憲輔	副委員長	八千代中央病院	千葉県	0474-83-1555
岡山義雄	委員	岡山病院	愛知県	052-221-1851
深瀬邦雄	委員	日比谷病院	東京都	03 - 502-7231
岩井宏方	委員	岩井総合病院	東京都	03 - 658-2111
余語栄三	委員	余語病院	愛知県	052-851-6255

酒泉春雄	委員	河北総合病院	東京都	03-339-2121
蘭部雅一	委員	兵庫医科大学	兵庫県	0798-45-6500
伊藤寛	委員	伊藤会計事務所	愛知県	052-541-0166
石井孝宜	委員	森会計共同事務所	東京都	03-230-3861

7. 国際委員会 ○=日中友好部会 □=倫理部会

□吉岡観八	委員長	新千里病院	大阪府	06-871-0121
○諸橋芳夫	委員	国保旭中央病院	千葉県	04796-3-8111
□紀伊国献三	副委員長	筑波大学	茨城県	0298-53-2111
□高橋勝三	委員	武蔵野赤十字病院	東京都	0422-32-3111
関武矩	委員	聖路加国際病院	東京都	03-541-5151
久保文苗	委員	日本医薬情報センター	東京都	03-406-1811
三宅浩之	委員	関東逋信病院	東京都	03-448-6537
高橋政祺	委員	杏林大学	東京都	0422-47-5511
□波多野誠	委員	九段坂病院	東京都	03-262-9191
国重信彦	委員	佼成病院	東京都	03-383-1281
□左奈田幸夫	委員	病院システム開発研究所	東京都	03-328-0830
遠山豪	委員	遠山病院	三重県	0592-27-6171
長澤泰	委員	厚生省病院管理研究所	東京都	03-203-5327
○有澤源蔵	委員	有澤総合病院	大阪府	0720-47-2606
○太田元次	委員	名古屋掖済会病院	愛知県	052-652-7711
○熊田正春	委員	日吉病院	神奈川県	044-63-7373

8. 臨床予防医学委員会

二本杉皎	委員長	大阪赤十字病院	大阪府	06-771-5131
鈴木豊明	副委員長	東京警察病院	東京都	03-263-1371
藤間弘行	副委員長	藤間病院	埼玉県	0485-22-0600
安藤幸夫	委員	聖路加国際病院	東京都	03-541-5151

飯田 晶	委員	東芝中央病院	東京都	03-764-0511
宇津典彦	委員	国立久留米病院	福岡県	0942-21-4571
大川日出夫	委員	日本鋼管病院	神奈川県	044-333-5591
小関忠尚	委員	京都第二赤十字病院	京都府	075-231-5171
金澤鉄男	委員	青森県立中央病院	青森県	0177-26-8302
清瀬 闊	委員	三井記念病院	東京都	03-862-9111
笹森典雄	委員	牧田総合病院	東京都	03-762-4671
高橋春雄	委員	愛知県総合保健センター	愛知県	052-962-5371
田中剛二	委員	東京都済生会中央病院	東京都	03-451-8211
丹野三男	委員	仙台市立病院	宮城県	0222-66-7111
寺田由紀夫	委員	大阪赤十字病院	大阪府	06-771-5131
日野原重明	委員	聖路加看護大学	東京都	03-543-6391
松岡 研	委員	P L 病院	大阪府	07212-4-3100
三木 徹	委員	丸山病院	兵庫県	078-642-1031

## 9. 社会保険委員会

北村行彦	委員長	優生病院	兵庫県	06-488-1851
近藤慶二	副委員長	高知県立中央病院	高知県	0888-82-1211
篠崎 功	委員	篠崎病院	神奈川県	045-371-0038
元原利武	委員	明舞中央病院	兵庫県	078-917-2020
牧 安孝	委員	牧 病院	大阪府	06-953-0120
高橋政夫	委員	日本赤十字社	東京都	03-438-1311
小笠原道夫	委員	河北総合病院	東京都	03-339-2121
一条勝夫	委員	自治医科大学	栃木県	02854-4-2111
中橋彌光	委員	西陣病院	京都府	075-461-8800
三上 晃	委員	三井記念病院	東京都	(和泉クリニック) 03-866-8432

## 10. 組 織 委 員 会

岡 山 義 雄	委 員 長	岡 山 病 院	愛 知 県	052-221-1851
池 谷 亘	委 員	蕨 市 立 病 院	埼 玉 県	0484-32-2277
財 津 晃	委 員	長 浜 赤 十 字 病 院	滋 賀 県	07496-3-2111
小 野 肇	委 員	大 口 東 総 合 病 院	神 奈 川 県	045-401-3861
加 納 繁 美	委 員	総 合 加 納 病 院	大 阪 府	06 - 351-5381
榊 原 宏	委 員	心 臓 病 セ ン タ ー 榊 原 病 院	岡 山 県	0862-25-1921
岩 永 光 治	委 員	十 善 会 病 院	長 崎 県	0958-21-1214
深 瀬 邦 雄	委 員	日 比 谷 病 院	東 京 都	03 - 502-7231
北 村 行 彦	委 員	優 生 病 院	兵 庫 県	06 - 488-1851
星 源 之 助	委 員	総 合 会 津 中 央 病 院	福 島 県	0242-25-1515
高 山 瑩	委 員	高 山 整 形 外 科 病 院	東 京 都	03 - 607-3260
篠 崎 功	委 員	篠 崎 病 院	神 奈 川 県	045-371-0038
平 野 明	委 員	共 立 会 病 院	兵 庫 県	0794-31-0234

## 11. 学 術 委 員 会

岡 崎 通	委 員 長	国 立 津 病 院	三 重 県	05925-5-3120
中 山 耕 作	副 委 員 長	聖 隷 浜 松 病 院	静 岡 県	0534-74-2222
北 原 哲 夫	委 員	元 東 京 通 信 病 院	東 京 都	(自 宅) 03 - 328-5610
一 条 勝 夫	委 員	自 治 医 科 大 学	栃 木 県	02854-4-2111
高 橋 政 祺	委 員	杏 林 大 学	東 京 都	0422-47-5511
三 宅 史 郎	委 員	日 本 大 学	東 京 都	03 - 972-8111
三 宅 浩 之	委 員	関 東 通 信 病 院	東 京 都	03 - 448-6537
山 本 修	委 員	都 立 看 護 専 門 学 校	東 京 都	(自 宅) 03 - 941-9321
鎌 田 利 雄	委 員	北 品 川 総 合 病 院	東 京 都	03 - 474-7730
渡 辺 進	相 談 役	成 田 赤 十 字 病 院	千 葉 県	0476-22-2311

### ①学術図書企画委員会

中山耕作	委員長	聖隷浜松病院	静岡県	0534-74-2222
一条勝夫	副委員長	自治医科大学	栃木県	02854-4-2111

### ②雑誌編集委員会

北原哲夫	委員長	元東京通信病院	東京都	(自宅) 03-328-5610
一条勝夫	副委員長	自治医科大学	栃木県	02854-4-2111

## 12. 広報委員会

高山瑩	委員長	高山整形外科病院	東京都	03-607-3260
西能正一郎	副委員長	西能病院	富山県	0764-41-2481
岸口繁	委員	府中病院	大阪府	0725-41-1646
平野井直英	委員	東芝中央病院	東京都	03-764-0511
浅見信子	委員	蒲田総合病院	東京都	03-738-8221
宇井美代子	委員	聖路加国際病院	東京都	03-541-5151
木村千枝子	委員	東京日立病院	東京都	03-831-2181
後藤清	委員	駿河台日本大学病院	東京都	03-293-1711
平和夫	委員	東京都済生会中央病院	東京都	03-451-8211
三上晃	委員	三井記念病院	東京都	(和泉クリニック) 03-866-8432
三竹年世子	委員	杏林大学医学部附属病院	東京都	0422-47-5511
行天良雄	参与	日本放送協会	東京都	03-465-1111

## 13. 諸規定検討委員会

池谷巨	委員長	蕨市立病院	埼玉県	0484-32-2277
大道学	副委員長	大道病院	大阪府	06-962-9621
大野松次	委員	京浜総合病院	神奈川県	044-777-3251
高山瑩	委員	高山整形外科病院	東京都	03-607-3260

登内 真	委員	土浦協同病院	茨城県	0298-23-3111
寺田 守	委員	公立陶生病院	愛知県	0561-82-5101
河井 博	委員	河井病院	東京都	03-951-9116
高橋 彦太郎	委員	日本病院会	東京都	03-265-0077

## 〔特別委員会〕

### 1. 病院情報センター運営委員会

三宅 浩之	委員長	関東通信病院	東京都	03-448-6537
青木 禧和	委員	南大阪病院	大阪府	06-685-0221
飯田 信吾	委員	北品川総合病院	東京都	03-474-0023
池田 博	委員	前慈恵医大付属病院	東京都	0427-34-4898
一条 勝夫	委員	自治医科大学	栃木県	02854-4-2111
岡田 行雄	委員	日本通信協力会	東京都	03-468-6331
里村 洋一	委員	千葉大付属病院	千葉県	0472-22-7171
土井 義行	委員	舞子台病院	兵庫県	078-782-0055
日西 義之	委員	大阪回生病院	大阪府	06-371-6234

### 2. 国際モダンホスピタルショウ

河野 稔	担当副会長	北品川総合病院	東京都	03-474-5861
竹本 吉夫	実行委員長	秋田赤十字病院	秋田県	0188-34-3361
三宅 浩之	企画委員長	関東通信病院	東京都	03-448-6537

〔他団体との連携委員〕

1. 病院診療報酬適正化推進会議

諸橋芳夫	代表委員	国保旭中央病院	千葉県	04796-3-8111
有澤源蔵	委員	有澤総合病院	大阪府	0720-47-2606
竹本吉夫	委員	秋田赤十字病院	秋田県	0188-34-3361
登内真	委員	土浦協同病院	茨城県	0298-23-3111
北村行彦	委員	優生病院	兵庫県	06-488-1851
小笠原道夫	委員	河北総合病院	東京都	03-339-2121
三宅浩之	委員	関東通信病院	東京都	03-448-6537

2. 四病院団体連絡協議会

総合部会

諸橋芳夫	委員	国保旭中央病院	千葉県	04796-3-8111
河野稔	委員	北品川総合病院	東京都	03-474-5861
有澤源蔵	委員	有澤総合病院	大阪府	0720-47-2606

税制委員会

有澤源蔵	委員	有澤総合病院	大阪府	0720-47-2606
石井孝宜	委員	森会計共同事務所	東京都	03-230-3808

医療法委員会

池谷亘	委員	蕨市立病院	埼玉県	0484-32-2277
大道学	委員	大道病院	大阪府	06-967-7111
岡山義雄	委員	岡山病院	愛知県	052-221-1851
藤掛敏	委員	藤掛第一病院	岐阜県	0582-65-5255

医療経済委員会

岡本隆一	委員	岡本病院	京都府	075-611-1114
鈴木憲輔	委員	八千代中央病院	千葉県	0474-83-1555
北村行彦	委員	優生病院	兵庫県	06-488-1851

# 会 員 状 況

昭和61年3月31日現在

都道府県名	会 員 数	都道府県名	会 員 数	都道府県名	会 員 数
北海道	43	新潟	53	鳥取	11
青森	16	静岡	62	島根	12
岩手	13	愛知	120	山口	28
秋田	25	岐阜	24	香川	11
山形	10	三重	35	徳島	3
宮城	19	滋賀	21	高知	40
福島	30	京都	57	愛媛	25
栃木	15	大阪	167	福岡	71
茨城	41	奈良	31	佐賀	6
群馬	31	和歌山	71	長崎	37
埼玉	45	兵庫	153	熊本	16
千葉	85	富山	20	大分	10
神奈川	99	石川	16	宮崎	11
東京	238	福井	9	鹿児島	10
山梨	31	岡山	75	沖縄	7
長野	22	広島	39	合 計	2,014

	昭和60年4月1日	昭和61年3月31日	増 減
正 会 員	1,900	2,014	+114
賛 助 会 員 A	153	151	△ 2
B	134	137	+ 3
C	10	1	△ 9
D	97	93	△ 4
計	2,294	2,396	+102